平成 29 年度本部事業報告書

社会福祉法人　ささゆり会

平成 29 年度は、4 月から社会福祉法が改正され、新しい評議員、理事員、監事の体制で出発の年でした。昨年よりも改正に伴う理事会、監事会、評議員会の運営を理解するのに時間を要しました。この新しい体制のもと運営の透明性の確保に努めていきます。それと同時に、各々の事業所でも同様に透明性の確保に努めてまいります。姫路市の平成 29 年度高齢者福祉施設の整備促進事業に採択され、姫路市西庄で地域密着型特別養護老人ホームサンライフ西庄・ショートステイ・グループホームの竣工式を平成 30 年 3 月 26 日に行い、特別養護老人ホームサンライフ西庄を 4 月 1 日に開設致しました。

8 月 1 日にはベトナムからの EPA(経済連携協定)候補生が各事業所に配属になりました。法人全体で 11 名の EPA の候補生が来ました。サンライフ御立に 5 名、サンライフ土山に 4 名、サンライフ魚崎に 2 名配属になりました。EPA 候補生の日本語及び介護福祉士の資格取得の勉強にも力を入れています。

介護現場では、介護の見える化を進める為に iPad mini の導入を行いました。サンライフ西庄では、超低床ベッド、並びに ICT の導入を促進し、カメラ、眠りスキャン（心拍数、脈拍)、iPad mini を導入しています。業務中に iPad mini で記録を行い、業務改善を行います。今までの仕事方法を見直すことで、職場環境を整え、改善に向けた取り組みを行います。平成 30 年 6 月からは、子供食堂「リストランテ・ヴォーノ」を開設し、地域貢献を行いたいと考えています。そして、介護の質を高め、利用者様、家族様から安心感・信頼感を持っていただくために接遇の向上を推進します。

介護看護人材の確保は、益々難しくなっています。新入職員は、姫路で 7 名、魚崎 5 名がささゆり会に入社しました。

H29 年度ささゆり会重点課題は、事業計画に挙げた下記 3 つの重点項目である。

1. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実
    - 西庄の施設開設の準備
    - サンライフ土山居宅介護支援事業所の開設準備
2. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築
    - ICT 導入による業務改善
3. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保
    - 新卒者、中途者採用促進の為、専門担当者の配置推進
    - EPA(経済連携協定)の研修生の採用と育成

以下、平成 29 年度の事業推進結果を主要運営の経緯・施設経営と介護サービス・会議と大別して、その概要を報告する。

Ⅰ. 主要運営の経緯

1. 定款の変更と諸規程の改正

H29. 5. 30　社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定及び改定について
H29. 6. 9　社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定及び改定について
H29. 6. 27　定款施行細則の承認について
H29. 6. 27　定款一部変更について
H29. 6. 27　定款変更、定款施行細則の変更の承認について
H29. 6. 27　社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
H29. 8. 22　社会福祉法人ささゆり会定款変更の承認について
H29. 8. 22　社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定及び改定について
H29. 10. 13　社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定
H29. 11. 24　社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
H29. 12. 7　社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
H30. 12. 21　社会福祉法人ささゆり会定款変更について
H30. 12. 21　社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
H30. 12. 25　社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について
H30. 1. 10　社会福祉法人ささゆり会定款変更について

2. その他行事等の主要運営

H29. 4. 1　サンライフ魚崎入社式
H29. 4. 28　第 1 回理事会　サンライフ西庄（仮称）建設に係る入札参加業者の選定
H29. 5. 20　御立祭り
H29. 5. 30　第 2 回理事会　サンライフ西庄（仮称）建設に係る落札予定価格決定
サンライフ西庄（仮称）給水管引込工事承認
サンライフ御立２階、３階、４階カーテン取替入札参加業者の選定
第 3 回理事会　サンライフ西庄（仮称）建設に係る入札（姫路市立ち合い）
H29. 6. 2　第 1 回監事会　平成 28 年度事業報告・決算などの監査
H29. 6. 9　第 4 回理事会　平成 28 年度監事監査報告
新役員の候補者の評議員会へ提出の議案の承認
平成 28 年度本部・施設事業報告案承認
平成 28 年度法人・拠点区分会計決算案承認
サンライフ御立１階、２階、３階、４階防炎カーテン取替工事一式入札
サンライフ魚崎業務用洗濯機入札参加業者の選定
H29. 6. 16　第 5 回理事会　魚崎業務用洗濯機入札
H29. 6. 22　苦情相談委員会　第三者評価委員会
H29. 6. 27　定時評議委員会　H28 年度決算承認及び事業報告

新役員（理事・監事）の選任
定款施行細則の承認
社会福祉充実残高の承認及び計画の承認
定款一部変更について

第6回理事会　理事長・副理事長（業務執行理事）の選任
社会福祉充実残高の承認及び計画の承認
定款変更、定款施行細則の変更の承認
社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定
役員の報酬等基準の承認
デイサービス御立のチェアインバス・搬送車・浴室埋め立て工事の業者選定

H29.8.22　第7回理事会　サンライフ西庄（仮称）新築工事厨房機器一式購入入札
デイサービスセンターサンライフ御立チェアインバス及び浴槽工事一式入札
社会福祉法人ささゆり会定款変更の承認

H29.9.9　敬老会

H29.10.13　第8回理事会　サンライフ西庄（仮称）見守りカメラ・ナースコール・電話機器の入札
訪問介護の自費介護サービス導入

H29.10.28　第3回HCC（播磨介護技術競技大会）

H29.11.22　第1回介護保険推進委員会

H29.11.24　第9回理事会　サンライフ西庄（仮称）備品入札（姫路市立ち合い）

H29.12.7　第10回理事会　サンライフ西庄（仮称）備品入札

H29.12.15　サンライフ御立クリスマス会(15:00～)

H29.12.21　第11回理事会　サンライフ西庄（仮称）備品入札（姫路市立ち合い）
上半期事業報告・会計報告
補正予算書について
臨時評議員会の開催等
顔認証カメラ随意契約

H30.1.10　第1回臨時評議員会　平成29年度第1次補正予算について
平成29年度上半期会計報告について〃

H30.1.12　姫路市指導監査（10：30～16：30）

H30.1.25　第12回理事会　姫路市西庄甲83番2の土地購入
評議員変更に伴う評議員選任・解任委員会の開催〃

H30.3.9　第2回介護保険推進委員会

H30.3.13　第1回HDC（播磨料理競技大会）

H30.3.16　第13回理事会　H30年度本部・施設事業計画案承認
H29年度法人・拠点区分会計補正予算案承認
H30年度法人・拠点区分会計予算案承認
社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定及び改正
社会福祉法人ささゆり会資産運用規程の変更
社会福祉法人ささゆり会法律顧問契約の提案
東京都江戸川区特養建設予定地について

H30.3.26　第2回臨時評議員会　平成30年度本部・施設事業計画案承認
平成29年度法人・拠点区分会計補正予算案承認
平成30年度法人・拠点区分会計予算案承認
社会福祉法人ささゆり会（姫路事業所）　入社式
サンライフ西庄　竣工式

Ⅱ.施設経営と介護サービス

1. 施設運営の改革に不可欠な諸事業の充実

平成 30 年 4 月 1 日よりサンライフ西庄を開設しました。H29 年 5 月 30 日の入札で立建設が落札。平成 29 年 6 月にサンライフ土山居宅の開設。

2. 主体的経営の基盤強化に不可欠なシステム及び仕組みの構築

サンライフ西庄に iPad mini で業務を行えるための設備を施行しました。また、入所者様の身体状況が分かるために ICT を導入しました。日々の記録から業務のオペレーション等、全く新しい仕組みをサンライフ西庄にて始めています。サンライフ御立でも iPad mini の導入を行い、業務改善を行なっています。

3. 施設の運営や活動に不可欠な人材育成と確保

新入職員の入社は、姫路が 7 名、魚崎 5 名となっています。EPA 候補生は、姫路 9 名、魚崎 5 名の入社となりました。前年度と比べて、高校生、大学生とも入社人数が減って来ているように思えます。

4.地域貢献事事業等の推進（介護実習等）

姫路事業所

受　入　先	人数
神戸学院大学	3
兵庫県立飾磨高等学校	2
姫路保育福祉専門学校	2
神戸医療福祉大学	5
NHK 学院	1
関西福祉大学	1
兵庫県立龍野北高等学校	2
合計	16

魚崎事業所

受　入　先	人数
兵庫県新任職員研修	2
甲子園短期大学	4
神戸常盤大学	4
兵庫県立総合衛生学院	4
神戸医療福祉大学	1
神戸市医師看護専門学校	2
神戸市立本庄中学校	3
神戸市立魚崎中学校	4
合計	24

5. 職員の資格取得への取組について

・介護福祉士

御立事業所:松田　恭子　淵上　倫行　中山　真琴　香西　幸恵
丸尾　太一　浅田　みき　岩谷　由佳子　藤本　弥生
田野　方美　野村　達也　八幡　美奈子　畝川　有紀

日高　麻子　　（小計　13名）
魚崎事業所:上田　雅大　　井上　和久　　壇浦　加奈子　　三井　舞奈
竹山　昇一　　中嶋　裕貴　　河野　明日香　　中村　亮太
神浦　典子　（小計　9名）

・社会福祉士
魚崎事業所：柳本　静（小計 1名）

・介護支援専門員
姫路事業所：鈴木　健大　　井神　達也（小計 2名）

合計　25　名

Ⅲ.　会議

定款の変更、規定の改正、事業計画及び事業報告、会計予算及び決算、介護に関する業務の執行状況や財産状況の整理のため、以下の会議を行った。

ア．監事会・理事会･評議員会

会議名	内　　容	期　日	場　所
第1回理事会	サンライフ西庄（仮称）建設に係る入札参加業者の選定について	H29.4.28	御立 2F 会議室
第2回理事会	1. サンライフ西庄（仮称）建設に係る入札参加業者の参加基準について 2. サンライフ西庄（仮称）給水管引込工事承認について 3. サンライフ御立２階、３階、４階カーテン取替入札参加業者の選定について 4. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定及び改定について 5. カメラ設置箇所の変更について 6. 福祉の「総合相談窓口」設置について	H29.5.30	御立 2F 会議室
第3回理事会	サンライフ西庄（仮称）建設に係る入札（姫路市立ち合い）	H29.5.30	御立 2F 会議室
第1回監事会	平成28年度事業報告・決算などの監査	H29.6.2	御立 2F 会議室
第4回理事会	1. 平成２８年度監事監査報告 2. 新役員候補者の評議員会へ提出の議案の承認 3. 平成２８年度本部･施設事業報告案	H29.6.9	御立 2F 会議室

	承認について 4. 平成２８年度法人・拠点区分会計決算案承認について 5. サンライフ御立１階、２階、３階、４階防炎カーテン取替工事一式入札 6. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 7. サンライフ魚崎業務用洗濯機入札参加業者の選定について		
第５回理事会	サンライフ魚崎業務用洗濯機入札	H29.6.16	魚崎
定時評議委員会	1. H28年度決算承認及び事業報告について 2. 新役員（理事・監事）の選任について 3. 定款施行細則の承認について 4. 社会福祉充実残高の承認及び計画の承認について 5. 定款一部変更について	H29.6.27	御立 ２Ｆ会議室
第６回理事会	1. 理事長・副理事長（業務執行理事）の選任について 2. 社会福祉充実残高の承認及び計画の承認について 3. 定款変更、定款施行細則の変更の承認について 4. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 5. 役員の報酬等基準の承認について 6. デイサービス御立のチェアインバス・搬送車・浴室埋め立て工事の業者選定について	H29.6.27	御立 ２Ｆ会議室

第7回理事会	1. サンライフ西庄（仮称）新築工事厨房機器一式購入入札 2. デイサービスセンターサンライフ御立チェアインバス及び浴槽工事一式入札 3. 社会福祉法人ささゆり会定款変更の承認について 4. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定及び改定について	H29.8.22	御立 2F会議室
第8回理事会	1. サンライフ西庄（仮称）見守りカメラ・ナースコール・電話機器の入札について 2. 訪問介護の自費介護サービス導入について 3. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について	H29.10.13	御立2F会議室
第9回理事会	1. サンライフ西庄（仮称）備品入札について（姫路市立ち合い） 2. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について	H29.11.24	御立2F会議室
第10回理事会	1. サンライフ西庄（仮称）備品入札について 2. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について	H29.12.7	御立2F会議室
第11回理事会	1. サンライフ西庄（仮称）備品入札について（姫路市立ち合い） 2. 上半期事業報告・会計報告について 3. 補正予算書について 4. 社会福祉法人ささゆり会定款変更について 5. 臨時評議員会の開催等について 6. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について 7. 顔認証カメラ随意契約について	H30.12.21	御立2F会議室

第1回臨時評議員会	1. 平成２９年度第１次補正予算について 2. 社会福祉法人ささゆり会定款変更について 3. 平成２９年度上半期会計報告について	H30.1.10	御立２Ｆ会議室
第12回理事会	1. 姫路市西庄甲83番2の土地購入について 2. 評議員変更に伴う評議員選任・解任委員会の開催について 3. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の改定について	H30.1.25	御立２Ｆ会議室
第13回理事会	1. H30年度本部・施設事業計画案承認について 2. H29年度法人・拠点区分会計補正予算案承認について 3. H30年度法人・拠点区分会計予算案承認について 4. 社会福祉法人ささゆり会諸規程の制定及び改正について 5. 社会福祉法人ささゆり会資産運用規程の変更について 6. 社会福祉法人ささゆり会法律顧問契約の提案について 7. 東京都江戸川区特養建設予定地について	H30.3.16	御立２Ｆ会議室
第2回臨時評議員会	1. 平成３０年度本部・施設事業計画案承認について 2. 平成２９年度法人・拠点区分会計補正予算案承認について 3. 平成３０年度法人・拠点区分会計予算案承認について	H30.3.26	西庄１Ｆ会議室

イ.介護保険推進委員会

会　議　名	内　　容	期　日	場　所
第1回介護保険推進委員会	1.平成 28 年度上半期事業推進状況報告と課題検討	H29.11.22	魚崎 1F 会議室
第 2 回介護保険推進委員会	1.平成 29 年度事業計画の策定案について	H30.3.9	御立 2F 会議室

以上

平成２９年度　特別養護老人ホームサンライフ御立
事業報告書

平成２９年度ささゆり会経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる！」をもとに活力ある職場作りへアンケートの実施や設備の充実により職員の負担軽減を図ると共に魅力あるサービス提供が出来るよう接遇を含めたサービスの改善を図った。また、施設での看取り介護の見直しを行い、入居者様・家族様の満足される看取りを目指してきた。

Ⅰ．活力ある職場環境作り

① 職員へのアンケートを実施

職員に対して匿名でのアンケートを実施し、それを基に職員の悩み、施設の課題をあげ、働きやすい職場作りを行った。

② 接遇・身だしなみを整える

「身だしなみ」や「言葉使い」の意識づけを行うために、マニュアル・チェック表と、役職ごとのチェック表の作成を行い、それを基にお互いに注意し合える職場の環境作りを行った。

③ 居室担当等の強化

居室担当・担当委員・担当設備に関しては担当者が責任を持ち、業務にあたるように意識づけの強化を行うと共に居室内の環境整備においても、リーダーによるチェックを月に一度行った。また、フロア会議にて出来ていないところの再確認を行う話し合いの場を設けた。

④ レクリエーションの強化

レクリエーションについては、班によりできている班、できていない班のばらつきがみられた。できている班に関しては継続と、曜日を増やしていくよう伝え、出来ていない班に関しては、業務の見直し、人員配置の見直しを行いレクリエーションの時間の確保を行った。

Ⅱ．ケアプラン作成の簡略化

① ケアプラン作成の負担軽減

ケアプラン作成において職員の負担になっている事やサービスが実施、徹底が出来ていない状況にあったため、入居者様１人に対し今後はニーズ及びサービス内容について、家族様に実施して頂く項目とその他２項目に絞り実施、徹底した。また、変更後のケアプランはファイルを各班で作成し、重要な内容には赤線を引き、周知することでプラン実施についての徹底を図った。

② ケアプランチェック体制

ケアプランチェック体制を強化し、ケアリーダーだけでなく次期リーダー候補の職員がチェックする事により指導力の向上を目指し、リーダー等の移動時の対応やケアリーダーの負担軽減を行った。

Ⅲ．安全な職場環境への取組み

① 腰痛予防のため、新たにリフト２台・マッスルスーツ２着・スタンドトランスファー２台の導入を行ったが、対象者の変化により、福祉機器の積極的活用には至っていない。

② 職員アンケートにより腰痛を持つ職員の割合を出し、改善案の提案・対策の実施を、継続するシステムを構築し、職員に安心な職場環境を整えていった。

Ⅳ．看取りケアの充実

4 月～3 月中､病院で亡くなられた方が 9 名､施設で亡くなられた方が 8 名との結果になり、看取り委員会を中心に QC 手法に基づいた取り組みを行い、看取りケアの見直しを図った。1 月より嘱託医が変更となり、施設での点滴や、在宅酸素が可能となったため看取りケアの充実が図られ、利用者様・家族様の意向に沿ったケアが取り組めるようになった。

Ⅴ．接遇について

11 月と 2 月に姫路市へ匿名の投書が届いた。内容としては、病院へ連れていかない。食事を無理やり食べさせている。ベランダに閉じ込めている。といった内容であった。疑問が残る内容となり社内調査を行った。家族様へのアンケート、職員へ匿名のアンケート、聞き取り調査を実施したが、結果については、虐待についての内容は確認されなかった。病院へ連れて行かないという内容については、病院受診のマニュアルに沿った対応を行っており、特に問題は見られず、職員からも病院受診について受診が遅いと感じた事はないとの意見だったが、再度マニュアルの見直し･1 月より嘱託医変更を行うことにより決められた病院ではなく､本人様・家族様希望の病院に受診できるようにした。また、接遇面での見直し・指導に力を入れた。

Ⅶ．各班目標

【３階１班】

月１回のユニット会議を開催することになっていたが、出来ていない月もあった。
班ノートの見直しを行うことで、情報の共有は出来ていたが、職員の入れ替わりもあり、
決定事項の周知徹底ができている人、出来ていない人の差がみられた。
事故については、月平均 3.2 件であり、以前に比べ減少したが転倒が多く見守り不足の
事故が多いため、対策を行い事故を防いでいきたい。

【３階２班】

事故の内訳では、圧倒的に転倒が多かった。また、転倒からの骨折は 3 件もあった。この原因は、見守り不足もあるが、センサーマットのスイッチの入れ忘れ等の初歩的なミスや認知症の利用者様の対応の拙さにより結果的に骨折となるケースもあった。

また、誤薬もあった。職員に対して事故を未然に防ぐ様な危機管理予測や認知症対応の指導ができなかったように思う。

後期は特に転倒の事故が多く職員同士の声かけやチームワークの不足もあった様に思う。今後はそれらも踏まえて職員同士の連携も高め指導していく。

【４階１班】

4階1班・3班の業務内容を見直しフロアが一体となり、協力体制・情報の共有が密に取れる環境を整備する。又職員間の意識を統一し、自発的な働きを心掛け指導・指示に加え、個々の対応能力の向上を課題とする。各班、業務の見直しを行い、現在業務内容も浸透定着している。安定した人員の確保が課題となる中、各職員工夫することにより、業務が遂行できている。シフト作成時や業務分担表などを利用し、見守りや業務の助け合いが行えていたが、情報の共有については1部の職員のみが把握している状況にある為、今後の課題が残っている。今後は、表面上だけの協力・共有だけでは、班が機能しなくなると考えられる為、1班と3班を合体させ、新たなユニットのあり方を見出す必要がある。

職員間の意識統一に関しては、新しい職員が加わり新しい考え方や発想が見られた。良かった点としては、 ①業務の指導を行う。といった実践が行えた事。②実践を通じて、改善点や反省点が見え次回に繋げることが出来ること。又、ＥＰＡ候補生の育成に置いては、チューターを中心に班全体で指導に取り組むことができ、とても大きく成長し成果が見られている。悪かった点は、①業務優先で、職員間でのコミュニケーションがおろそかになり、職場環境が悪くなりかけた事があった。その際は、事前に個人で話を聞きその後、ユニット会議を開催し話し合いの場が持てた。今後は、チューター職員の変更に加え、新人職員（ＥＰＡ）への指導を確立したものにする必要がある為、指導者以外の職員の意識の向上が行えるよう働きかけたいと考えている。

【４階３班】

昨年度の平均事故発生件数は、月平均 3.6 件であった。平成 28 年度の月平均が 4.7 件であった為、1.1 件の減少となっている。利用者様が変わったことや他職種連携、また班内で介助方法の検討が行えたことで今年度に繋がったと考えられる。しかし、介助方法を検討し対策を練るが、1.2 ヵ月継続し事故対策が行えていない事があるので、周知方法を決め、対策していきたい。

特定の利用者様の事故に対し、班内で対応できていない事は他班の協力や家族様を交えて対応するようにした結果、事故は起こっているが家族様への情報提供が行えるようになってきている。

Ⅷ．事故発生率の減少

① 事故件数の減少を目標に活動を行ってきたが、平成 28 年度月平均 16 件から平　成 29 年度月平均 22 件と、昨年度に比べ事故件数 13%増加している。
職員による服薬ミスによる薬の服薬忘れが多く、リスク委員会の職員を中心に介護技術の見直しや、服薬確認等を QC 手法を活用し、問題点の洗い出し、取組み、対策に努め事故の減少に努めていく。

② ３６０度レンズを使用したカメラをフロアに設置したことにより、事故の原因追究及び対策実施を行うことができた。また、利用者様同士による問題の確認も行うことができ、問題解決に大いに役立てた。

③ リスク委員会を通し、ヒヤリハット報告の提出の継続と状況確認を行った。また、事故状

況の分析力を強化すると共に、同職員による事故が疑われる場合は、数日は二人介助での介護の提供を行い、個人が原因の事故の再発しないよう教育・確認を行う体制を築くことができた。

Ⅸ．収入の確保

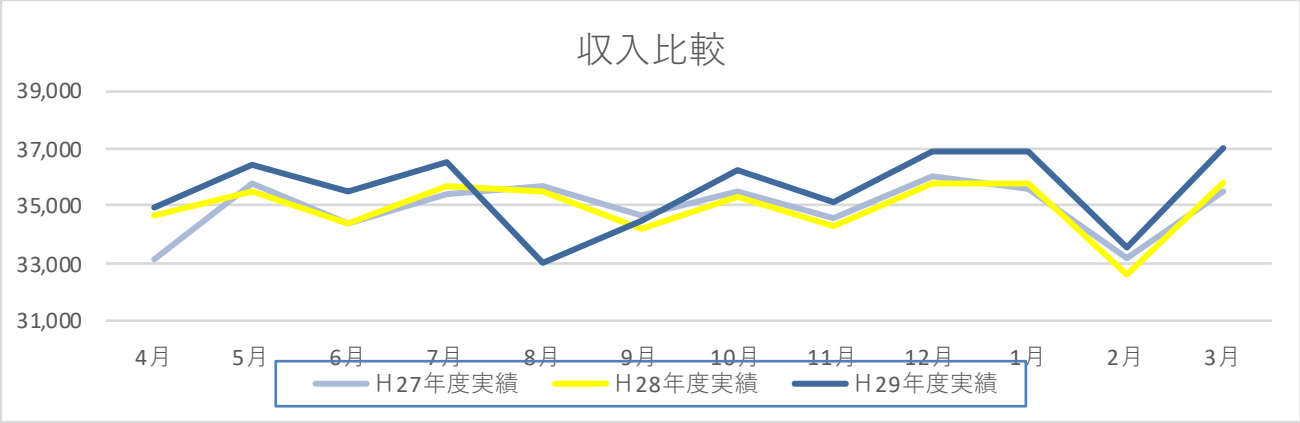
収入としては前年度と比べ 720 万円プラスではあるが、8 月の収入が風邪の感染による入院者が 59 名となったため、240 万円マイナスとなっている。また、稼働率 98%を目標としていたが、平均稼働率が、97.6%と目標達成には及ばなかった。4 月から 12 月までの平均入院者数が 7.7 件に対し、1 月に嘱託医変更を伴い、1 月から 3 月までの平均入院者数が 2.3 件と減少となった。

年間収入目標　（千円）

年度	４月	５月	６月	７月	８月	９月	小計
H28 年度実績	34,648	35,468	34,421	35,686	35,494	34,197	209,914
H29 年度目標	34,999	36,111	34,992	36,095	36,098	34,999	213,294
H29 年度実績	34,976	36,474	35,554	36,520	33,020	34,495	211,039
前年との差異	328	1,006	1,133	834	－2,474	298	1,125
年度	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計
H28 年度実績	35,322	34,320	35,813	35,754	32,609	35,818	419,550
H29 年度目標	36,095	34,997	36,113	36,113	32,787	36,090	425,489
H29 年度実績	36,291	35,124	36,897	36,898	33,528	37,027	426,804
前年との差異	969	804	1,084	1,144	919	1,209	7,254

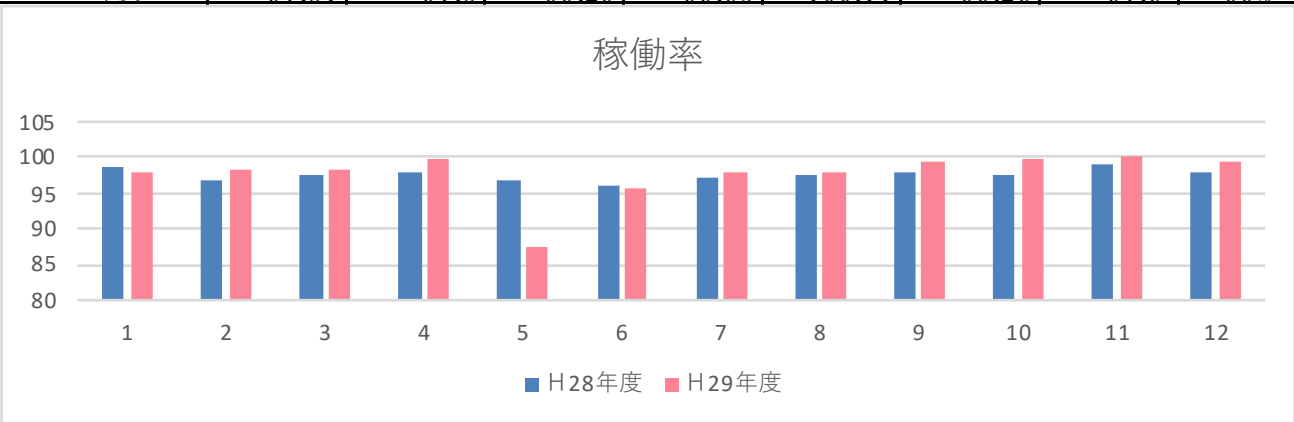
●年度別収入　　（単位：千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
H27年度実績	33,141	35,752	34,418	35,441	35,653	34,686	209,091	
H28年度実績	34,648	35,468	34,421	35,686	35,494	34,197	209,914	
H29年度実績	34,976	36,474	35,554	36,520	33,020	34,495	211,039	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
H27年度実績	35,481	34,584	36,041	35,596	33,224	35,498	419,515	―
H28年度実績	35,322	34,320	35,813	35,754	32,609	35,818	419,550	100%
H29年度実績	36,291	35,124	36,897	36,898	33,528	37,027	426,804	102%



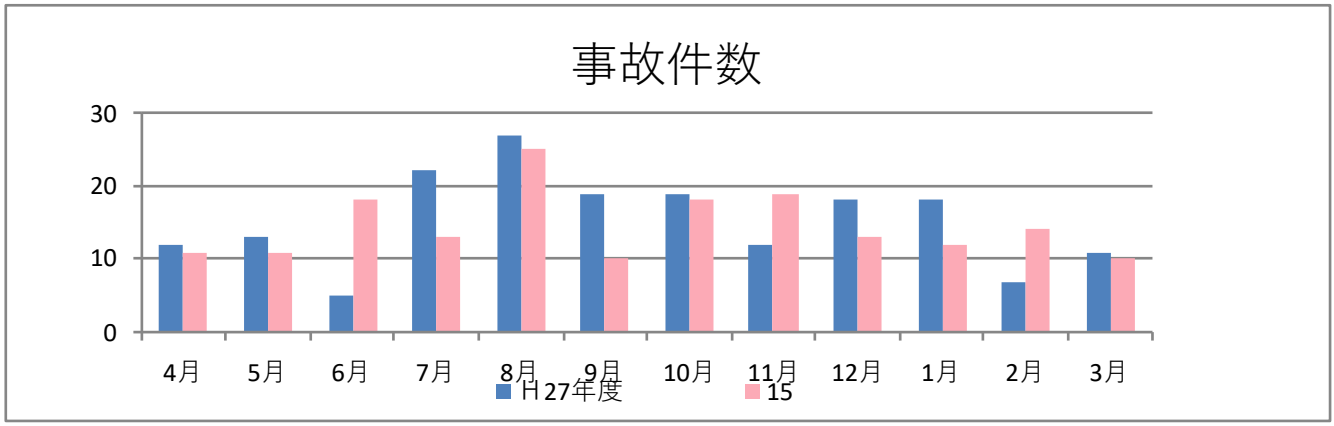
●稼働率　　（単位：%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均	比率
H28年度	98.6	96.8	97.5	98.1	96.9	95.9	97	―
H29年度	97.9	98.42	98.2	99.77	87.29	95.63	96	99%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	比率
H28年度	97	97.4	98.1	97.7	99	97.8	97.8	―
H29年度	97.81	97.8	99.29	99.65	100.11	99.26	97.6	99%



●事故件数　　（単位：件）

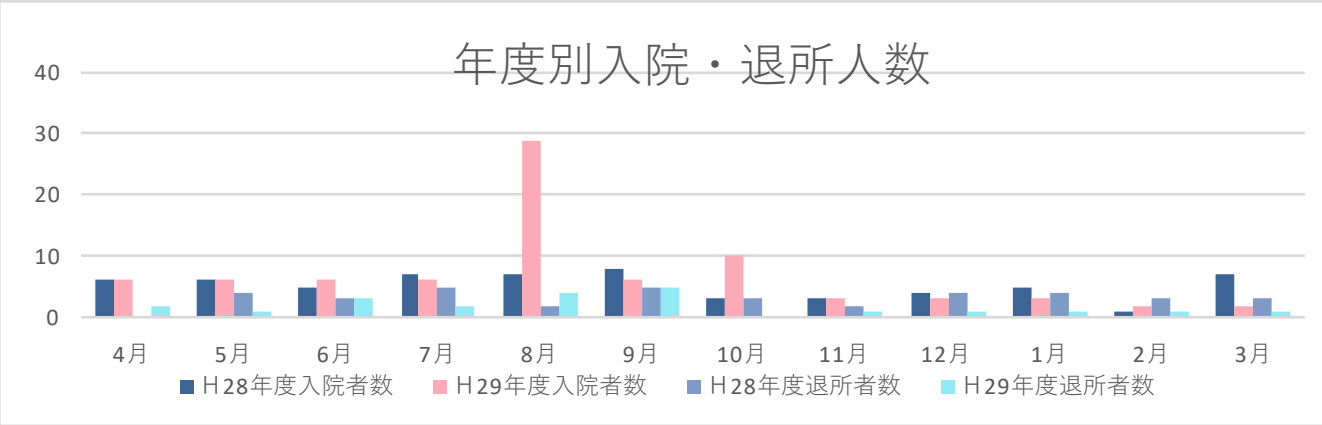
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
H28年度	11	11	18	13	25	10	88	―
H29年度	25	23	18	7	26	20	119	135%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
H28年度	18	19	13	12	14	10	174	―
H29年度	19	21	28	39	15	27	268	154%



●年度別入院・退所人数　　(単位:人)

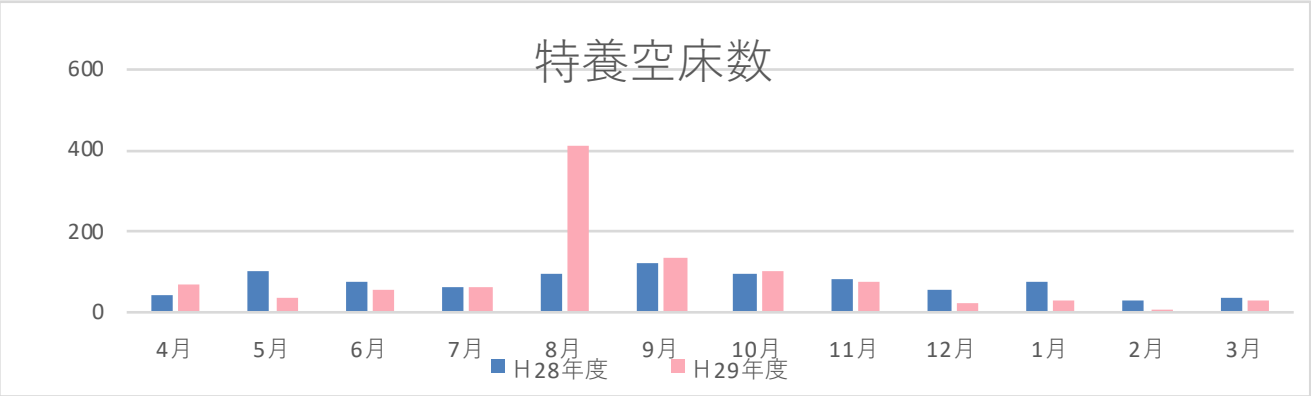
	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
H28年度入院者数	6	6	5	7	7	8	39	
H29年度入院者数	6	6	6	6	29	6	59	151%
H28年度退所者数	1(0)	4(2)	3(0)	5(0)	2(0)	5(1)	20(3)	−
H29年度退所者数	2(3)	1(0)	3(1)	2(2)	4(4)	5(3)	17(13)	85%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
H28年度入院者数	3	3	4	5	1	7	62	−
H29年度入院者数	10	3	3	3	2	2	82	132%
H28年度退所者数	3(0)	2(2)	4(2)	4(3)	3(2)	3(1)	39(13)	−
H29年度退所者数	0(2)	1(0)	1(1)	1(1)	1(0)	1(1)	22(18)	56%

＊()の数字は、ターミナルで退所となった人数です。



●特養空床数　　(単位:床)(単位:%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
H28年度	41	99	76	60	96	124	496	−
H29年度	70	34	58	62	414	134	772	155%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
H28年度	92	79	58	73	27	33	858	−
H29年度	100	77	24	32	5	28	1038	121%

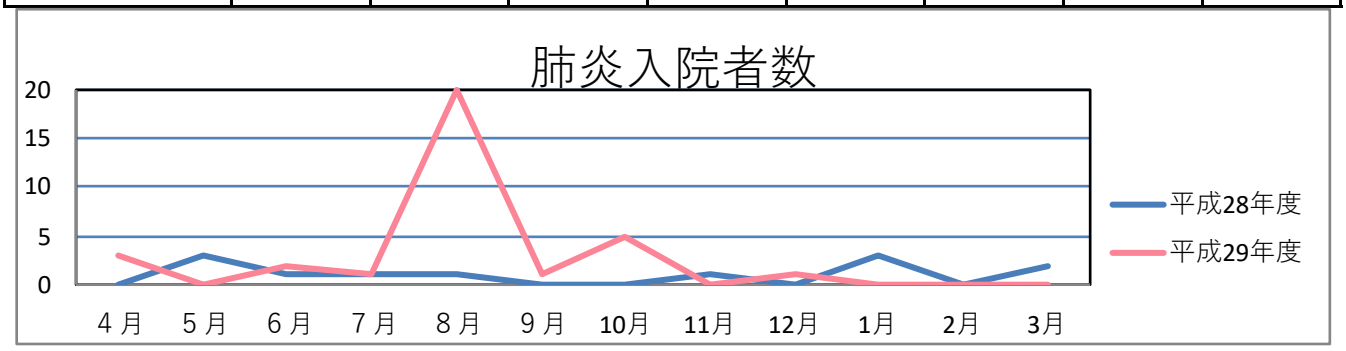


●肺炎入院者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
平成28年度	0	3	1	1	1	0	6	−
平成29年度	3	0	2	1	20	1	27	45%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
平成28年度	0	1	0	3	0	2	12	−
平成29年度	5	0	1	0	0	0	33	275%

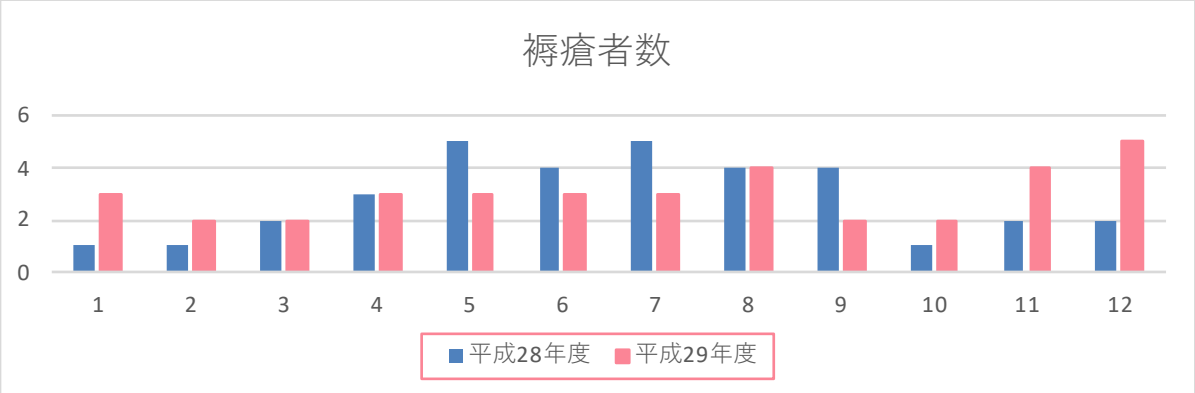
●肺炎入院者数

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
平成28年度	0	3	1	1	1	0	6	―
平成29年度	3	0	2	1	20	1	27	45%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
平成28年度	0	1	0	3	0	2	12	―
平成29年度	5	0	1	0	0	0	33	275%



●褥瘡者数

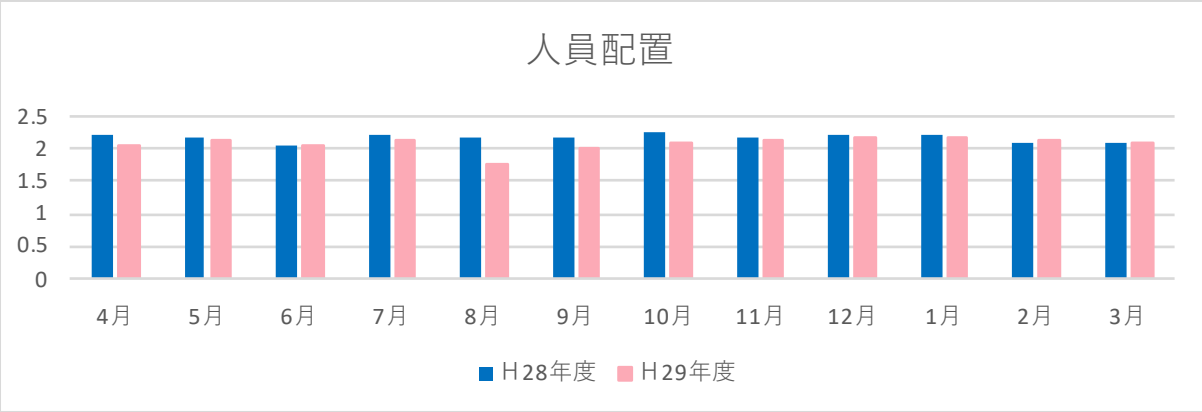
月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計	比率
平成28年度	1	1	2	3	5	4	16	―
平成29年度	3	2	2	3	3	3	16	100%
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	比率
平成28年度	5	4	4	1	2	2	34	―
平成29年度	3	4	2	2	4	5	36	105%



●人員配置

(単位:%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均	比率
H28年度	2.2	2.17	2.05	2.22	2.19	2.19	2.17	―
H29年度	2.04	2.13	2.06	2.13	1.75	1.99	2	108%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均	比率
H28年度	2.25	2.17	2.22	2.2	2.1	2.1	2.2	―
H29年度	2.08	2.14	2.16	2.19	2.14	2.09	2.1	105%



サンライフ御立ショートステイ

平成２９年度事業報告書

２９年度は、途中、リーダーの交代や職員の入れ替わり等があったが大きな混乱もなく、新しいチームとして業務を進めることができた。接遇の向上と事故の防止に最も力をいれて取り組んだことで、職員の意識向上がみられ、活力ある職場作りにも繋がった。

Ｉまた利用したいと思えるショートステイ
言葉遣いの乱れを無くすため上司が手本となるよう発信し、少しずつだが改善されてきたと感じている。利用者様への出勤時の挨拶も、当たり前のこととして定着してきたように思う。ケアプラン作成については、どうしても作成が遅れがちでありさらなる対策が必要である。レクリエーションについては、サービス事業所として必要なものであるという意識が定着してきている。毎日のレクリエーションの他に、月一回程度であるが、おやつレクを開催し利用者様に喜んで頂くことができた。それは職員のモチベーションアップにも繋がり良い効果を生んでいる。

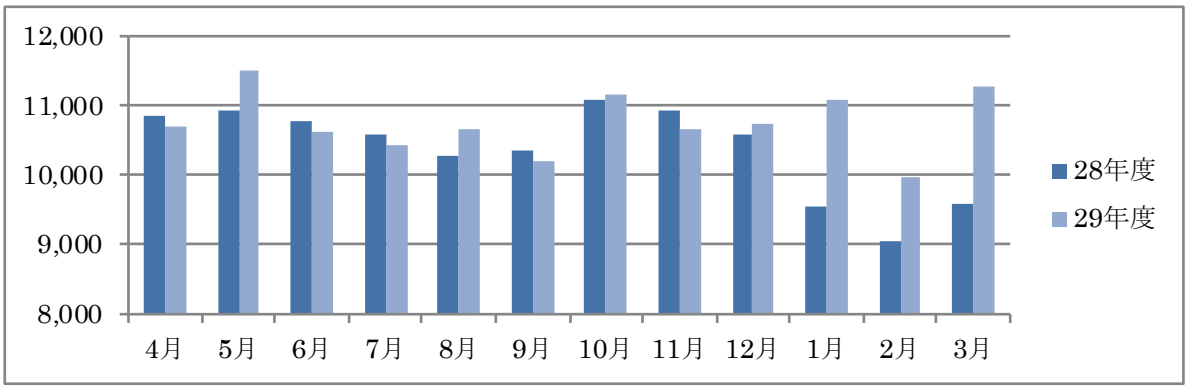
Ⅱ活力ある職場作りで生産性をあげる
昨年同様リフレッシュ休暇の全員取得が適った。中堅職員に業務を振り分け、各自のレベルアップを図ったことで成長した職員とそうでない職員に差が出た。１月から新リーダーとなり必然的に中堅職員がフォローするようになっている。介護負担を軽減するための道具も活かせている。

Ⅲ事故防止の取り組みの継続
昨年度のＱＣ活動から行っている「フロアに必ず一人の職員がいるようにする」を徹底して行った。それまでは年間１４０件ほどあった事故が、昨年度と同じ数字ではあるが
106 件と減った数字を維持できた。転倒による骨折事故が 1 件起きてしまったことが悪かった点である。

Ⅳ収入の確保
今年度は感染症による入所制限等もなく、ロングの方の特養移行後の空床が続くこともなく毎月稼働率 100%以上を維持することができた。それによって昨年度より約 440 万円の収入増となった。稼働率の平均は 106%となっており、多床室の介護報酬の是正もあり今後の収入増は厳しいと思われる。今年度、老朽化による物品等の修理や買い替えがあったり、職員が定着せず、派遣に頼る時期が続いたりしたが、これが落ち着けば支出を抑えることができると思われる。ロングショートからの特養入所の時期が読みにくくなっているが、常に待機者を確保し、入れ替わりの空床を出さないようにしていきたい。

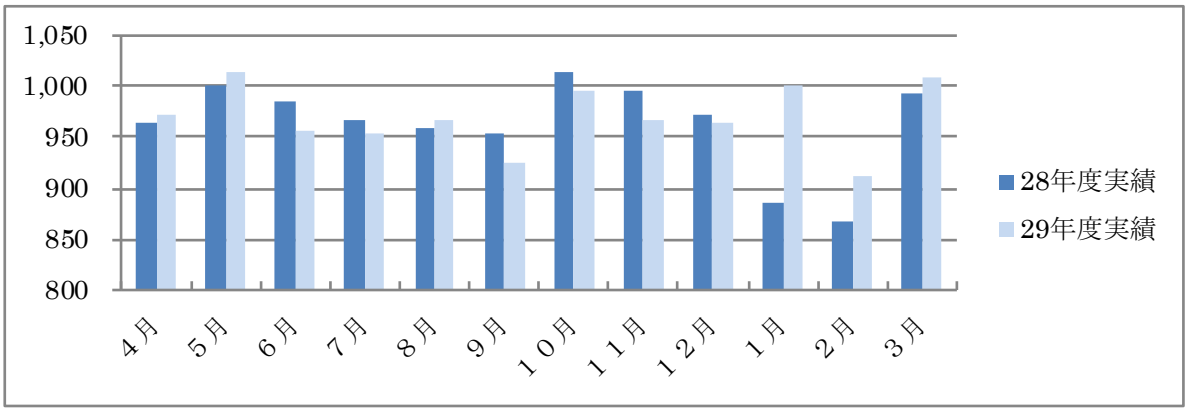
●年度別収入　　(単位 :千円)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
28年度実績	10,870	10,946	10,781	10,601	10,285	10,366	63,849
29年度実績	10,717	11,510	10,633	10,432	10,655	10,207	64,154
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度実績	11,065	10,937	10,578	9,553	9,050	10,914	125,946
29年度実績	11,152	10,679	10,721	11,081	9,974	11,281	129,042



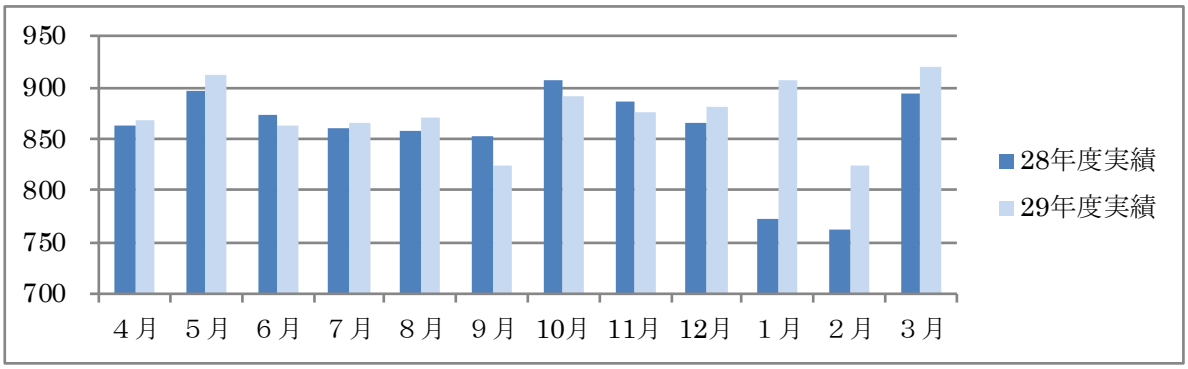
●年度別利用人数（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
28年度実績	965	1,000	986	968	958	953	5,830
29年度実績	973	1,013	956	955	966	925	5,788
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度実績	1,013	995	973	885	867	994	11,557
29年度実績	995	968	965	1,000	912	1,010	11,638



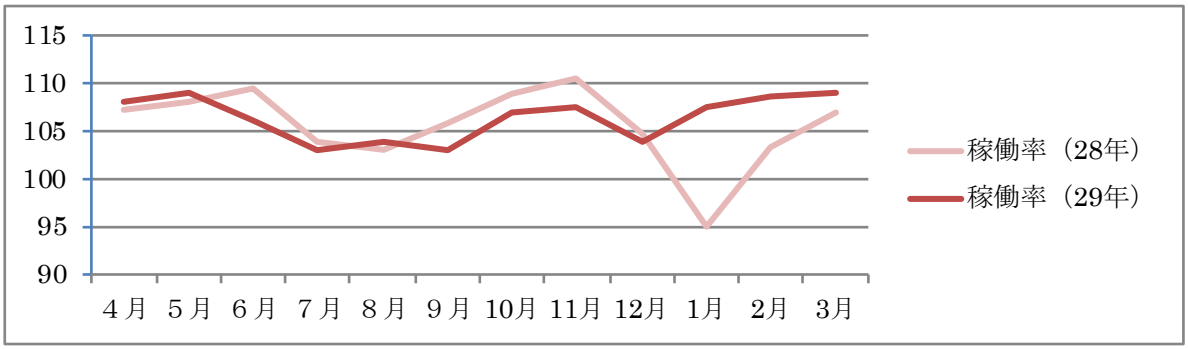
●年度別宿泊人数（人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
28年度実績	864	897	873	861	858	852	5,205
29年度実績	869	912	864	866	870	823	5,204
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度実績	908	886	866	772	763	895	10,295
29年度実績	892	877	881	908	825	921	10,508



●年度別稼働率　(%)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
稼働率(28年)	107.2	108	109.5	104	103	105.8	
稼働率(29年)	108	109	106	103	104	103	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均稼働率
稼働率(28年)	109	110.5	104.6	95	103.2	106.9	105.6
稼働率(29年)	107	107.5	104	107.4	108.5	109	106.3



●平成 29 年度ショートステイ分類別事故発生件数

	A	B	C	合計
4月			6	6
5月			7	7
6月			7	7
7月			4	4
8月			10	10
9月			8	8
10月	1		7	8
11月			8	8
12月			11	11
1月			17	17
2月		1	10	11
3月			9	9
計				106

【A】入院・加療を伴う事故

・自立歩行の方がトイレに来られた際バランスを崩して転倒、大腿骨骨折となる

【B】受診を要する事故

・オムツ交換で下肢を持ち上げた際、力が入ったのか持ったふくらはぎを剥離させた範囲が大きく、出血も多かった為受診、その後数回通院となった

●要介護度別利用者数

	要支援１	要支援２	要介護１	要介護２	要介護３	要介護４	要介護５
4月			10	14	26	12	10
5月			6	13	25	10	10
6月			6	16	22	9	11
7月			7	15	23	12	10
8月			7	15	26	10	10
9月		1	7	13	24	14	11
10月	1	2	8	17	22	13	9
11月		1	8	17	21	13	6
12月			7	12	19	12	6
1月			6	13	17	16	8
2月		1	6	12	17	14	8
3月	1		7	12	17	13	9
合計	2	5	85	169	259	148	108
割合	0.20%	0.60%	11%	22%	33%	19%	14%

平成２９年度　特別養護老人ホームサンライフ御立（御立医務）

事業報告書

平成 29 年度法人の運営方針「活力ある職場を提供し、生産性をあげる」というスローガンに基づき、医務全員が共有し取り組んでまいりました。

入所者様も ADL の低下、認知機能の重度化、摂食・嚥下機能の顕著な低下により看護・介護の手を要するようになってきています。そのような中、平成 29 年度は入院数も平成 28 年度の 62 名に対し、82 名と約 1.3 倍に及びました。（表 1 参照）この事に関しては 7 月下旬に風邪症状のある入所者様から、次々と風邪症状が伝播し、8 月 1 ヵ月間に 29 名の入院となりベッド稼働も 87％と落ち込みました。8 月の 29 名の入院に関しては、疑問に感じる入院もありました。受診マニュアル、配置医師回診の処方があったにも関わらず、医務間においても受診に対する考え方に相違がありました。

平成 29 年度は入院日数延べ 1285 日に及び、上半期の稼働は 95.9％。下半期は 99％と高い水準を維持しましたが、結果的に稼働率 97.6％と目標の 98％には至らず収益に大きく影響を与えた事は否めません。

以下、各々の目標に対しての取り組みと反省点を踏まえ次年度に繋げていきたいと考えています。

１．家族様に施設での看取りケアについて理解を深める。

◎家族様を対象に看取りケアについてアンケート調査をする。

平成 29 年 5 月に看取りケアについて入所中の 100 名のご家族様を対象にアンケート調査を実施し、51 名の回答を得ることができました。

Ｉ.アンケート結果について

施設での看取りを希望された家族様は 43 名、病院に入院し最期を迎えると希望された家族様は 7 名、無回答は 1 名でした。このことから少しずつ看取リケアについての考え方が変化していったと感じております。平成 29 年度の看取り数は資料に示すとおりです。平成 28 年度より 1 名少なくなっています。（表 2 参照）（看取り希望にも関わらず、症状が重篤で施設で対応できない利用者様が 1 名ありました。）

また、食事が食べられなくなった場合については、食べられるだけでよいと答えられたご家族様は 35 名、補助食品等希望は 18 名、病院での点滴・胃瘻希望者は 3 名その内 1 名の方が実際に病院入院し胃瘻増設されました。

施設での看取リケアに対しては、委員会活動もしておりますがまだ全職員の考え方に相違もあり、徹底できていない部分もあり今後の課題でもあります。

Ⅱ.アンケートに基づきマニュアルを作成する。

中間報告で述べたとおり、既作のマニュアルを順次見直し、各班に配布していますが、職員の入れ替わりもあり中々徹底が難しく、次年度においても看取り委員会に委ねて全職員が看取リケアのあり方、どうすべきかを考えていく必要があると思っており、引き続き次年度に繋げていきたいと考えています。

Ⅲ.他職種との協働と連携

医務全員が積極的に現場に足を運び、食事介助・入浴介助・見守り・時には排泄介助も行い、介護職、他職種ともコニュニケーションを図り良好な人間関係が構築出来ております。

２．健康管理

Ⅰ.入所者様の健康診断を年１回実施

入所者様に対しては 12 月に健康診断を実施し、異常検査データを指摘された方にはドクターコールがあり家族様と共に病院で今後の治療について説明を受けていただきました。治療を受けるか否か家族様が判断され、結果的に施設での看取りを希望された方や治療を継続された方もあります。

Ⅱ.職員の健康診断を年２回（深夜業に従事する者を含む）

職員全員の健康診断を 12 月に実施。深夜業に従事する職員に関しては 3 月から実施しております。特に大きな指摘を受けた者はなく、産業医より就労可能との判断をもらっています。生活習慣病やその他の指摘の職員に対しては、医務室から個別に要受診のお知らせを配布し、病気に対する認識を高めてもらえるような働きかけを行っています。

次年度は施設の方針もあり、福利厚生の一環として 40 歳以上の職員を対象に人間ドックを推奨していきます。

３．感染予防対策

Ⅰ.インフルエンザについて

インフルエンザについては、予防接種を入所者様全員と全職員を対象に 11 月に実施しました。

平成 29 年 3 月にショートからインフルエンザ陽性者が 2 名ありました。1 名はショート利用中に感染が発覚し退所に。もう 1 名は退所当日にインフルエンザ陽性と報告を受けました。陽性発覚から早期に対応行ったため他のショート利用者には感染・発病した方はありませんでしたが、特養の入所者 1 名の方がインフルエンザ陽性となりました。しかし、早期に隔離対応等行ったことで感染拡大を予防することができました。

Ⅱ.ノロウイルスについて

発生時期になれば、朝礼を通して手洗いうがいなどを周知していきました。また、感染対策委員会と協働してポスターの配布など行い、一行為・一手洗いの徹底、環境整備（室温管理や換気など）を整えるよう周知していき発症はありませんでした。

４．その他

利用者様の ADL の低下と認知機能の重度化により受診数も年々増加しています。(表 3 参照)

平成 30 年 1 月から配置医師も変更となり、出来る限り施設でできる医療行為に取り組み、受診や入院者数の減少に努めていきたいと考えています。(既に行った医療行為としては点滴 2 名、在宅酸素 2 名です。発熱、風邪症状についてはルーチンの指示薬投与を行っております。)

平成２９年度　特別養護老人ホームサンライフ御立（厨房）

事業報告書

平成２９年は人材の確保・定着を事業計画に挙げており、新たに管理栄養士を３名採用したことにより、手が回っていなかった管理栄養士業務をしっかり取り組むことが出来た。また、新しい機器の導入により献立の幅は広がったが、味にばらつきがみられた。

Ⅰ　人材の定着・育成

引き継ぎをスムーズに行うことができ、業務の把握ができている職員が増えたことにより、一部に負担が偏ることは減った。また、業務内容や１日のタイムスケジュールを把握することで、それぞれがフォローし合うことができた。

Ⅱ　献立の充実

厨房の改装により、スチームコンベクションオーブンを導入したことで、新たなメニューの取り入れができ、献立の幅は広がった。また、調理作業をする職員が増えたことにより、味にばらつきがみられたが、調味料の量を統一したことで以前より安定してきている。

安定した食事提供を継続していく為にも、個人の技術向上を図り、できる業務を増やし、振り分けていくという作業を行い、一部の負担を軽減していけるよう努める。

Ⅲ　衛生管理

汚染区域、非汚染区域の区切りが出来ていなかったため、作業導線の見直しを行い、作業導線が交差することはなくなった。また、グリストラップ、排管清掃を定期的に行ったことで、異臭や残渣物は減った。

上半期に異物混入の報告が２件あったが、下半期は異物混入の報告が０件であった。

お互いに衛生管理についての意識を高め、注意を行えるような環境づくりを行い、より一層衛生管理を徹底していく。

平成２９年度　デイサービスセンターサンライフ御立

事業報告書

デイサービス職員内で話し合いの機会を持った結果、現サービスには口腔ケアが不足しているという意見が出た。昼食後にうがいや歯磨きをすすめることを初めた。家族様へも歯ブラシ、義歯ブラシなど口腔ケア物品を持参いただけるように依頼し、歯がない方にもうがいをすすめた。クリスマスプレゼントにも歯ブラシをお渡しし、さらに口腔ケアの習慣化をすすめることができた。職員が声掛けをしなくても自発的に食後の口腔ケアをおこなう方が増加した。

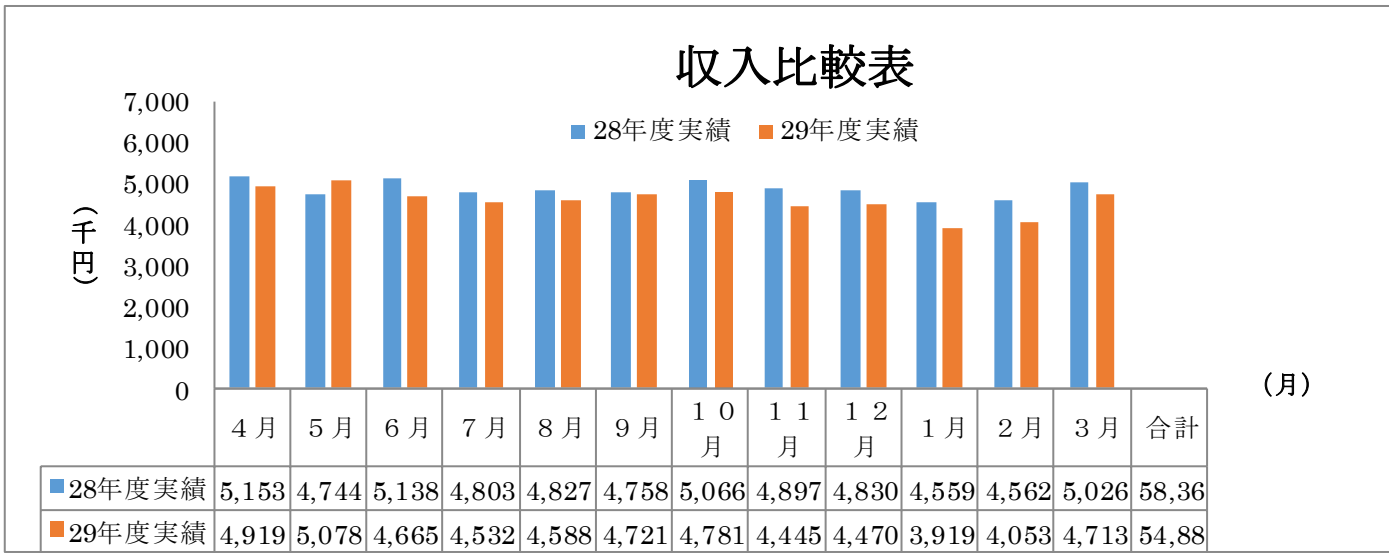
一般浴に設置していたリフト浴の機械が老朽化していた為、リフト浴スペースを埋める浴室工事と共にチェアインバス（座位式介護浴槽）の導入をおこなった。チェアに座っておられる時も角度をつけることが出来ずり落ちなどの危険性が減少し、以前のリフト浴よりも安全性が増した。そして、機械浴のデイサービスを探しておられた方のご利用が可能となった。

また、非常勤職員にも音楽レクリエーション指導士の資格取得をすすめ、他職員への指導を率先して実施した。

営業活動面ではデイサービスの広告ちらしを作成しリビングに掲載した。その広告を持参し常勤職員皆で居宅介護支援事業所の訪問をおこなった。２９年度は新規利用者が続かず、早期に入所や入院となるケースが多かった為、原因や対応を検討し今後につなげる。

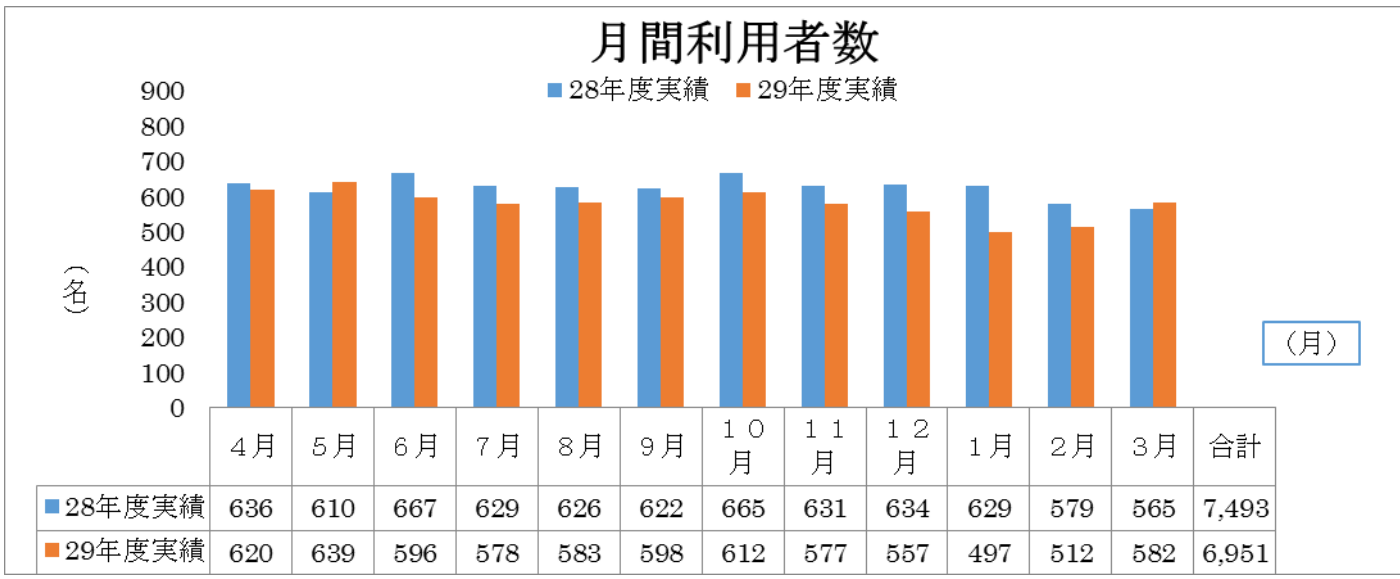
1. 平成２９年度収入

（単位：千円）



	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計
28年度実績	5,153	4,744	5,138	4,803	4,827	4,758	5,066	4,897	4,830	4,559	4,562	5,026	58,36
29年度実績	4,919	5,078	4,665	4,532	4,588	4,721	4,781	4,445	4,470	3,919	4,053	4,713	54,88

2. 平成２９年度利用者数　　（単位：人）



3. 上半期介護度別平均年齢及び利用者数

平成29年度上半期介護度別平均年齢及び実利用者数

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	合計
事業対象者	85.3（1）	85.3（1）	85.4（1）	85.5（1）	85.6（1）	85.7（1）	85.8（1）	87.3（2）	87.4（2）	87.5（2）	87.5（2）	89.1（1）	85.0（16）
要支援1	85.4（6）	86.5（5）	86.6（6）	86.7（5）	86.4（5）	86.7（5）	86.2（4）	86.3（4）	86.4（4）	86.5（4）	86.7（3）	86.7（4）	86.4（55）
要支援2	85.4（7）	85.4（7）	85.4（6）	87.2（9）	87.1（8）	87.1（8）	87.5（9）	87.2（7）	87.3（7）	87.4（7）	87.3（8）	87.0（7）	86.8（90）
要介護1	85.6（24）	85.4（25）	84.7（23）	85.0（22）	84.9（24）	85.0（25）	85.1（27）	85.4（28）	85.2（26）	85.1（24）	85.7（22）	85.4（23）	85.2（293）
要介護2	88.0（16）	88.0（16）	89.0（15）	88.6（14）	87.7（12）	87.7（9）	87.8（9）	87.2（8）	86.1（10）	88.0（10）	88.5（11）	88.3（11）	88.0（141）
要介護3	84.6（6）	84.7（6）	87.2（8）	87.2（4）	83.1（5）	84.6（6）	84.7（6）	79.5（5）	81.9（5）	77.0（4）	76.3（5）	77.2（4）	82.8（64）
要介護4	85.5（4）	85.6（4）	85.7（4）	87.5（5）	87.6（5）	87.5（6）	87.6（7）	86.7（6）	84.9（7）	84.9（7）	85.9（7）	86.4（8）	86.3（70）
要介護5	85.4（1）	85.5（1）	85.6（1）	85.7（1）	85.8（1）	85.8（1）	85.9（1）	86.0（1）	83.1（2）	86.2（1）	77.1（2）	77.2（2）	83.1（15）

合計	86.0 (65)	86.1 (65)	86.3 (64)	86.7 (61)	86.0 (61)	86.1 (61)	86.2 (64)	85.6 (61)	85.3 (63)	85.5 (59)	85.5 (60)	85.6 (60)	85.9 (744)

上段の数字は平均年齢、（　）内の数字は実利用者人数を示しています。

4.職員充足度

デイサービスサンライフ御立

（職員 15 名）

【内訳】正職員 4 名（内看護師 1 名）非常勤看護師 1 名

非常勤介護職 9 名（内入浴介助 4 名）

							個別機能指導員（看護師）1 名含まない	
	営業日数	利用者/月	職員総時間数/月	利用者/日	職員/日	職員一人対	職員/日	職員一人対
4 月	25	620	1373.5	24.8	8.2	3.0	7.2	3.4
5 月	27	639	1556	23.6	9.3	2.5	8.3	2.8
6 月	26	596	1524	22.9	9.1	2.5	8.1	2.8
7 月	26	578	1470.5	22.2	8.8	2.5	7.8	2.8
8 月	27	583	1494.5	21.6	8.9	2.4	7.9	2.7
9 月	26	598	1515	22.9	9.0	2.5	8.0	2.9
10 月	26	612	1541.5	23.6	9.2	2.5	8.2	2.9
11 月	26	577	1548.5	22.7	9.2	2.5	8.2	2.8
12 月	26	557	1548.5	22.6	9.2	2.5	8.2	2.8
1 月	25	497	1565.5	19.9	9.3	2.1	8.3	2.4
2 月	24	512	1438.5	21.3	8.6	2.5	7.6	2.8
3 月	27	582	1680	21.5	10	2.2	9.0	2.4

平成 29 年度 サンライフ御立ケアハウス

事業報告書

入居者が、快適かつ安心して生活できる様 ADL の低下抑制を重点項目にあげ、それに伴う各種行事への参加支援、相談サービスの充実や各部署との連携を図った。

行事やクラブ活動等を計画し、楽しくメリハリのある生活が送れる様サポートした。毎日の生活の一部となる様、体操や学習療法を組み入れ身体的機能の現状維持を図り、ADL の低下を抑制する様支援した。

又、日頃の生活状態の変化に気付き、身元保証人との連携を密にして対応した。

1.健康面や精神面の相談サービスの充実

大半の入居者は、かかりつけ医に定期受診をして健康管理がなされていた。月 2 回健康チェックを実施し、体調の変化に留意した。参加率を上げ、日頃から入居者の身体面や精神面の変化や悩みをくみ取り、安心した生活できる様サポートした。

ケアハウスにおいての生活に不安を覚えるようになる前に身元保証人との話し合いを行ない、介護認定申請を行う等の支援をした。

骨粗鬆症予防や骨折予防の為、毎日の散歩を奨励した。ホール、廊下等のウォーキングの習慣化につなげられる様アドバイスをした。

ケアマネジャーとの連携を密にし、入居者の状態に合わせヘルパー、ディサービス、グループホーム、ショートステイ等との相談サービスの充実を図った。

①介護認定状況 (H30.3.31 現在)　　単位：人

	自立	支援 1	支援 2	介護 1	介護 2	合計
5 階	4	5	4	3	1	17
6 階	6	4	4	2	1	17
合計	10	9	8	5	2	34

②サービス利用状況(H30.3.31 現在)　　単位:人

	ヘルパー	訪問看護	ディサービス	生きがいディ	福祉用具貸与
5 階	9	2	8	0	5
6 階	9	0	8	0	9
合計	18	2	16	0	14

③入居者年齢・性別状況(H30.3.31 現在)　　単位:人

	～74 才	～79 才	～84 才	～89 才	～94 才	合計	平均年齢
男性	0	4	2	1	1	8	81.4 才
女性	2	2	4	8	10	26	85.5 才
合計	2	6	6	9	11	34	84.6 才

最高年齢：93 才(女性)　　最低年齢：63 才(女性)

2. 各種行事・クラブ活動への参加支援

現行の行事やクラブ活動を充実させ継続する様に努めた。残念ながら新しい教室の取り入れは出来なかった。

年６回の誕生会、季節ごとの外食やバスハイク等の行事を行った。

学習療法は 11 年目になるが、内容を見直し自由にプリントを持ち帰れるようにして入居者の意欲を高める様に支援した。前年度同様の参加者があった。

フラワーアレンジメント教室は、生花に触れることの癒し効果を期待できるので継続。支援ができた。

買物サービスを月 2 回実施。快適な生活が送れる様に支援ができた。

うたの会は、入居者が楽しみにしているので、継続。支援ができた。

3. 相談サービスの充実

様々な悩みや不安を和らげ、安心感をもって生活できるように相談業務を充実させた。入居者の年齢幅が大きくなり、それ故の入居者間の問題も発生している。

ケアハウス職員会議を開き、意識統一を図り、職員間の対応の差をなくした。

ケアマネジャーとの連携を密にし、入居者の状態に合わせヘルパー、ディサービス、グループホーム、ショートステイ等との相談サービスの充実を図った。

4. 空室ゼロの対策

入居に際しての問合せ及び見学は、比較的途切れることなくあった。しかし、入居に至らないケースも多かった。

如何に退去からその後の入居を短期間でやり遂げられるかがポイントだったが、やはり退去者の荷物の搬出、リフォームに時間を要した。

平成 29 年度 実績収入　　単位：千円

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 28 年度実績	4,646	4,448	4,710	4,547	4,830	4,467	27,648
平成 29 年度実績	4,417	4,261	4,498	4,263	4,394	4,177	26,010
差額	229	187	212	284	436	290	1,638

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 28 年度実績	4,688	4,518	4,861	4,425	4,657	4,414	55,211
平成 29 年度実績	4,455	4,498	4,857	4,544	4,584	5,484	54,432
差額	233	20	4	119	73	1,070	779

平成 27 年度実績収入及び平成 28 年度目標収入　　単位 : 千円

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 27 年度	4, 225	3, 862	3, 968	3, 865	4, 024	3, 878	23, 822
平成 28 年度	4, 226	3, 974	4, 192	3, 947	4, 232	4, 084	24, 655

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 27 年度	4, 030	3, 897	4, 185	3, 523	4, 543	4, 343	48, 343
平成 28 年度	4, 234	4, 013	4, 277	4, 057	4, 239	4, 091	49, 566

平成２９年度事業報告書

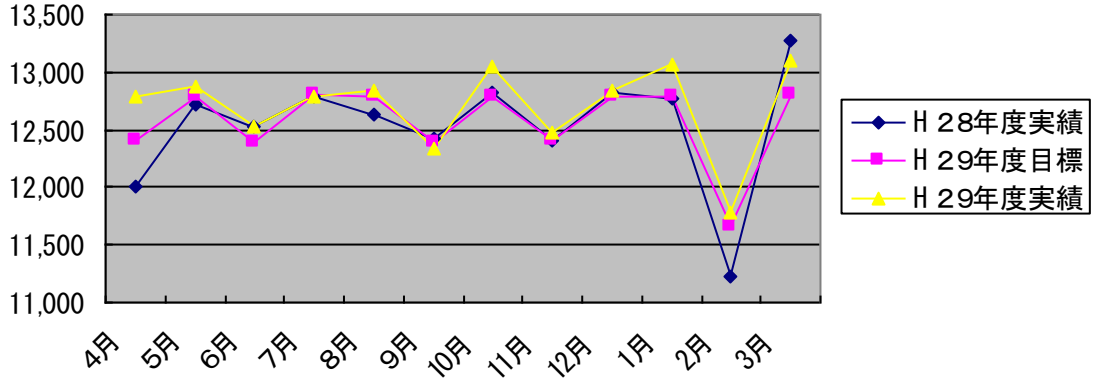
（ユニット型老人ホームサンライフひろみね）

人員不足に対して常勤職員の増員を予定していたが、新入職員の退職や介護職員の妊娠、非常勤職員の腰痛悪化に伴い、移乗介助をできる職員が減少し、介護職員への負担が著しく増加してしまった。その為、介助方法の見直しやイージーグライド等の介護用品の購入及び使用方法の指導、業務内容の改善を行うことで妊婦でも働ける職場環境の構築に努めた。利用者の健康についてはターミナル期に入っている方が 10 名となった。平成 29 年 3 月末時点で 66％であった普通食は 59％に減少してしまった。転落等の骨折で 2 件、肺炎で 1 件、腸閉塞 1 件、胃ろう増設できるかの検査入院が 1 件あった。防災防犯対策として、さすまたを使用した防犯訓練や水害による避難方法の説明を行った。稼働率は前年と同じであるが、処遇改善加算の増額、栄養マネジメント加算を 8 月から再開していることで、収入は約 200 万円増加している。しかし常勤職員の補充や派遣職員の利用や紹介料、法人交付金の増額等で人件費が約 470 万円の増加、修繕費等で約 150 万円の経費増加があり収支差額として約 420 万円の減額となってしまった。

1.　上半期収入差額

●平成２９年度収入金額　（単位：千円）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	小　計	比率
28 年度実績	12,014	12,723	12,520	12,785	12,626	12,427	75,095	
29 年度目標	12,403	12,795	12,394	12,803	12,795	12,394	75,584	－
29 年度実績	12,783	12,881	12,526	12,793	12,843	12,335	76,161	101.4
前年度との差異	769	158	6	217	217	▲92	1,066	－
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合　計	比率
28 年度実績	12,831	12,398	12,825	12,770	11,220	13,272	150,411	
29 年度目標	12,795	12,403	12,795	12,795	11,667	12,803	150,842	－
29 年度実績	13,055	12,471	12,842	13,062	11,778	13,095	152,464	101.4
前年度との差異	224	73	17	292	558	▲177	2,053	－



２．平均要介護度

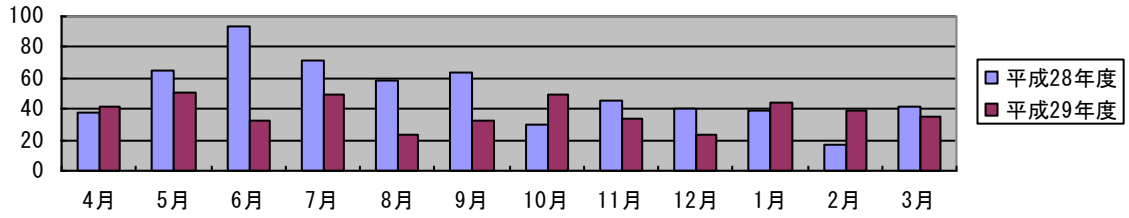
●平均要介護度・平均年齢　（平成３０年３月末現在）

平均要介護度	4.48	平均年齢	87.8 歳

２．事故件数

●事故件数　（単位：件）

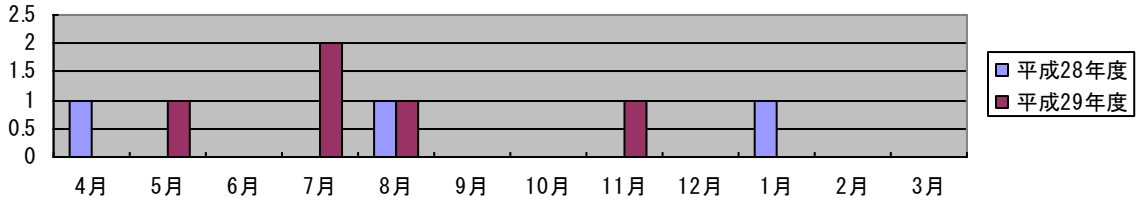
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計	比率
平成 28 年度	38	65	93	71	59	63	389	－
平成 29 年度	42	51	33	50	24	32	232	59.6
A	0	0	0	1	0	0	1	
B	0	0	0	0	0	0	0	
C	42	51	33	49	24	32	231	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
平成 28 年度	30	45	40	39	17	41	601	－
平成 29 年度	50	34	23	44	39	35	457	76.0
A	0	1	0	1	0	0	2	
B	0	0	0	0	0	0	0	
C	50	33	23	44	39	35	455	



３．入院者数

●入院者数　（単位：人）

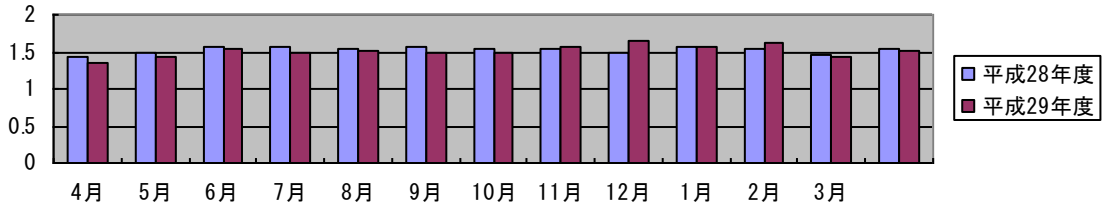
	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	合計	比率
平成 28 年度	1	0	0	0	1	0	2	－
平成 29 年度	0	1	0	2	1	0	4	200%
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計	比率
平成 28 年度	0	0	0	1	0	0	3	－
平成 29 年度	0	1	0	0	0	0	5	167%



４．人員配置率

（単位：人）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	平均	比率
平成 28 年度	1.43	1.48	1.58	1.57	1.55	1.56	1.53	－
平成 29 年度	1.36	1.44	1.55	1.50	1.51	1.49	1.48	104%
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均	比率
平成 28 年度	1.53	1.54	1.49	1.57	1.54	1.47	1.53	－
平成 29 年度	1.49	1.56	1.64	1.57	1.62	1.44	1.51	101%



ユニット型老人ホーム　サンライフひろみね　責任者　西川　明茂

平成２９年度　デイサービスサンライフ田寺

事業報告書

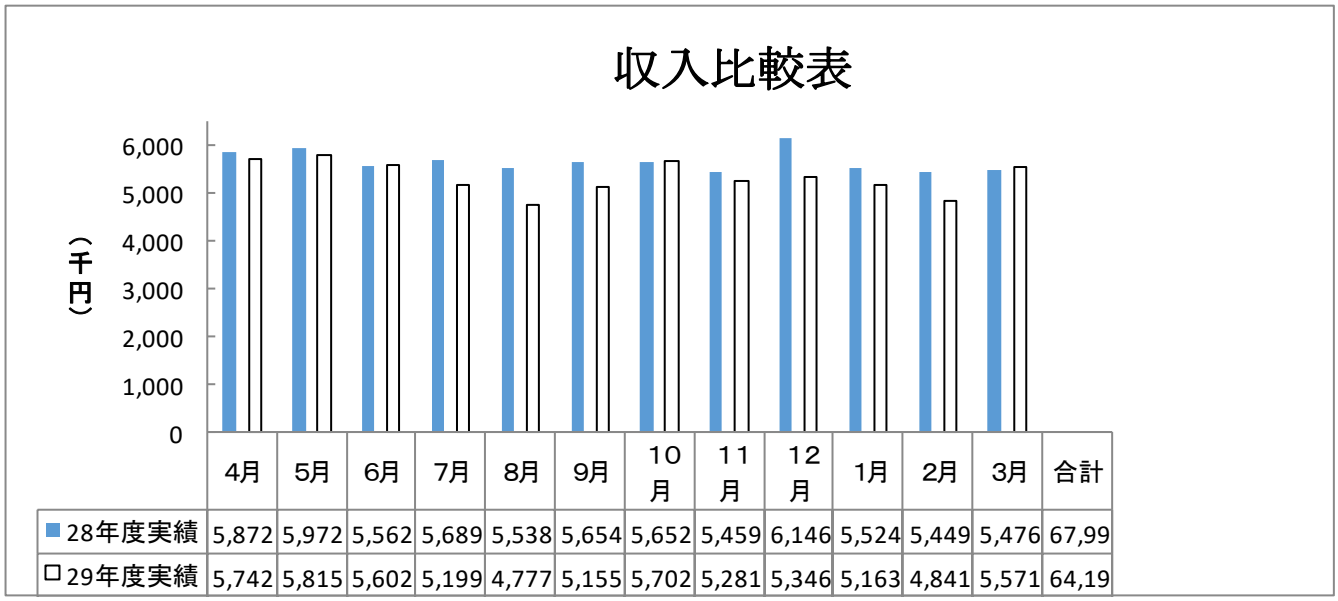
平成２９年度は、フロアの介護職員は定着したが入浴職員が不足したため、ひとりひとりの業務の負担が大きくなってしまった。しかし、朝礼時のラジオ体操やコルセット着用等基本的なことを気をつけたため、腰痛の悪化を防ぐ事ができた。

レクリエーションについては、個別レクよりも集団レクに力を入れた結果、できるだけ多くの方が外出に参加できるような体制を作った。しかし、上記のように入浴職員が固定できなかったため、お弁当外出を実施する事ができなかったことが、大きな反省点である。

職員の研修については、予定通りに実施する事ができなかったが、ＨＣＣに参加したことは大きな収穫となった。

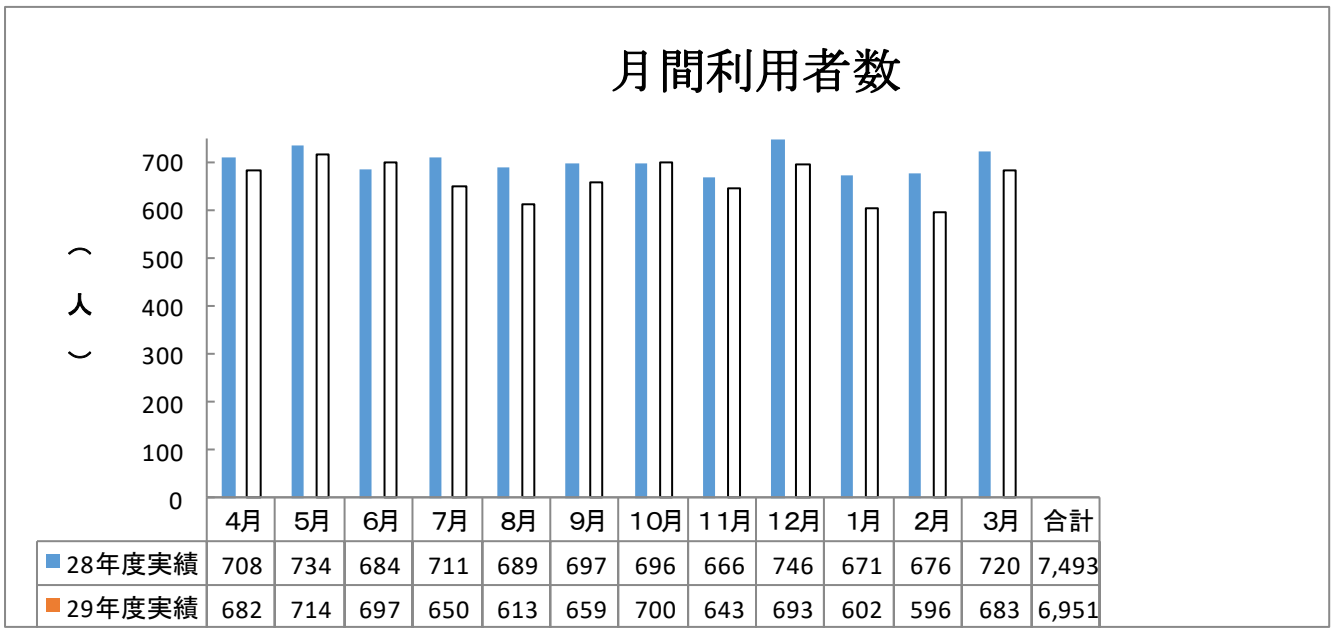
収入については入所や入院による中止が多く、平成２８年度に比べると約４００万円減となった。平均介護度は 1.5 と同じである為、いかに利用人数が大きく減少したかがわかる。入浴目的の方が増えており、時短の方の新規契約（月に 2 人以上）が目立った。時短の方が通常時間に延ばしたり、追加利用に繋がる提案をすることが出来なかった事も反省点である。支出については、人件費と施設備品の故障が多くあり、約 300 万円と大きかった。

1. 平成２９年度収入　　（単位：千円）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度実績	5,872	5,972	5,562	5,689	5,538	5,654	5,652	5,459	6,146	5,524	5,449	5,476	67,99
29年度実績	5,742	5,815	5,602	5,199	4,777	5,155	5,702	5,281	5,346	5,163	4,841	5,571	64,19

2. 平成２９年度利用者数　　（単位：人）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度実績	708	734	684	711	689	697	696	666	746	671	676	720	7,493
29年度実績	682	714	697	650	613	659	700	643	693	602	596	683	6,951

3. 平成２９年度介護度別平均年齢及び延べ利用者数

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
４月	82.1 (1)	83.0 (12)	82.1 (12)	83.3 (30)	84.1 (14)	87.7 (10)	94.6 (4)	93.2 (3)
５月	82.2 (1)	82.7 (12)	81.9 (12)	83.1 (28)	83.2 (17)	87.6 (10)	94.7 (4)	93.3 (3)
６月	82.3 (1)	83.4 (12)	81.6 (12)	83.6 (28)	83.2 (17)	87.7 (10)	92.4 (4)	88.1 (3)
７月	82.4 (1)	83.2 (12)	81.6 (13)	83.7 (30)	82.5 (16)	88.7 (10)	92.5 (2)	93.4 (3)
８月	82.5 (1)	84.4 (8)	82.0 (13)	84.0 (30)	83.9 (17)	87.2 (7)	91.9 (3)	93.5 (3)
９月	82.5 (1)	84.5 (8)	81.9 (12)	83.7 (30)	84.3 (18)	86.2 (9)	90.2 (6)	92.1 (2)
１０月	0	84.6 (8)	82.0 (12)	84.1 (31)	85.2 (16)	87.1 (10)	86.2 (4)	92.2 (2)
１１月	0	84.7 (9)	82.5 (13)	84.0 (31)	85.2 (16)	83.1 (10)	84.9 (3)	90.8 (3)
１２月	0	84.3 (9)	82.6 (13)	84.3 (29)	85.9 (16)	83.4 (10)	84.5 (5)	93.2 (3)
１月	0	84.4 (9)	82.4 (12)	84.5 (30)	85.5 (16)	85.1 (11)	84.6 (5)	83.4 (1)
２月	0	83.8 (9)	83.0 (13)	83.7 (28)	86.0 (18)	88.3 (8)	84.7 (5)	83.4 (1)
３月	0	83.9 (9)	83.8 (12)	84.0 (27)	85.0 (21)	85.3 (10)	88.3 (5)	87.1 (2)

上段の数字は平均年齢、（　）内の数字は実利用者人数を示しています。

4.職員充足度

デイサービス

サンライフ田寺

（職員 19 名）

【内訳】正職員 4 名（内産休 1 名）非常勤看護師 4 名

非常勤介護職 11 名（内入浴介助 2 名）

							個別機能指導員（看護師）1 名含まない	
	営業日数	利用者/月	職員総時間数/月	利用者/日	職員/日	職員一人対	職員/日	職員一人対
4 月	26	682	2030	26.23	12.1	2.2	11.1	2.4
5 月	26	714	2035	27.46	12.1	2.3	11.1	2.5
6 月	26	697	2039	26.81	12.1	2.2	11.1	2.4
7 月	27	650	1902	24.07	11.3	2.1	10.3	2.3
8 月	26	613	1877	23.58	11.2	2.1	10.2	2.3
9 月	26	659	2026	25.35	12.1	2.1	11.1	2.3
10 月	27	700	2106	25.93	12.5	2.1	11.5	2.3
11 月	25	643	1742	25.72	10.4	2.5	9.4	2.7
12 月	27	693	2080	25.67	12.4	2.1	11.4	2.3
1 月	24	602	1749	25.08	10.4	2.4	9.4	2.7
2 月	23	596	1712	25.91	10.2	2.5	9.2	2.8
3 月	27	683	1991	25.30	11.9	2.1	10.9	2.3

平成 29 年度　ヘルパーステーションサンライフ御立

事業報告書

今年度は、昨年度からの継続事項として、中重度の要介護者への身体介護・在宅支援に対応して行くべく、職員は勿論、登録ヘルパー1 人ひとりの介護技術の向上・事業所全体でのサービスの質の向上・介護力の引き上げに向けての取り組みの強化に努めた。

現状に決して満足してはいけない！、初心を忘れない！を念頭に、サービスを行う中での、「ヘルパーの在り方」「援助のスキル」「記録の記入の仕方」「言葉遣い・身だしなみ」等、全員での復習・確認・周知徹底に努めた。引き続き、個人研修、内部研修に力を入れていきたい。

今後更なる、人員不足を抱えながら、重介護度の利用者様へのサービスが増加して行くと予想される。質の高いサービス・多様なサービスが要求される中、利用者様・家族様のニーズに対応するだけの、介護力と人材を事業所全体で、考え・身につけていかなければならない。

その為にも、内部研修の充実化・登録ヘルパーの介護力の引き上げに力を注ぎ、より一層の体制強化に努めていきたい。

1.　平成 29 年度　内部研修内容

4 月	車椅子介助
5 月	車椅子介助（実習）
6 月	個別面談
7 月	事故の原因と対策・高齢者の脱水
8 月	倫理・法令遵守・緊急時の対応
9 月	買い物援助・登録ヘルパーの労務事項
10 月	認知症ケア
11 月	感染症テスト
12 月	個別面談
30 年　1 月	認知症の困難事例と向き合う・自立支援～看取りまで
2 月	大きな人の移乗・移動
3 月	30 年度介護保険法改正と人事考課

(単位：　千円)

2.　平成 29 年度の収入

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 28 年度実績	2891	2947	3223	2817	2898	3142	17918
平成 29 年度予想	3100	3150	3250	3150	3050	3150	18850
平成 29 年度実績	2853	2990	2738	3118	3308	3197	18204
前年度との差異	−38	43	−485	301	410	55	286
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 28 年度実績	2969	2881	2980	2881	2933	2977	35539
平成 29 年度予想	3150	3050	3150	3100	3050	3100	37450
平成 29 年度実績	3401	3499	3303	2940	3155	3489	37991
自費介護ｻｰﾋﾞｽ			4	0	18	0	−
前年度との差異	432	618	323	59	222	512	2452

・自費介護サービスは、実績に含む。

収入面では、他職種との信頼構築の為にも、時間の許す限り事業所への訪問は惜しまない。月一回の報告書の提出の際の訪問や毎月発行の「ヘルパーステーション通信」を利用しながら、事業所の内部発信・新規受け入れ可能時間帯・当月のホッとニュース等記載し、居宅介護支援事業所との連携を密にとることで、新規の獲得も前年度に比べ増・利用者数も増・訪問回数も増、よって、収入も 245 万円増になった。
そして、今後の新たな収入源ともなりうる、自費介護サービスを 29 年 11 月～開始した事により、少しずつではあるが、利用者増に繋げていく努力を惜しまず、継続していきたい。

今年度も引き続きヘルパーの人員確保（労働力の確保）及び、信頼して貰える事業所への取り組みに更に力を注ぎ、収入確保に繋げていきたい。

3.　新規利用契約数

（単位：人）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	
平成 28 年度実績	2	2	4	3	5	5	
平成 29 年度実績	4	5	5	8	5	4	
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 28 年度実績	8	3	5	5	3	3	49
平成 29 年度実績	6	2	2	7	4	2	54

平成 29 年度　サンライフ御立居宅介護支援事業所

事業報告書

年間目標

平成 29 年 5 月にサンライフ土山居宅介護支援事業所が開設し、職員の異動に伴い利用者様の混乱がないよう援助を行うよう努めた。また初心に返り利用者様・ご家族の不安を取り除き、安心した在宅生活を送って頂けるよう支援を行うことで信頼できる介護支援専門員となるよう業務に努めた。

Ⅰ．担当利用者の確保

3 名となり今後安定した事業所運営と稼働効率の向上のために各介護支援専門員の担当件数についての把握を定期的に行い、職員間で報告・連絡・相談を密に行うことで新規相談者への対応を迅速に行えるよう努めた。また、地域包括支援センター、他職種、他事業所に訪問し営業活動を強化することで新規利用者獲得に努めた。12 月から 4 名体制に変更。新規利用者は、1 年間で要介護者 66 名、要支援者 11 名を獲得できた。

Ⅱ．ケアプランの質の向上

自立支援に向けたケアプランを作成するために、目指しているものは一人ひとりによって違いがあり聞き取りを行う上で整理し、より実現可能な目標設定と利用者様と各関係事業所間で情報を共有化し目標への方向性を統一できるよう努めた。各関係事業所間とも密に連携をとることで利用者様のニーズに応じたサービス提供を行えているか確認し、情報の共有をする事で利用者様の心身の変化や新たなニーズにも迅速に対応した。また主治医とも必要に応じて連携をとるよう努めた。毎月 1 回は利用者様のご自宅を訪問し、利用者様の状態を把握し、新たな課題が生じていないか、現状のサービス内容で満足されているか等確認した。また、ご家族にもサービス提供についての意見や在宅での利用者様のご様子等聞き取り行うことで家族様の介護負担の軽減も視野に入れサービスの検討に努めた。

Ⅲ．専門知識の向上

介護支援専門員は専門職であるという認識を持ち、地域包括支援センター・姫路市主催の研修会にも積極的に参加し、資質の向上に努めた。総合事業についても、最新情報を収集し把握に努めた。研修会での内容や最新情報等は事業所内で共有

できるように情報交換・共有を行った。

Ⅳ．特定事業所集中減算の回避

平成 30 年 3 月までは、居宅サービス全てに適応されていたが、平成 30 年 4 月からは、訪問介護、通所介護、地域密着型通所介護、福祉用具貸与のみに変更になる。引き続き中立・公正の立場で情報提供を行い他法人の事業所への紹介が出来るよう努める。

Ⅴ．介護予防支援

平成 29 年度は、地域包括支援センターとの連携強化に努め、適切な援助が行えるよう心がけた。年間で 11 名の新規利用者の獲得に繋がった。

Ⅵ.　年間収入の実績

総人数　（単位：人数）

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
要支援	H28	19	19	24	25	27	28	26	27	29	31	34	33	322
1.2	H29	34	19	23	22	21	21	23	24	25	23	23	24	282

		4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
要介護	H28	138	138	138	131	136	133	133	137	138	132	134	137	1,625
1～5	H29	129	74	73	73	76	78	78	80	84	86	91	101	1,023

総収入　（単位：千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
H28 年度実績	1,771	1,730	1,780	1,719	1,781	1,808	10,592
H29 年度実績	1,685	1,008	1,029	935	1,020	1,063	6,740
前年度との差異	-86	-722	-751	-784	-761	-745	-3,852
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
H28 年度実績	1,747	1,816	1,862	1,727	1,768	1,844	21,356
H29 年度実績	1,107	1,040	1,162	1,202	1,143	1,432	13,826
前年度との差異	-640	-776	-700	-525	-625	-412	-7,530

平成２９年度　デイサービスサンライフ安室

事業報告書

４月より個別機能訓練加算の算定を開始し、順調に経過した。また、７月より、御立事業所の協力の下、昼食の手作りを再開でき、利用者様からは好評をいただいている。

感染症の予防に努め、冬場は換気を１時間おきに行い、加湿器を使用することで、感染症が流行することなく営業できた。新たな試みとして、喫茶外出を行い、利用者様にも喜んでいただけたので、今後も定期的に行っていきたい。そして、利用者様へのアンケートを実施し、ニーズを調査することができた。

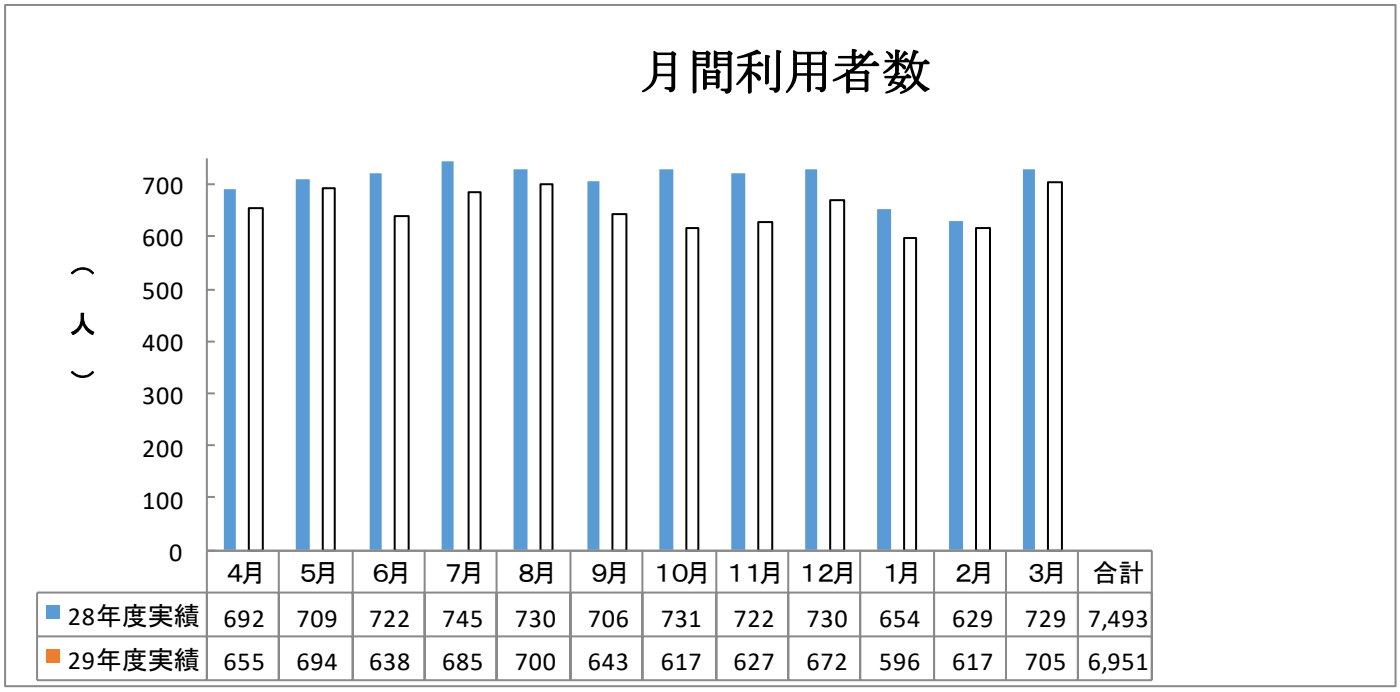
非常勤職員が播磨介護技術競技大会に参加し、最優秀賞を受賞したことで、職員の意識向上に繋がった。また、非常勤職員と個々に面談でき、サービス内容や業務について意見を聞け、今後のデイを考えていく上で参考になった。

営業活動については、理学療法士も参加し、居宅介護支援事業所へ訪問していたが、８月からは人員の都合で営業活動自体が難しくなっていたが、下半期の後半に再開することができ、居宅介護支援事業所へ理学療法士のいるデイというイメージを徐々にもっていただけているように思う。

利用人数については、長年利用されていた利用者様の入院や入所等が重なったことや、新規の利用者数が思うように獲得できなかったことで増えず、昨年よりも収入が減少している。

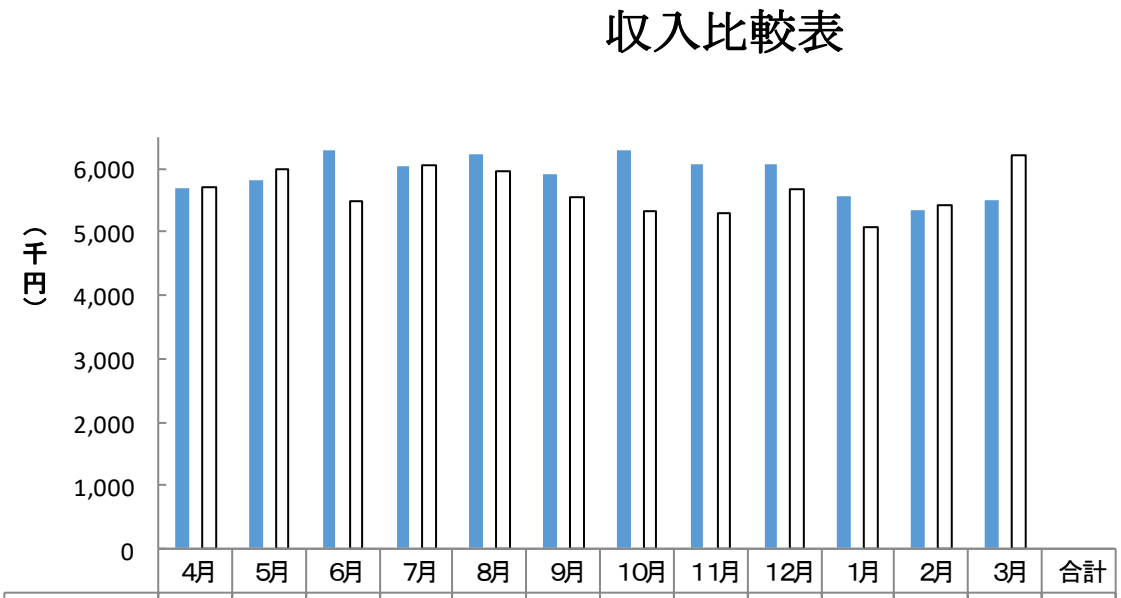
1．利用数

（単位：人）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度実績	692	709	722	745	730	706	731	722	730	654	629	729	7,493
29年度実績	655	694	638	685	700	643	617	627	672	596	617	705	6,951

2. 上半期収入　　（単位：千円）



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
■28年度実績	5,685	5,811	6,275	6,043	6,239	5,900	6,296	6,066	6,079	5,570	5,344	5,499	67,99
□29年度実績	5,695	5,975	5,470	6,036	5,955	5,540	5,312	5,293	5,685	5,069	5,407	6,193	64,19

3. 介護度別平均年齢及び利用者数

平成29年度介護度別平均年齢及び利用者数

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	10月	11月	12月	１月	２月	３月	平均
要支援1	86.82 (10)	87.56 (10)	86.98 (10)	86.31 (12)	85.70 (11)	85.78 (11)	86.21 (11)	86.30 (11)	86.38 (11)	86.46 (11)	86.31 (9)	85.85 (8)	86.60 (119)
要支援2	85.54 (12)	85.63 (12)	85.71 (12)	85.25 (14)	85.05 (15)	85.13 (15)	85.96 (12)	85.40 (13)	85.88 (13)	86.13 (12)	86.35 (10)	85.78 (13)	86.05 (141)
要介護1	85.00 (26)	85.61 (25)	84.89 (25)	83.99 (22)	84.99 (23)	85.50 (21)	84.70 (19)	85.25 (20)	84.20 (22)	83.64 (21)	84.24 (23)	84.00 (24)	84.68 (271)
要介護2	85.48 (15)	85.56 (15)	85.52 (14)	85.69 (15)	87.01 (14)	87.10 (14)	87.72 (15)	87.86 (14)	88.16 (15)	88.23 (13)	88.35 (14)	88.11 (16)	87.06 (174)
要介護3	88.27 (11)	88.69 (9)	87.55 (7)	87.60 (8)	86.76 (9)	85.94 (8)	88.06 (6)	83.62 (7)	83.13 (6)	86.88 (5)	86.12 (7)	84.32 (8)	86.73 (85)
要介護4	77.97 (6)	79.36 (7)	77.47 (6)	78.90 (7)	78.99 (7)	80.64 (6)	79.53 (5)	78.00 (6)	78.08 (6)	76.23 (5)	78.25 (6)	78.00 (7)	78.49 (74)
要介護5						89.63 (2)						90.00 (1)	89.75 (3)
合計	85.32 (80)	85.56 (78)	85.07 (74)	84.82 (78)	85.13 (79)	85.53 (77)	85.53 (72)	85.00 (75)	85.94 (76)	85.00 (70)	85.19 (70)	84.91 (77)	85.17 (906)

上段の数字は平均年齢、（　）内の数字は実利用者人数を示しています

4.各利用者・サービス提供時間

提供時間	3～5	5～7	7～9	合計
利用人数	190	1,880	5,777	7,847

5.職員充足度

デイサービスサンライフ安室

（職員 19 名）

【内訳】正職員 4 名（内理学療法士 1 名、育休中 1 名）非常勤看護師 3 名
非常勤介護職 12 名　（H 30 年 3 月現在）

							個別機能指導員（看護師）1 名含まない	
	営業日数	利用者/月	職員総時間数/月	利用者/日	職員/日	職員一人対	職員/日	職員一人対
4 月	25	655	1564	26.2	9.3	2.8	9.0	2.9
5 月	27	648	1709	24.0	10.2	2.4	9.2	2.6
6 月	26	638	1649	24.5	9.8	2.5	8.8	2.8
7 月	26	685	1725	26.3	10.3	2.6	9.2	2.9
8 月	27	700	1697	25.9	10.1	2.6	9.1	2.9
9 月	26	643	1651	24.7	9.8	2.5	8.8	2.8
10 月	26	617	1962	23.7	11.5	2.0	9.1	2.6
11 月	26	627	1939	24.1	11.5	2.1	10.6	2.3
12 月	26	672	1640	25.8	9.8	2.6	9.7	2.7
1 月	25	596	1794	23.8	10.7	2.2	9.0	2.6
2 月	24	617	1666	25.7	9.9	2.6	9.1	2.8
3 月	27	705	1947	26.1	11.6	2.3	10.5	2.5

6.その他

職員が利用料金を不正する事件が発生し、事実関係を調査した後、理事の方々へ報告し、兵庫県、姫路市へも報告した。利用料金の取り扱いについて見直し、従来は自己負担分の利用料金を現金で取り扱っていたが、銀行の通帳から引き落とす形に変更し、今回の事件の再発防止に取り組んだ。

平成２９年度　姫路市安室地域包括支援センター

事業報告書

平成 29 年 4 月より姫路市においても総合事業が開始となった。利用者様・家族様が混乱せずスムーズに移行できるようサポートに努めた。昨年度は職員の体調不良等により、職員体制が整わない月があったが、今年度は毎日朝礼時にラジオ体操を行う等で、体調管理を行い、職員体制を維持することができた。

I.　運営に係る業務

事業所内の連携については、今年度も毎日朝礼でミーティングを実施し、伝達事項や研修報告、新たな相談者・継続相談者等の報告を行うことで、事業所内での情報共有を確実に行った。また、月１回職員会議を立ちあげ、毎月 1 人ずつ担当者を決め、順番に主催してもらうことで、各職員が責任を持って取り組めるようにし、包括内研修、事例検討会も定例化できた。

II.　権利擁護・総合相談・支援業務

今年度も、センター便りを３ヶ月に１回、地域役員向け活動報告書を２ヶ月に１回発行し、地域包括支援センターの啓発、地域の実情把握を行うとともに、地域との連携強化に取り組んだ。

虐待対応については、継続支援の分も含め５件あり、迅速な対応をとり、姫路市とコア会議を開催する等市との連携もとり、対応できた。

認知症に対する地域支援としては、昨年度姫路市で開始となった認知症高齢者等の見守り・ＳＯＳネットワーク事業については啓発活動を行った。安室中学校区では現在７名の登録となっており、登録時には状況把握も行った。

認知症サロンについては、既存の１グループの開催支援を継続して行っているが、新規の立上げには至らなかった。認知症サロンではないが、既存で活動されているサロン等が多数あるので、社会資源として後方支援を行っていきたい。

III. 介護予防ケアマネジメント事業

介護予防については、毎月介護予防と認知症予防の啓発チラシを作成し、いきいき百歳体操の状況把握時に配布、短時間でポイントを説明し、啓発活動を行った。

また、いきいき百歳体操については、いきいき百歳体操体験会を開催し、残り１自治会の立上げに向けて啓発したが立上げには至らなかった。

今年度は新たに安室東校区の社協支部主催のふれあい喫茶で啓発活動等行えるようＰＲを行った。希望は田寺山手町のみだったが、地域包括の活動案内、認知症啓発等を行うことができた。

Ⅳ．年間収入について（総収入）

（千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H28 年度実績	2,180	2,571	2,537	2,523	2,184	2,151	14,146
H29 年度目標	2,626	2,626	2,633	2,628	2,624	2,619	15,756
H29 年度実績	2,652	2,609	2,613	2,654	2,603	2,609	15,740
前年度差異	472	38	76	131	419	458	1,594
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
H28 年度実績	2,168	2,560	2,518	2,517	2,526	2,541	28,976
H29 年度目標	2,596	2,608	2,616	2,628	2,626	2,636	31,466
H29 年度実績	2,623	2,606	2,634	2,620	2,619	2,607	31,449
前年度差異	455	46	116	103	93	66	2,473

プラン作成件数（自前プラン）

（件）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H28 年度実績	193	192	186	182	187	183	1,123
H29 年度目標	186	187	190	188	186	184	1,121
H29 年度実績	186	183	185	189	183	181	1,107
前年度差異	−7	−9	−1	7	−4	−2	−16
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
H28 年度実績	185	186	183	183	178	180	2,218
H29 年度目標	188	186	187	188	188	188	2,246
H29 年度実績	185	181	187	186	183	180	2,209
前年度差異	0	−5	4	3	5	0	−9

総合相談支援事業の相談者（重複あり）

（件）

区分	家族・本人	行政（市役所）	行政（警察等）	地域包括支援センター	ケアマネジャー	介護保険サービス事業者	医療機関	民生委員	地域団体等	その他
4月	54	3	2	0	4	3	3	0	1	4
5月	75	0	3	0	28	3	7	2	4	2
6月	99	4	2	0	25	3	10	8	1	3
7月	95	1	0	1	11	3	13	7	0	5
8月	85	1	0	0	3	5	10	4	5	0
9月	65	3	0	0	0	1	9	0	1	0
10月	75	0	0	0	5	0	8	2	1	0
11月	84	3	0	2	1	0	4	1	0	0
12月	100	1	0	0	2	0	13	0	6	0
1月	165	2	0	2	11	0	7	13	3	6
2月	58	1	0	1	3	4	0	4	3	2
3月	129	2	1	0	0	1	8	9	3	2
合計	1,084	21	8	6	93	23	92	50	28	24

相談内容（重複あり）

（件）

区分	一般相談			介護保険制度全般	フォーマルサービス	インフォーマルサービス	権利擁護関係			その他	ケアマネジメント支援
	介護・介護予防に関すること	医療・健康相談	生活相談				虐待	消費者被害	成年後見など		
4月	9	8	58	47	1	7	3	0	0	0	5
5月	23	11	89	83	8	5	12	2	2	2	5
6月	28	12	118	76	6	8	13	2	5	13	16
7月	28	13	88	100	17	20	14	0	0	1	0
8月	24	8	43	86	4	9	7	0	0	1	0
9月	11	4	40	60	7	6	0	0	0	0	0
10月	26	5	36	73	9	12	0	0	0	0	3
11月	21	10	48	67	3	16	0	0	0	0	0
12月	23	21	71	75	6	16	0	0	0	0	0
1月	14	26	91	160	12	23	0	0	1	0	8
2月	9	13	35	51	3	3	0	0	0	0	0
3月	25	28	106	136	5	3	0	0	1	1	0
合計	241	159	823	1,014	81	128	49	4	9	18	37

平成 29 年度　特別養護老人ホームサンライフ土山

事業報告書

今年度は、利用者様に寄り添ったケアの充実を図っていくため、サービス担当者会議やケアに対しての意向・要望の確認、実施を今まで以上に行うことを目標とした。看取り時は家族様参加のサービス担当者会議を行うことも出来た。また、職員の資質に関して、職員一人一人が役割分担を行い、責任を持って行動できるように教育・指導を行っており、研修・委員会・行事等について、意識の向上がみられた。

昨年度の利用者実績は 24,801 人、今年度は 24,912 人となり 111 人の増加となった。収入は、7,550,122 円増えたが支出も 6,362,430 円増加し、収支差額が 1,187,692 円であった。ベトナム職員に 330 万円程の出費を伴ったが、ベトナム職員が勤務することで派遣職員を終了することができた。また、人員不足から時間外労働が増えていたが、ベトナム職員が入ってからは徐々に改善された。

職員による、介助中のミスや伝達不足・ヒヤリハットを活かした対応の不足が見られた為、平成３０年度の課題としたい。

１．収入

（単位：千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 28 年度実績	28,032	29,085	27,795	28,471	28,143	28,581	170,107
平成 29 年度目標	28,782	29,074	28,121	29,055	29,200	28,051	172,283
平成 29 年度実績	28,711	30,435	28,933	29,778	29,533	29,051	176,441
前年度との差異	676	1,350	1,138	1,307	1,390	470	6,334
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 28 年度実績	29,711	28,108	28,598	29,559	25,862	30,522	342,467
平成 29 年度目標	29,033	28,209	28,785	28,587	26,123	29,063	342,083
平成 29 年度実績	27,987	29,798	29,588	29,500	26,949	29,675	349,938
前年度との差異	−1,724	1,690	990	−59	1,087	−847	7,471

２．利用者数

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成28年	2,043	2,110	2,029	2,023	2,048	2,063	12,316
平成29年	2,065	2,126	2,066	2,109	2,125	2,046	12,537
前年度との差異	22	16	37	86	77	−17	221
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年	2,146	2,042	2,096	2,114	1,929	2,158	24,801
平成29年	2,100	2,019	2,138	2,112	1,888	2,118	24,912
前年度との差異	−46	−23	42	2	−41	−40	111

３．入院者数

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成28年	53	57	53	109	95	34	401
平成29年	33	36	11	44	22	8	154
前年度との差異	−20	−21	−42	−65	−73	−26	−247
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年	13	19	56	22	23	12	546
平成29年	41	39	9	46	66	31	386
前年度との差異	28	20	−47	24	43	19	−160

４．稼働率

（単位：%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成28年	97	97.2	96.6	93.2	94.3	96.3	95.7
平成29年	98.3	97.9	98.3	97	98	97.4	97.8
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年	98.8	97	96.5	97.4	98.4	99	96.8
平成29年	96.7	96	98.5	97.3	96.3	97.6	97.4

５．平成29年度年齢別・介護度別利用者数

	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳以上～75歳未満	0	715（24）	365（12）	1140（38）
75歳以上～85歳未満	1023（36）	4770（161）	2960（101）	8844（299）
85歳以上～95歳未満	1240（43）	5020（173）	4739（164）	10999（380）

95歳以上	838（28）	2562（50）	605（21）	4005（135）
100歳以上	0	305（10）	0	305（10）
合計	3161（107）	13372（454）	8669（298）	25202（859）

前半の数字は延べ日数、()内の数字は実人数を示しています。

６．平成29年度　事故分類別発生数

	A	B	C	合計
合計	6	5	157	168

A：入院加療を要する事故　B：受診・通院を要する事故　C：受診・通院を要さない事故

Aランク：右大転子部骨折、胸椎12番圧迫骨折、急性硬膜下血腫、左大腿骨頸部骨折、パンを誤嚥、左大腿骨骨折

Bランク：左手第４指手根骨折、左上腕骨折、頸椎損傷（下半身不全）右足腓骨骨折　左大腿骨頸部骨折

７．平成29年度　退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
看取り介護	1	3	0	0	1	3	8
病院	0	0	4	2	2	1	9
急死	0	0	1	1	0	0	2
その他	1	0	0	0	0	0	1
合計	2	3	5	3	3	4	20
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看取り介護	2	1	2	0	0	0	13
病院	1	1	1	3	3	1	19
急死	0	0	0	0	0	0	2
その他	0	1	0	0	0	0	2
合計	3	3	3	3	3	1	36

８．事故報告

N様　見守り不足による事故２件

事故後の対	日時	場所	対象者 対応者	内容
	9月12日 (火)8:40	フロア、他者居室前	N(介護)	他者の居室前で左側臥位で転倒しているのを発見する。2人介助で車椅子に移乗、「お尻が痛い、頭は打っていない」と本人様話される。
	8:45		N(介護)	

応事故後の対応	8:50		N(介護)	バイタル測定実施、体温 35.6℃　血圧 142/69　脈拍 77 トイレ誘導実施。パット内排尿・排便あり。看護職員も立位確認行う。打撲等見られず、立位保持もできている。トイレからベッドへの手引き歩行時左鼠蹊部の痛みの訴えあり。
	8:55		N(介護)	
	9:10		N(介護)	看護師と可動域の確認行う。左足を動かす際に痛そうな表情をされる。本人持参の湿布貼付。 バイタル測定、体温 36.7℃　血圧 149/77　脈拍 72　ベッドからの立ち上がり時、左鼠蹊部の痛みの訴えあり。歩行中止し、車椅子使用する。
	10:00		N(介護)	
	14:00		H(介護)	バイタル測定、体温 36.6℃　血圧 171/92　脈拍 89　様子観察。 トイレ誘導時、顔面蒼白。立位が取れないため二人介助実施。下痢便(＋)、看護師に報告。体温 37.7℃、血圧 141/76　脈拍 71　離床・臥床動作時に痛みの訴え強かったため、座位にて首に保冷剤をまき様子見る。
	15:30		N(介護)	
	17:00		N(介護)	家人来園され、医療センターへの受診となる。転倒時の文章を家人に医師に渡して頂くようことづける。体温 37.6℃　血圧 150/72　脈拍 105 家族様より電話あり、本日検査入院することになったとのこと。足には問題ないようであるが、明日 MRI にて検査し問題がなければ退院できるとの話であったと説明受ける。内服薬情報の問い合わせがあったためいったん電話を切り、医務保管のケースを 2 階東に持ち出しすぐに書け直し報告する。
	19:15		H(介護)	
	20:00		H(介護)	息子様来園され、2 日分の薬を希望される。本日夕食後と明日朝食後の薬しかなく、看護師管理の薬は私は触ることができないこと説明。2 食分の薬を預ける。その際、レントゲンでは問題ないが脊椎に圧迫骨折の所見が数か所見られるとのことで、明日 MRI の検査をし問題がなければ退院できるとの報告を受ける。退院前に検査結果を報告してい頂くようお願いする。
	9 月 13 日 (水)18:00		H(介護)	明日退院すると連絡受ける。
	9 月 14 日 (木)10:00		N(看護師)	姫路医療センターより退院される。家族様より「昨日言ったのと少し話しが違うんです。MRI を撮って上から下まで

				古い圧迫骨折の痕がある。胸椎 12 番が圧迫骨折、仙骨は圧迫骨折の疑いと言われた。熱があるのは尿が汚いのでそこからきているのではないか。肺炎予防のためにも抗生剤の点滴をして食事は食べていなかった。水分だけ少しずつ飲んでいました。アモキシシリンカプセル 3T、オーグメンチン配合錠 3T/分 3 6 日分処方あり。安静に」と。帰園時KT37.0℃ P88 BP151/77 体熱感(+)ベット臥床し頭部クーリングにて様子見る。食事は本日粥、極刻みにて提供。

	日時	場所	対象者 対応者	内容
事故後の対応	9 月 13 日(月)18:00	居室内トイレ入り口	K(介護)	他の利用者様の部屋へ行くとにぶい音鳴り、急いで駆け付けるとトイレから立ち上がられたのかトイレの入り口で右を上にして側臥位で転倒しておられる。頭は居室で入口に向いており足はトイレ内にあった。本人様左大腿部内側と、左頭部をぶつけたと言われる。頭はしばらくして痛み伺うと痛くないと言われるも6㎝程のたんこぶあり。吐気・嘔吐(-)
	18:05		K(介護)	自力にて立位出来ない為2人介助で立位行う状態で以前圧迫骨折された時と同じような痛がり方をされる。 kt=36.6 bp=155/93 p=96 その後も臥床時痛みの訴え(+)
	19:30		M(介護)	大腿部痛みの確認すると「痛いんや。」と言われる。頭は痛みの訴え(-) kt=36.9 bp=123/81 p=95
	19:45		M(介護)	リーダーへ電話報告。 左大腿部の痛みはあるが、意識レベルはしっかりとしておられる為、左大腿部の痛み以外特変なければ、朝まで様子観察という話となる。
	20:0021:00		M(介護)	良眠されている。
	22:00		N(介護)	良眠されている。
	2017/11/14 0:00		N(介護)	パット交換時、左大腿部の痛みの訴えあるも、「ごめんな。気を遣わせて」と職員に気配りされる場面有。
	2:00 4:00		N(介護)	良眠されている。

	6:00		N(介護)	起床時、左大腿部の痛みの訴えあるも、暴力行為などはなく職員を「痛いんや。ごめんな」と職員を気遣われる。
	8:50		U(看護師)	長男嫁様に連絡する。
	9:00		M(介護)	2 人介助にて　ベッドに移動、移乗するも　強く痛み(+)
	9:30	姫路医療センター	N(看護師)	姫路医療センター受診。左大腿部 XP,頭部 CT 施行。CT 結果異常なし。左大腿骨転子部骨折にて入院の運びとなり金曜日 OP 予定。長男様夫婦来られ大西 Dr より状態説明される。

平成 29 年度　特別養護老人ホームサンライフ土山

事業報告書

今年度は、利用者様に寄り添ったケアの充実を図っていくため、サービス担当者会議やケアに対しての意向・要望の確認、実施を今まで以上に行うことを目標とした。看取り時は家族様参加のサービス担当者会議を行うことも出来た。また、職員の資質に関して、職員一人一人が役割分担を行い、責任を持って行動できるように教育・指導を行っており、研修・委員会・行事等について、意識の向上がみられた。

昨年度の利用者実績は 24,801 人、今年度は 24,912 人となり 111 人の増加となった。収入は、7,550,122 円増えたが支出も 6,362,430 円増加し、収支差額が 1,187,692 円であった。ベトナム職員に 330 万円程の出費を伴ったが、ベトナム職員が勤務することで派遣職員を終了することができた。また、人員不足から時間外労働が増えていたが、ベトナム職員が入ってからは徐々に改善された。

職員による、介助中のミスや伝達不足・ヒヤリハットを活かした対応の不足が見られた為、平成３０年度の課題としたい。

１．収入

（単位：千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 28 年度実績	28,032	29,085	27,795	28,471	28,143	28,581	170,107
平成 29 年度目標	28,782	29,074	28,121	29,055	29,200	28,051	172,283
平成 29 年度実績	28,711	30,435	28,933	29,778	29,533	29,051	176,441
前年度との差異	676	1,350	1,138	1,307	1,390	470	6,334
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 28 年度実績	29,711	28,108	28,598	29,559	25,862	30,522	342,467
平成 29 年度目標	29,033	28,209	28,785	28,587	26,123	29,063	342,083
平成 29 年度実績	27,987	29,798	29,588	29,500	26,949	29,675	349,938
前年度との差異	−1,724	1,690	990	−59	1,087	−847	7,471

２．利用者数

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成28年	2,043	2,110	2,029	2,023	2,048	2,063	12,316
平成29年	2,065	2,126	2,066	2,109	2,125	2,046	12,537
前年度との差異	22	16	37	86	77	−17	221
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年	2,146	2,042	2,096	2,114	1,929	2,158	24,801
平成29年	2,100	2,019	2,138	2,112	1,888	2,118	24,912
前年度との差異	−46	−23	42	2	−41	−40	111

３．入院者数

（単位：人）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成28年	53	57	53	109	95	34	401
平成29年	33	36	11	44	22	8	154
前年度との差異	−20	−21	−42	−65	−73	−26	−247
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年	13	19	56	22	23	12	546
平成29年	41	39	9	46	66	31	386
前年度との差異	28	20	−47	24	43	19	−160

４．稼働率

（単位：%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
平成28年	97	97.2	96.6	93.2	94.3	96.3	95.7
平成29年	98.3	97.9	98.3	97	98	97.4	97.8
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年	98.8	97	96.5	97.4	98.4	99	96.8
平成29年	96.7	96	98.5	97.3	96.3	97.6	97.4

５．平成29年度年齢別・介護度別利用者数

	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳以上～75歳未満	0	715（24）	365（12）	1140（38）
75歳以上～85歳未満	1023（36）	4770（161）	2960（101）	8844（299）
85歳以上～95歳未満	1240（43）	5020（173）	4739（164）	10999（380）

95歳以上	838（28）	2562（50）	605（21）	4005（135）
100歳以上	0	305（10）	0	305（10）
合計	3161（107）	13372（454）	8669（298）	25202（859）

前半の数字は延べ日数、()内の数字は実人数を示しています。

６．平成29年度　事故分類別発生数

	A	B	C	合計
合計	6	5	157	168

A：入院加療を要する事故　B：受診・通院を要する事故　C：受診・通院を要さない事故

Aランク：右大転子部骨折、胸椎12番圧迫骨折、急性硬膜下血腫、左大腿骨頸部骨折、パンを誤嚥、左大腿骨骨折

Bランク：左手第４指手根骨折、左上腕骨折、頸椎損傷（下半身不全）右足腓骨骨折　左大腿骨頸部骨折

７．平成29年度　退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
看取り介護	1	3	0	0	1	3	8
病院	0	0	4	2	2	1	9
急死	0	0	1	1	0	0	2
その他	1	0	0	0	0	0	1
合計	2	3	5	3	3	4	20
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
看取り介護	2	1	2	0	0	0	13
病院	1	1	1	3	3	1	19
急死	0	0	0	0	0	0	2
その他	0	1	0	0	0	0	2
合計	3	3	3	3	3	1	36

８．事故報告

N様　見守り不足による事故２件

事故後の対	日時	場所	対象者 対応者	内容
	9月12日 (火)8:40	フロア、他者居室前	N(介護)	他者の居室前で左側臥位で転倒しているのを発見する。2人介助で車椅子に移乗、「お尻が痛い、頭は打っていない」と本人様話される。
	8:45		N(介護)	

応事故後の対応	8:50		N(介護)	バイタル測定実施、体温 35.6℃　血圧 142/69　脈拍 77 トイレ誘導実施。パット内排尿・排便あり。看護職員も立位確認行う。打撲等見られず、立位保持もできている。トイレからベッドへの手引き歩行時左鼠蹊部の痛みの訴えあり。
	8:55		N(介護)	
	9:10		N(介護)	看護師と可動域の確認行う。左足を動かす際に痛そうな表情をされる。本人持参の湿布貼付。 バイタル測定、体温 36.7℃　血圧 149/77　脈拍 72　ベッドからの立ち上がり時、左鼠蹊部の痛みの訴えあり。歩行中止し、車椅子使用する。
	10:00		N(介護)	
	14:00		H(介護)	バイタル測定、体温 36.6℃　血圧 171/92　脈拍 89　様子観察。 トイレ誘導時、顔面蒼白。立位が取れないため二人介助実施。下痢便(＋)、看護師に報告。体温 37.7℃、血圧 141/76　脈拍 71　離床・臥床動作時に痛みの訴え強かったため、座位にて首に保冷剤をまき様子見る。
	15:30		N(介護)	
	17:00		N(介護)	家人来園され、医療センターへの受診となる。転倒時の文章を家人に医師に渡して頂くようことづける。体温 37.6℃　血圧 150/72　脈拍 105 家族様より電話あり、本日検査入院することになったとのこと。足には問題ないようであるが、明日 MRI にて検査し問題がなければ退院できるとの話であったと説明受ける。内服薬情報の問い合わせがあったためいったん電話を切り、医務保管のケースを 2 階東に持ち出しすぐに書け直し報告する。
	19:15		H(介護)	
	20:00		H(介護)	息子様来園され、2 日分の薬を希望される。本日夕食後と明日朝食後の薬しかなく、看護師管理の薬は私は触ることができないこと説明。2 食分の薬を預ける。その際、レントゲンでは問題ないが脊椎に圧迫骨折の所見が数か所見られるとのことで、明日 MRI の検査をし問題がなければ退院できるとの報告を受ける。退院前に検査結果を報告してい頂くようお願いする。
	9 月 13 日 (水)18:00		H(介護)	明日退院すると連絡受ける。
	9 月 14 日 (木)10:00		N(看護師)	姫路医療センターより退院される。家族様より「昨日言ったのと少し話しが違うんです。MRI を撮って上から下まで

				古い圧迫骨折の痕がある。胸椎 12 番が圧迫骨折、仙骨は圧迫骨折の疑いと言われた。熱があるのは尿が汚いのでそこからきているのではないか。肺炎予防のためにも抗生剤の点滴をして食事は食べていなかった。水分だけ少しずつ飲んでいました。アモキシシリンカプセル 3T、オーグメンチン配合錠 3T/分 3 6 日分処方あり。安静に」と。帰園時KT37.0℃ P88 BP151/77 体熱感(+)ベット臥床し頭部クーリングにて様子見る。食事は本日粥、極刻みにて提供。

	日時	場所	対象者 対応者	内容
事故後の対応	9 月 13 日(月)18:00	居室内トイレ入り口	K(介護)	他の利用者様の部屋へ行くとにぶい音鳴り、急いで駆け付けるとトイレから立ち上がられたのかトイレの入り口で右を上にして側臥位で転倒しておられる。頭は居室で入口に向いており足はトイレ内にあった。本人様左大腿部内側と、左頭部をぶつけたと言われる。頭はしばらくして痛み伺うと痛くないと言われるも6㎝程のたんこぶあり。吐気・嘔吐(-)
	18:05		K(介護)	自力にて立位出来ない為2人介助で立位行う状態で以前圧迫骨折された時と同じような痛がり方をされる。 kt=36.6 bp=155/93 p=96 その後も臥床時痛みの訴え(+)
	19:30		M(介護)	大腿部痛みの確認すると「痛いんや。」と言われる。頭は痛みの訴え(-) kt=36.9 bp=123/81 p=95
	19:45		M(介護)	リーダーへ電話報告。 左大腿部の痛みはあるが、意識レベルはしっかりとしておられる為、左大腿部の痛み以外特変なければ、朝まで様子観察という話となる。
	20:0021:00		M(介護)	良眠されている。
	22:00		N(介護)	良眠されている。
	2017/11/14 0:00		N(介護)	パット交換時、左大腿部の痛みの訴えあるも、「ごめんな。気を遣わせて」と職員に気配りされる場面有。
	2:00 4:00		N(介護)	良眠されている。

	6:00		N(介護)	起床時、左大腿部の痛みの訴えあるも、暴力行為などはなく職員を「痛いんや。ごめんな」と職員を気遣われる。
	8:50		U(看護師)	長男嫁様に連絡する。
	9:00		M(介護)	2 人介助にて　ベッドに移動、移乗するも　強く痛み(+)
	9:30	姫路医療センター	N(看護師)	姫路医療センター受診。左大腿部 XP,頭部 CT 施行。CT 結果異常なし。左大腿骨転子部骨折にて入院の運びとなり金曜日 OP 予定。長男様夫婦来られ大西 Dr より状態説明される。

平成 29 年度サンライフ土山ショートステイ

事業報告書

今年度は経営スローガンである、「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」を目標に、職員の人材育成や介護記録の内容の充実に力を入れた。

職員の人材育成に関して、①委員会や研修を通し、介護技術の向上に努めた。スライディングボードなどが必要な重たい利用者様の介助に対しては、個別に介助方法を指導し、適切に福祉用具が扱えるよう指導を行なった。②電話対応については、電話の近くに専用のメモ用紙を配置し、項目通りに用紙に記入していくことで聞き忘れや伝え忘れが無いよう指導を行なった。③ショートステイの説明（料金や利用方法、送迎時間など）や契約業務が出来る職員を育てることを目標としていたが、まだ 1 人で出来るようにはなっていない為、引き続き指導を行なっていく。④パソコンで打っている記録がいつも同じになってしまっており、特記事項など必要な情報が記入されていないことが多いため指導を行なった。少しずつだが、内容が増えてきている状況であるが、まだまだ内容が少ないため、継続して指導を行なっていく必要がある。

記録の内容の充実について、フェイスシートに関して情報が更新できておらず、古い情報のままであることが多かった。身体状況に変化が見られた時などはフェイスシートを更新、また定期的にフェイスシートを更新するようにし、最新の情報が共有できるように努めた。また、月一回のユニット会議の際に利用者の情報を職員で出し合い共有はしていたが、その情報をフェイスシートにまでは反映できていなかったため、反映するようにした。

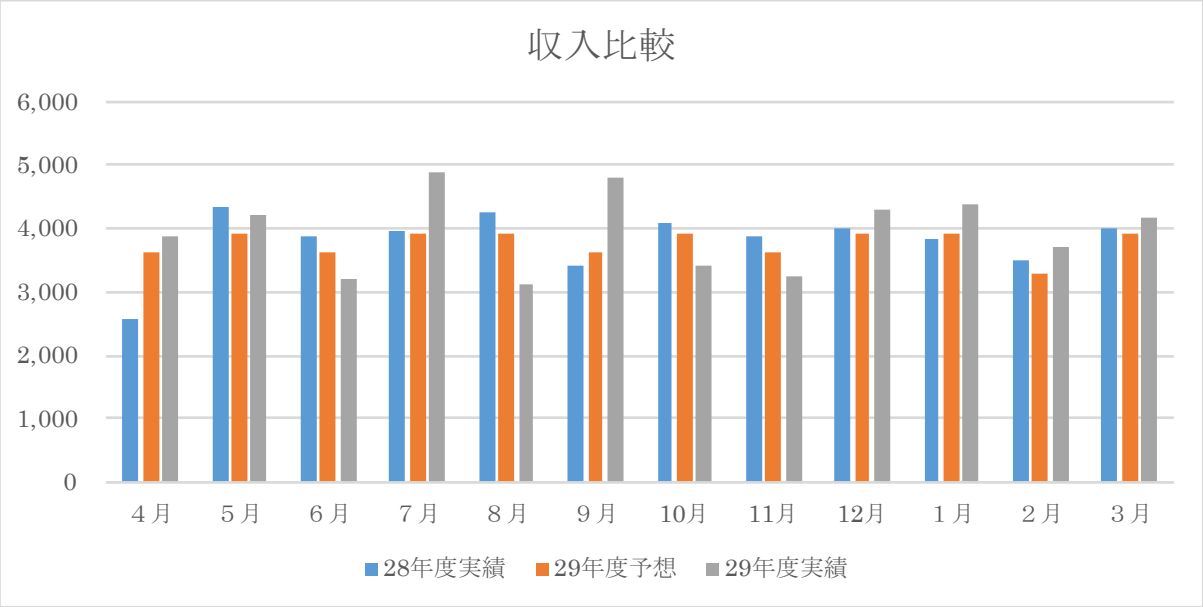
事故についてだが、今年度は前年度より事故件数が 14 件も増加してしまった。内訳として、特定のロング利用者の繰り返しの転倒事故が多くなっている。その都度対応は行ったが、現場で出来ることには限りあることを伝え、身元引受人に了承を得た。今後も家族様の理解、協力の元、対策を考えていく。

収入・利用者様の確保について、今年度は、月平均稼働率 97%を目標としていたが、結果として月平均稼働率 99%と目標を上回ることが出来た。しかし、月によって稼働率のばらつきが大きいため、安定した稼働率を確保できるよう営業活動が必要である。10 月・11 月はロングから特養入所に入る方が多く、新たなロングの方の面談や契約が追い付かなかったため、常に何人もの待機者を確保できるよう、普段からケアマネと連携を密に取っていくようにする。また、特養相談員や医務とも連携を取り、入院ベッドの利用を積極的に行なっていく。

1. 収入

平成 28 年度・平成 29 年度　収入　（千円）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	小計
28 年度実績	2, 582	4, 354	3, 896	3, 947	4, 265	3, 422	22, 466
29 年度目標	3, 634	3, 930	3, 634	3, 930	3, 930	3, 634	22, 692
29 年度実績	3, 893	4, 233	3, 216	4, 872	3, 111	4, 805	24, 130
前年との差異	1, 311	−121	−680	925	−1, 154	1, 383	1, 664
	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	合計
28 年度実績	4, 098	3, 889	4, 019	3, 836	3, 503	4, 005	45, 816
29 年度目標	3, 930	3, 634	3, 930	3, 930	3, 282	3, 930	45, 328
29 年度実績	3, 415	3, 244	4, 319	4, 369	3, 711	4, 195	47, 383
前年との差異	−683	−645	300	533	208	190	1, 567



2.利用人数・宿泊人数

Ⅰ. 平成 28 年度・平成 29 年度　利用人数　（人）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	小計
28 年度実績	198	330	303	306	328	289	1, 754
29 年度実績	303	321	301	319	308	293	1, 845
前年との差異	105	−9	−2	13	−20	4	91
	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	合計
28 年度実績	294	299	309	296	281	305	3, 538
29 年度実績	257	265	302	331	311	299	3, 610
前年との差異	−37	−34	−7	35	30	−6	72

Ⅱ. 平成 28 年度・平成 29 年度　宿泊人数　（人）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	小計
28 年度実績	169	303	275	275	299	265	1,586
29 年度実績	276	298	275	293	282	273	1,697
前年との差異	107	−5	0	18	−17	8	111
	10 月	11 月	12 月	１月	２月	３月	合計
28 年度実績	265	277	282	271	258	284	3,223
29 年度実績	229	230	273	305	289	277	3,300
前年との差異	−36	−47	−9	34	31	−7	77

3. 年齢別・介護度別利用人数

平成29年度上半期年齢別・介護度別利用者数

	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満		10 (5)		5 (2)			16 (1)	31 (8)
65歳以上～75歳未満			3 (1)	130 (9)	49 (6)	186 (18)	18 (2)	386 (36)
75歳以上～85歳未満	3 (1)	5 (2)	84 (12)	109 (7)	188 (13)	179 (9)	196 (11)	764 (55)
85歳以上		180 (12)	212 (39)	351 (52)	548 (29)	796 (54)	342 (6)	2429 (207)
合計		195 (19)	299 (52)	595 (70)	785 (48)	1161 (81)	572 (35)	3610 (306)

前半の数字は延べ日数、（　）内の数字は実人数を示しています

4. 稼働率

●平成 28 年度・平成 29 年度　月ごとの稼働率　（%）

	４月	５月	６月	７月	８月	９月
稼働率（28 年）	66	106.5	101	98.7	105.8	96.3
稼働率（29 年）	101	103.5	100.3	102.9	99.4	97.7

	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	平均
稼働率（28 年）	94.8	99.7	99.7	95.5	100.4	98.4	96.9
稼働率（29 年）	82.9	88.3	97.4	106.8	111	96.4	99.0

5. 事故件数

●平成28年度　事故件数　　●平成29年度　事故件数

A：入院加療を要する事故

B：痛み・外傷を伴う事故（受診・通院を要する事故）

C：痛み・外傷を伴わない事故

	A	B	C	合計		A	B	C	合計
4 月	0	0	0	0	4 月			4	4
5 月	0	0	3	3	5 月			5	5
6 月	0	0	3	3	6 月		1	4	5
7 月	0	0	2	2	7 月			4	4
8 月	0	0	2	2	8 月			1	1
9 月	0	0	4	4	9 月			4	4
10 月	0	0	1	1	10 月			1	1
11 月	0	0	6	6	11 月			3	3
12 月	0	1	1	2	12 月	1		9	10
1 月	0	1	4	5	1 月		2	1	3
2 月	0	0	0	0	2 月			4	4
3 月	0	0	4	4	3 月	1		1	2
計	0	2	30	32	計	2	3	41	46

平成 29 年度特別養護老人ホームサンライフ土山（医務）

事業報告書

平成 29 年度サンライフ土山は、「家族様参加」を重点項目として取り組だ。家族様に要望・意見をいつでも言える体制があることを知って頂き、普段から入居者、家族様との信頼関係を保てるようコミュニケーションをはかるようにした。また、看取り期にも、家族様と面談し、13 名もの施設での看取りがあった。平均要介護度 4.22 と高く、入居者の高齢化、重度化している状況の中、他職種と情報共有・チームケアをし、入居者の身体・精神状態や生活機能をアセスメントし、介護度が重度化しないよう、生活機能が維持できるよう支援していった。しかし、入院者数は、33 名となっている。この数字は昨年の 1.5 倍となっている。特に突出しているのは「肺炎」であり「骨折」も増加傾向にある。これに関しては、施設で実施できる医療処置の説明を行い本人および家族の同意の下、できるだけ施設内で対応しているが、次年度の課題としたい。

自力喀痰喀出できない入居者に、4 名の介護職員（認定特定行為業務従事者）と連携し担当職員時のみ吸引ができるようになった。

想定外の事故や骨折が 11 件、誤薬が 1 件あった。リスク委員の開催、安全管理のためのマニュアル、業務手順の見直し、職員の再教育・研修を実施し再発防止にむけて安全管理に取り組んだ。オンコール用紙を見直し、正確な報告ができるよう考えた。

感染性胃腸炎・インフルエンザ等の感染症の予防に努めたが、インフルエンザが 6 名発症し、感染拡大を最小限にとどめるように努めた。職員の健康（健診、メンタルヘルス対策、腰痛予防等）の保持増進にも配慮した。

研修において、「介護の救急対応」という本を 5 冊購入し、各ユニットに配布し、緊迫状態での正しい対応ができるように全職員が熟読し、心肺蘇生法の実施研修も行った。医務室においては入居者一人ひとりの安全で快適な生活と健康を支えていくために、次年度の課題としたい。

1.　受診者数（往診は除く）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	計
内科	2 名	1 名	4 名	5 名	4 名	2 名	5 名	4 名	8 名	6 名	4 名	6 名	51 名
その他	4 名	4 名	11 名	14 名	6 名	3 名	10 名	12 名	23 名	17 名	24 名	14 名	142 名
合計	6 名	5 名	15 名	19 名	10 名	5 名	15 名	16 名	31 名	23 名	28 名	20 名	193 名

2.　褥瘡

項目	平成 29 年度	平成 29 年 3 月状況
褥瘡者	4 名	0 名

Ⅰ．　4 名の入居者にステージⅡの褥瘡が発症した。定期的にアセスメントし、治療過程の評価とケアを行い完治させた。

3.　看取り

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
H29年度	1名	3名	0名	0名	1名	3名	2名	1名	2名	0名	0名	0名	13名

4.　利用者数・稼働率・入院者数・延べ入院日数・退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
利用者数（人）	2065	2126	2066	2109	2125	2046	2100	2019	2138	2112	1888	2118	24912
稼働率（%）	98.3	97.9	98.3	97.0	98.0	97.4	96.7	96.0	98.5	97.3	96.3	97.6	97.4
入院者数（人）	1	2	4	4	2	0	3	4	2	4	6	1	33
延べ入院日数	33	36	11	44	22	8	41	39	9	46	66	31	386
退所者（人）	2	3	5	3	3	4	3	2	3	3	3	1	35

Ⅰ．　入院の多くが肺炎であった。下半期の対策として、口腔内をいつも綺麗にしておくことや寝る姿勢等日常生活の工夫をし、誤嚥しないように唾液腺マッサージや嚥下体操を施行し肺炎予防に努めたい。

5.　平成29年度　事故

	計
Aランク	6
Bランク	5
Cランク	157
合計	168

A：入院加療を要する事故　B：受診・通院を要する事故　C：受診・通院を要さない事故

Aランク：右大転子部骨折、胸椎12番圧迫骨折、急性硬膜下血腫、左大腿骨頚部骨折、誤嚥、左大腿骨骨折

Bランク：左手第４指手根骨折、頭部打撲、左上腕骨顆上骨折、頚髄損傷（不全麻痺）、右腓骨骨折

Cランク：誤薬１件あり

6.　研修

		参加人数
5 月	バイタルサインについて	6 人
7 月	急変時の対応　心肺蘇生法	25 人
9 月	褥瘡予防について	10 人
11 月	感染症について	8 名
1 月	ターミナルケアについて	6 名
3 月	基礎疾患について	5 名

Ⅰ.血圧測定が難しい状態の時、介護職員が測定できる上腕血圧計を 1 台購入した。

Ⅱ.心肺停止時の蘇生板を 1 台購入した。

平成 29 年度特別養護老人ホームサンライフ土山(厨房)

事業報告書

平成 29 年度は、マンネリ化していた献立内容の見直しと非常食のマニュアルの作成を主に行った。献立については、給食をとっている職員に対し献立についてアンケートを行った。アンケート結果では、増やして欲しい献立に、カレーライスや麺類、丼が上位を占めた。そのため、カレーライスや丼は必ず月に 1 回献立に入れるようにし、使用する食材も季節により少しずつ変化させた。麺類については、利用者様からも「うどんが食べたい。」「ラーメンが食べたい。」という声があったため、昨年までは年越しそばを含めて年に 3、4 回程度しか提供していなかったが、天ぷらうどんや月見うどん、冷やしそうめん、冷やし中華、醤油ラーメン等、バリエーションを変えて提供することができた。

衛生管理については、帽子の下にヘアーキャップをかぶる、厨房に入る前の厨房着のコロコロ、調理前・調理後の包丁のチェック等を行い、異物混入の防止に努めた。また、手洗いチェッカーにより普段の手洗いがきちんと行えているか確認を行い、手洗い方法の再確認を行った。

厨房職員については、非常勤職員同士のカバーにより急な勤務変更にも対応できた。

栄養ケアマネジメントについては、平成 30 年 3 月時点で、低リスク 39 名・中リスク 29 名・高リスク 2 名となっており、高リスクの理由は褥瘡 1 名と大幅な体重減少 1 名であった。

非常食のマニュアルについては、献立の見直しと、調理方法や 1 人分の分量、使用する容器まで記載し、管理栄養士がいなくても誰もが提供できるよう工夫した。また、使用できるライフラインによって提供できるものも異なる。そのため、調理機器の安全点検表と使用可能なライフラインの状況を想定し、その場合は何を提供できるかを記したものを併せて作成した。

1　栄養ケアマネジメント・食事形態について

Ⅰ　栄養マネジメントについて

（人）

	低リスク	中リスク	高リスク
平成 29 年 2 月	38	30	2
平成 30 年 3 月	39	29	2

Ⅱ　食事形態について

（人）

	普通食	刻み食	極刻み食	ミキサー食
平成 29 年 4 月	23	20	21	6
平成 30 年 3 月	24	16	16	13

刻み食・極刻み食が減少し、ミキサー食が増加した。

平成 29 年度特別養護老人ホームサンライフ土山(厨房)

事業報告書

平成 29 年度は、マンネリ化していた献立内容の見直しと非常食のマニュアルの作成を主に行った。献立については、給食をとっている職員に対し献立についてアンケートを行った。アンケート結果では、増やして欲しい献立に、カレーライスや麺類、丼が上位を占めた。そのため、カレーライスや丼は必ず月に 1 回献立に入れるようにし、使用する食材も季節により少しずつ変化させた。麺類については、利用者様からも「うどんが食べたい。」「ラーメンが食べたい。」という声があったため、昨年までは年越しそばを含めて年に 3、4 回程度しか提供していなかったが、天ぷらうどんや月見うどん、冷やしそうめん、冷やし中華、醤油ラーメン等、バリエーションを変えて提供することができた。

衛生管理については、帽子の下にヘアーキャップをかぶる、厨房に入る前の厨房着のコロコロ、調理前・調理後の包丁のチェック等を行い、異物混入の防止に努めた。また、手洗いチェッカーにより普段の手洗いがきちんと行えているか確認を行い、手洗い方法の再確認を行った。

厨房職員については、非常勤職員同士のカバーにより急な勤務変更にも対応できた。

栄養ケアマネジメントについては、平成 30 年 3 月時点で、低リスク 39 名・中リスク 29 名・高リスク 2 名となっており、高リスクの理由は褥瘡 1 名と大幅な体重減少 1 名であった。

非常食のマニュアルについては、献立の見直しと、調理方法や 1 人分の分量、使用する容器まで記載し、管理栄養士がいなくても誰もが提供できるよう工夫した。また、使用できるライフラインによって提供できるものも異なる。そのため、調理機器の安全点検表と使用可能なライフラインの状況を想定し、その場合は何を提供できるかを記したものを併せて作成した。

1　栄養ケアマネジメント・食事形態について

Ⅰ　栄養マネジメントについて

（人）

	低リスク	中リスク	高リスク
平成 29 年 2 月	38	30	2
平成 30 年 3 月	39	29	2

Ⅱ　食事形態について

（人）

	普通食	刻み食	極刻み食	ミキサー食
平成 29 年 4 月	23	20	21	6
平成 30 年 3 月	24	16	16	13

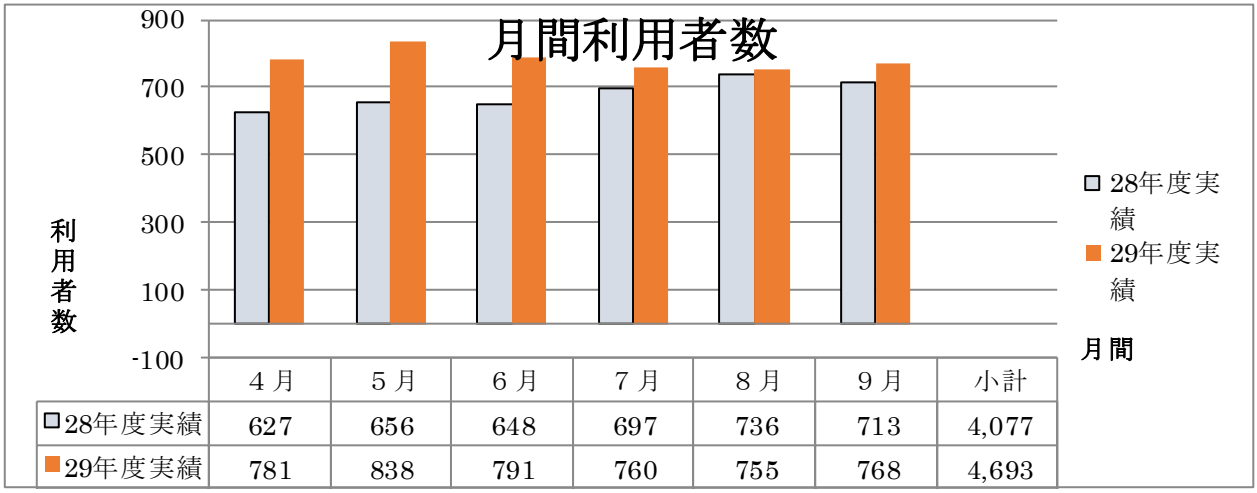
刻み食・極刻み食が減少し、ミキサー食が増加した。

平成２９年度　デイサービスサンライフ土山

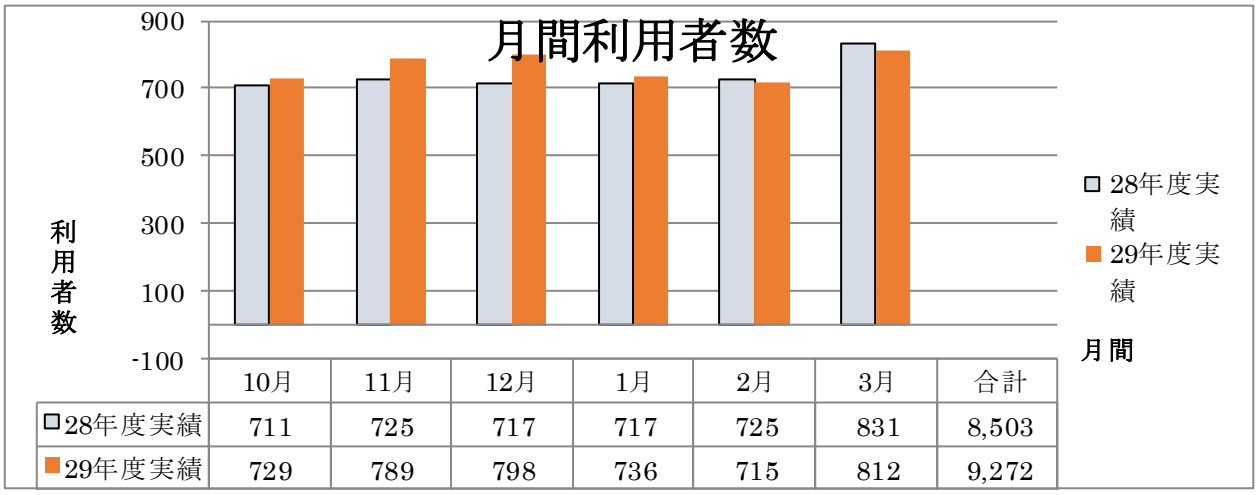
事業報告書

29 年度は、業務の効率化と利用者様意欲向上に努めた。業務の効率化においては、利用料金の集金方法が、手集金より銀行口座からの引き落としとなり、事務業務の簡素化に繋がった。また、記録の簡素化については、アプリを活用することにより、連絡帳・ケース記録等、記録業務の効率化を図ることを目標としていたが、改善点が多く、29 年度は運用には至っていない。また、送迎業務においては、ルートの見直しを行い、効率よく送迎を行うことが出来た。利用者様意欲の向上においては、契約時に聞き取れた情報をもとに、朝礼や反省会を通し、職員間で、利用者様一人一人のモニタリングやケアの見直しを行い、選択レクのレパートリー増加に繋げ、利用者様意欲の向上を図ることを目標に掲げていたが、職員の欠員（体調不良等）があり、日々の業務をこなすことに追われ、新たなサービスへの取り組みは出来ていない。また、収支に関しては、特養・ショートステイ・居宅との連携を活かし、利用者様の確保を図った。定員 35 名から 40 名に変更し、月の利用者様平均、29.8 人と増加することができ、収入増を得ることが出来た。支出面においては、光熱水費の節約により、支出防止に努めていきたい。

1. 利用者数

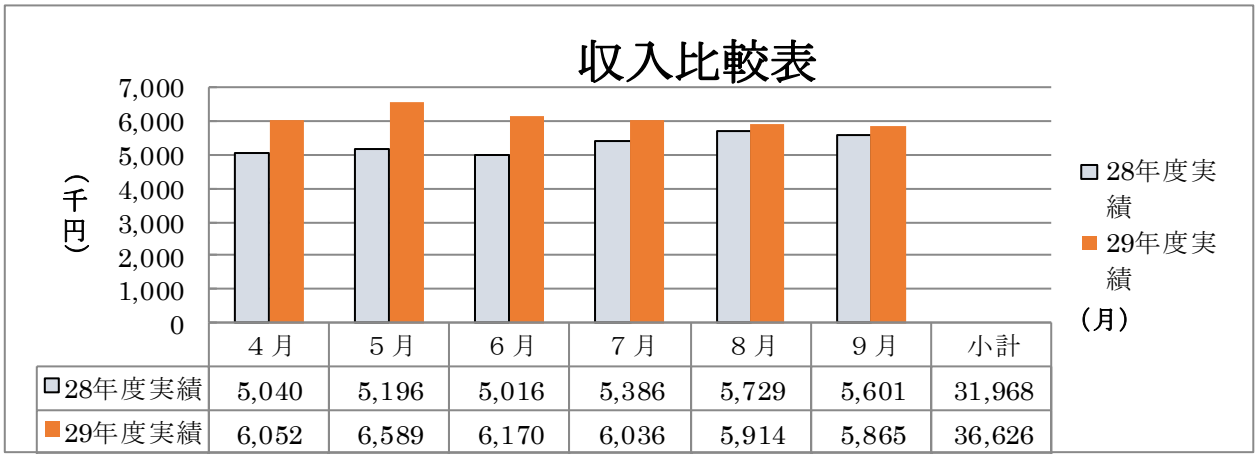


	４月	５月	６月	７月	８月	９月	小計
28年度実績	627	656	648	697	736	713	4,077
29年度実績	781	838	791	760	755	768	4,693

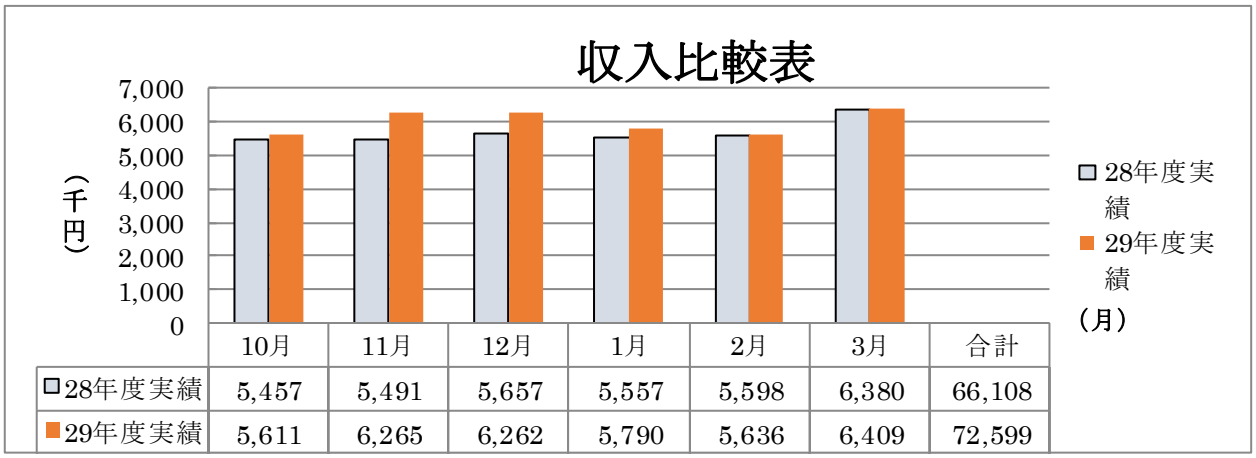


	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度実績	711	725	717	717	725	831	8,503
29年度実績	729	789	798	736	715	812	9,272

2. 収入　　（単位：千円）



	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
28年度実績	5,040	5,196	5,016	5,386	5,729	5,601	31,968
29年度実績	6,052	6,589	6,170	6,036	5,914	5,865	36,626



	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
28年度実績	5,457	5,491	5,657	5,557	5,598	6,380	66,108
29年度実績	5,611	6,265	6,262	5,790	5,636	6,409	72,599

3.年齢別・介護度別利用者数

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満							143 (12)		143 (12)
65歳以上～75歳未満	86 (10)		46 (8)	359 (21)	249 (30)		99 (14)	51 (11)	890 (94)
75歳以上～85歳未満		259 (66)	464 (69)	1103 (104)	513 (52)	296 (33)	100 (20)	228 (12)	2963 (356)
85歳以上		292 (70)	811 (111)	2446 (236)	768 (84)	680 (83)	208 (26)	71 (10)	5276 (620)
合計	86 (10)	551 (136)	1321 (188)	3908 (361)	1530 (166)	976 (116)	550 (72)	350 (33)	9272 (1082)

前半の数字は延べ回数、（　）内の数字は実人数を示しています

4.職員充足度（H30年3月現在）

職員18名（正職員5名　非常勤看護師2名　非常勤介護職員11名）

	営業日数	利用者/月	職員総時間数/月	利用者/日	職員/日	職員一人対	個別機能指導員（看護師）1名含まない 職員/日	職員一人対
4月	25	781	2397	31.2	11.9	2.6	10.9	2.9
5月	27	838	2522.5	31.1	12.3	2.5	11.3	2.8
6月	26	791	2432	30.4	11.5	2.6	10.5	2.9
7月	26	760	2489	29.2	11.9	2.5	10.9	2.7
8月	27	755	2585	28	11.2	2.5	10.2	2.7
9月	26	768	2567	29.6	10.5	2.8	9.5	3.1
10月	26	729	2677.5	28.0	11.5	2.4	10.5	2.7
11月	26	789	2542	30.4	10.8	2.8	9.8	3.1
12月	26	798	2535	30.7	10.4	2.9	9.4	3.2
1月	25	736	2600	29.4	10.3	2.9	9.3	3.2
2月	24	715	2408.5	29.8	11	2.7	10	3
3月	27	812	2659.5	30.1	11.8	2.6	10.8	2.8

平成 29 年度　サンライフ土山居宅介護支援事業所

事業報告書

29 年度の開設当初から、短期入所の集中減算の可能性が高い状態であったが
回避できず、次年度の上半期が減算対象となってしまった。
新規開設の為、まずは事業所を覚えて頂く事からの営業活動を行なってきたが、
地域包括や他の居宅よりご紹介頂く機会も増え開設月以外は新規依頼も毎月平均
2～3 人あった。しかし、入所者入院者も多く思うような増収に繋がらなかった。
今後は営業エリアの拡大、営業先の見直しの必要があると思う
年間を通して事業所全体の利用者の状態を見ても、重度の認知症の方を担当する機会が
増えてきた。　介護保険内サービスだけではなく今後はインフォーマルサービスの知識
を高めサービスに導入していく必要性を事業所内でも強く感じた。
医療との連携についても　入退院時の情報提供が全ての方に出来ていない事も
あり、今後はスムーズに医療との連携が図れるように入院時の情報提供 100%を目指し
職員全員で取り組んでいく。

＜総収入＞　（単位：千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度目標		722	750	760	794	804	3.830
平成 29 年度実績		839	720	761	774	786	3.880
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度目標	828	838	845	855	865	883	8.944
平成 29 年度実績	800	879	867	838	804	908	8.976

＜居宅介護支援費＞　（単位：千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度目標		686	708	718	751	761	3. 624
平成 29 年度実績		788	660	637	682	692	3. 459
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度目標	781	789	795	809	821	840	8. 459
平成 29 年度実績	711	789	753	727	698	815	7. 952

＜介護予防支援費　委託受入実績＞　（単位：千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度目標		33	37	37	41	41	189
平成 29 年度実績		42	42	70	71	68	293
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度目標	41	45	45	41	41	41	443
平成 29 年度実績	72	69	69	89	76	76	744

＜訪問調査　委託受入実績＞

（単位：千円）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度目標		8	13	13	5	5	44
平成 29 年度実績		8	16	53	21	24	122
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度目標	16	10	13	13	81	5	182
平成 29 年度実績	16	21	44	21	29	16	269

＜年間営業件数実績＞

（単位：件）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績		31	38	36	40	56	201
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	34	39	22	27	25	27	375

＜新規獲得件数実績＞

（単位：件）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 29 年度実績		0	1	6	7	2	16
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 29 年度実績	4	4	3	3	1	4	35

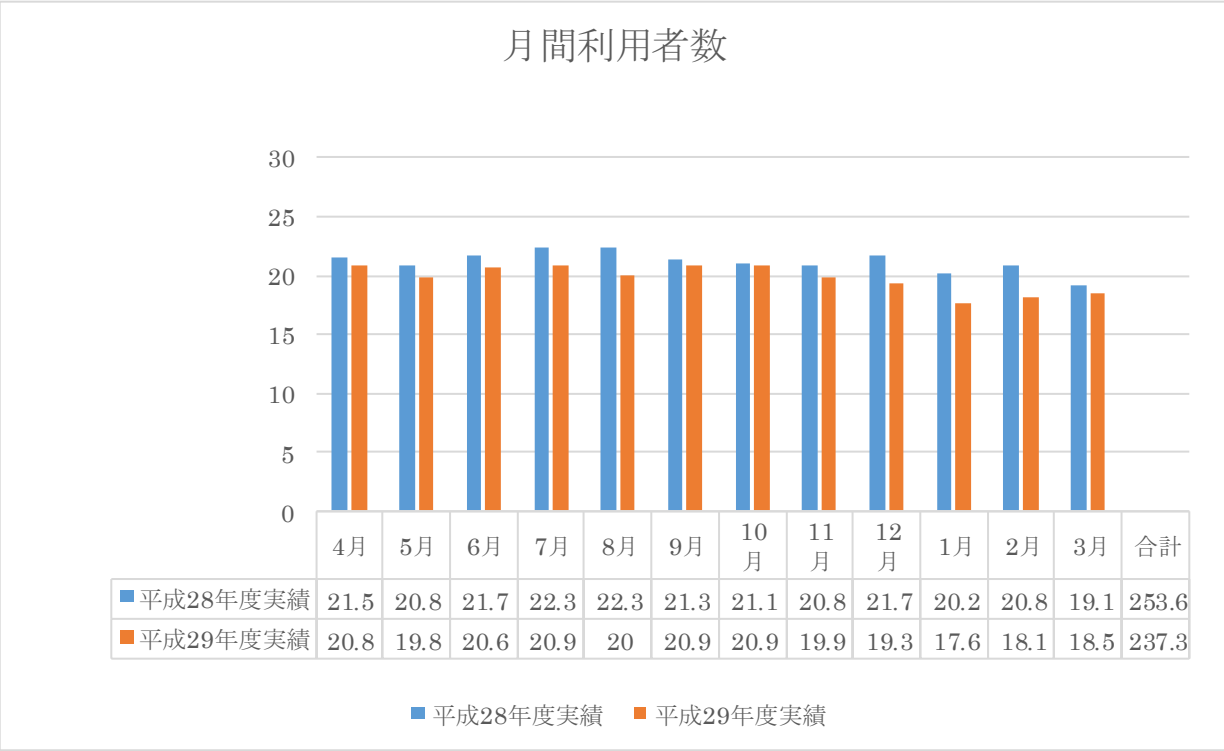
平成 29 年度　リハビリデイサービスサンライフ御立西

事業報告書

利用者様のニーズを把握し、適切にサービスを提供できるよう、職員の意識向上・知識の習得・介護技術の向上を目標としていたが、人員の不足から思うように行動に移せなかった。人材不足に対しては職員の採用活動(介護職員・事務員)に力を入れたが、採用者がすぐに退職したり、入職前に辞退されるといったことがあり中々人材が安定しない日々が続いた。その間に利用料の引き落としへの移行、４月の法改正に対する準備を行う必要があり、職員が手一杯になってしまい利用者様が希望されることへの対応ができずに利用人数が減少する結果となってしまった。
また、外に営業へ出る機会が作れず、新規利用者を確保することもできなかったことも利用人数が減少していることの理由の一つとして挙げられる。
次年度は利用者様・家族様に望まれるデイサービスを目指し、営業活動をこまめに行う事で収益アップに繋げていきたい。

１．２９年度利用数

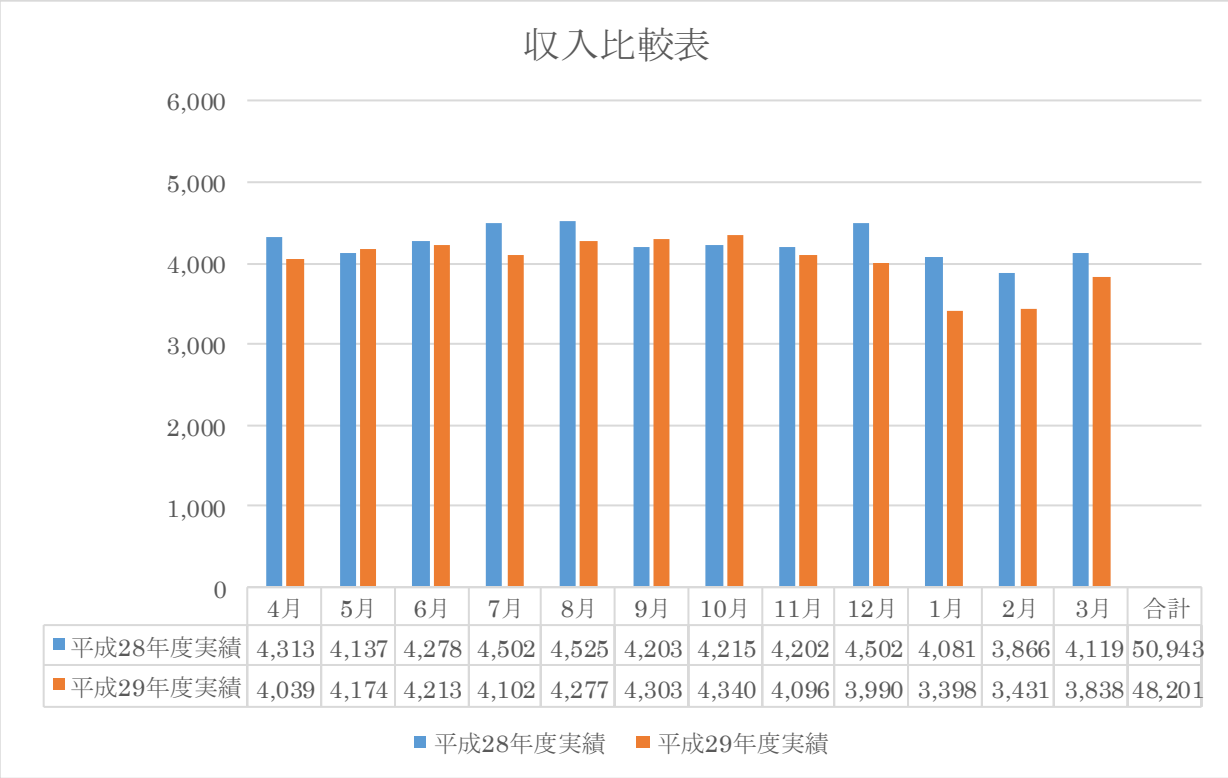
(単位：人)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度実績	21.5	20.8	21.7	22.3	22.3	21.3	21.1	20.8	21.7	20.2	20.8	19.1	253.6
平成29年度実績	20.8	19.8	20.6	20.9	20	20.9	20.9	19.9	19.3	17.6	18.1	18.5	237.3

２．平成２９年度収入

(単位：千円)



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成28年度実績	4,313	4,137	4,278	4,502	4,525	4,203	4,215	4,202	4,502	4,081	3,866	4,119	50,943
平成29年度実績	4,039	4,174	4,213	4,102	4,277	4,303	4,340	4,096	3,990	3,398	3,431	3,838	48,201

３．年齢別・介護度別利用者数

平成 29 年度年齢別・介護度別利用者数

	事業対象者	要支援1	要支援2	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	合計
65歳未満				235 (24)	89 (10)		23 (3)		347 (37)
65 歳以上～75歳未満		36 (9)		493 (50)	198 (24)	187 (25)	63 (7)		977 (115)
75 歳以上～85歳未満		167 (46)	407 (57)	942 (128)	606 (61)	170 (21)	23 (4)		2315 (317)
85歳以上		240 (60)	466 (72)	893 (81)	470 (61)	333 (21)	84 (13)		2486 (308)
合計		443 (115)	873 (129)	2563 (283)	1363 (156)	690 (67)	193 (27)		6125 (777)

前半の数字は延べ回数、（　）内の数字は実人数を示しています

４．職員充足度

リハビリデイサービス

サンライフ御立西

（職員 21 名）

【内訳】正職員 2 名

非常勤介護職 19 名　（H 30 年 3 月現在）

							個別機能指導員（看護師）1 名含まない	
	営業日数	利用者/月	職員総時間数/月	利用者/日	職員/日	職員一人対	職員/日	職員一人対
4 月	25	502	1336	20.08	8.0	2.5	7.0	2.9
5 月	27	536	1288	19.85	7.7	2.6	6.7	3.0
6 月	26	535	1394	20.58	8.3	2.5	7.3	2.8
7 月	26	545	1404	20.92	8.4	2.5	7.4	2.8
8 月	27	541	1416	20.04	8.4	2.4	7.4	2.7
9 月	26	545	1432	20.96	8.5	2.5	7.5	2.8
10 月	26	543	1391	20.88	8.3	2.5	7.3	2.9
11 月	26	518	1385	19.92	8.2	2.4	7.2	2.7
12 月	26	502	1417	19.31	8.4	2.3	7.4	2.6
1 月	24	423	1121	17.63	6.7	2.6	5.7	3.1
2 月	24	435	1163	18.13	6.9	2.6	5.9	3.1
3 月	27	500	1378	18.52	8.2	2.3	7.2	2.6

特別養護老人ホーム　サンライフ魚崎

平成２９年度事業報告書

平成２９年度は、入居者様の心身の状態の重度化に伴い、直接介護業務を中心に全体的な業務の見直しを行い、入居者様にとって何が大切なのか、無理・無駄は無いかを全職員で考え、意見を出し合う事を行った。また、スローガンである「活力ある職場」を目指し、それぞれの職員がやりがいを持って働けるシステム作りを目標としていたが、実行する事ができず、来年度の課題となっている。

１．活力ある職場作りへの取り組み

Ⅰ．職員育成の見直し

①これまでのグループ型の育成方法から、３～４年目の職員中心の育成指導者と育成対象者のマンツーマンで行う育成へ変更し、はっきりとした役割と責任を持つ事ができたが、指導職員の行き詰まりが見られた為、育成方法の見直しが必要となった。

②随時の指導と共に、月１回の育成担当者と育成対象者が育成プログラムやチェックシート等を用い、話し合いを行う事ができた。

③相談員・リーダー・育成担当者で会議を行い、各自の課題や育成方針、進行具合の提供を行う予定であったが、実施する事がほとんどできず、来年度は日程をしっかりと決め行っていく。

Ⅱ．介護業務全般の見直し

入居者様の心身の状態の重度化に伴い、直接介護業務の負担が大きくなり気持ちに焦りが見られていた。今後も引き続き、リーダーを中心に入居者様にあった介護方法を他職種を含め、全職員で検討していく必要がある。

Ⅲ．介護の専門家としての意識の向上

①３～４年目の職員に対し、施設委員や外部研修参加等、中心的な役割を担うように配置。役割を持たせる事で主体的に考え、動く意識を持つ事ができた。

②高齢者虐待防止に関する部署内研修を年に１回実施し、意識の向上を図った。

③他部署研修を実施。職員各自が業務やケア等について客観的視点で観察し、疑問や課題、吸収したい点等、自分で考える場を積極的に設ける事で、介護力の向上を図った。

Ⅳ．他職種との連携強化

①看護師・ショート相談員と月１回話し合いの場を設け、現在の介護・看護の状態や入所関係等お互いの状態を密に話し合いを行う目標をたてていたが、実施する事ができず。次年度は日程を決め、実施していく。

②口腔ケア・医療的ケアをまめに行う事により、他職種との連携の強化を行った。

２．経営安定化への取り組み

Ⅰ．年間稼働率目標９９％以上への取り組み

①稼働率目標９９％を目標に取り組んできた。入院者や入退所が続き、稼働率９５％と目標を達成する事ができなかった。入院に対しては医師・看護師と連携し、体調不良者の早期発見と早期対応を行っていき、また長期入院の可能性がある方に対しても、早めの働き掛けを行うようにしていく。

②常時２名の次期候補者の確保を目標としていたが、実施する事ができず。来年度は確保できるよう面接・健康診断を早めに働きかけていく。

（平成２９年度　収入）　（単位 :千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H28年度上半期実績	11,821	12,132	11,772	12,197	12,248	11,745	71,915
H29年度上半期目標	11,900	12,300	11,900	12,300	12,300	11,900	72,600
H29年度上半期実績	11,782	11,947	11,944	12,311	12,372	11,572	71,928
前年度上半期との差異	-39	-185	172	114	124	-173	13
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28年度下半期実績	12,138	11,771	12,164	11,747	10,785	11,885	142,405
H29年度下半期実績目標	12,300	12,300	12,300	12,300	11,000	12,300	145,100
H29年度下半期実績	11,928	11,852	12,033	11,918	11,145	11,992	142,796
前年度との差異	-210	81	-131	171	360	107	391

Ⅱ．施設管理委員を中心に、物品のコスト削減だけではなく、エアコン稼働時間や電気や水道費削減対策、、物品修繕等、職員自ら考え、決定していく体制を作る事で、介護だけではなく、施設全体を意識したサービスを提供する力を養う事を目標としてきたが、意識をなかなか定着させる事ができず。引き続き来年度も実施していく。

３．事故・褥瘡・及び感染症対策

Ⅰ.事故

昨年度と比較して１２３件増加している。内出血・表皮剥離が多く、ベッドや車椅子などの整備や介護方法の見直し、丁寧で安全な介護を心がける事が必要であり、引き続き指導を続けていく。また、昨年度まで３ｃｍ未満の内出血をあげていなかった事も増加の要因と思われる。（監査の指導により変更）

事故発生件数

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	１０月	１１月	１２月	１月	２月	３月	合計	前年比	入院事故
平成２７年度	15	23	23	15	21	24	32	31	27	28	25	26	290	+84 件	1 件
平成２８年度	22	23	16	14	26	34	21	16	25	26	28	27	278	+100 件	0 件
平成２９年度	27	38	28	29	41	40	43	30	37	36	25	27	401	+123. 件	1 件

Ⅱ.褥瘡

パット類や軟膏、離床の時間や体位交換、除圧マットを引き続き検討していく必要がある。また褥瘡への理解不足が発症へ繋がっている件もある為、職員への指導も必要となっている。

褥瘡発生件数

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	合計
平成２９年度上半期	6	5	4	5	4	4	28
	10月	11月	12月	１月	2月	3月	合計
平成２９年度下半期	3	5	5	5	2	4	52

Ⅲ.感染症

今年度はインフルエンザが流行し、入居者は１７名、職員は９名が罹患した。特に２月末からのインフルエンザの流行は普段の手洗い・うがいの徹底が出来ていない事、鼻水だけで熱が上がらない症状だった為、判断が難しく、初期対応が遅れてしまった事、安易な出入りを行うなど感染対応の不十分さが感染を広めた結果となり、感染症対策委員を中心に原因究明と研修を行っていく。

４．その他

Ⅰ．現状では、3 日程度の連続した休暇の取得はあるが、4～5 日の連続した休暇には至っていない。職員が健康で安心して働けるよう、計画的に取得出来る様にしていく。

Ⅱ．腰痛予防に対して、朝礼前にラジオ体操を実施し予防が出来た。また抱えた時につねる等の行為がある方や、2 人介助が必要な入居者に対してリフトを使用する事により、職員が無理なく移乗ができており、腰痛の緩和を行う事が出来た。引き続き新しい福祉用具の情報の入手等を行い、安全な介護・腰痛予防を行っていく。

５．入院日数

	４月	５月	６月	７月	８月	９月	合計
平成２９年度上半期	16	32	0	5	2	30	85
	10月	11月	12月	１月	2月	3月	合計
平成２９年度下半期	10	8	31	14	4	8	160

６．要介護度

(単位：人、月末在籍者数)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年比
要介護2	H28	2	2	2	2	2	2	2	2	1	1	1	1	20	60.0%
	H29	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1	12	
要介護3	H28	3	4	4	4	4	5	5	5	6	5	5	5	55	120.0%
	H29	5	4	5	5	5	6	6	5	7	7	6	5	66	
要介護4	H28	14	13	12	12	13	13	14	13	13	14	13	12	156	78.8%
	H29	12	12	12	11	11	10	10	9	9	9	9	9	123	
要介護5	H28	11	11	11	11	10	9	9	10	10	10	11	12	125	126.4%
	H29	12	13	12	13	13	13	13	15	13	13	13	15	158	
平均	H28	4.13	4.10	3.97	3.97	3.93	3.87	4.00	4.03	4.07	4.10	4.13	4.17	4.04	
	H29	4.17	4.23	4.17	4.20	4.20	4.17	4.17	4.27	4.13	4.13	4.03	4.27	4.18	

以上

平成 29 年度魚崎高齢者介護支援センター(短期入所生活介護)

事業報告（案）

今年度は各職員に役割と責任ある仕事を任せる事で、自ら課題を見つけ、考える力や発信力を養える場を作り、チームとして話し合う事で、サービスの向上を図る事が出来た。しかし、考え、発信していく力が不足しており、全職員が積極的に行える環境を整え、養っていく必要がある。

ショートステイ利用から特養への道筋を作る事が出来た半面、次期ロングショート利用者確保が上手くいっておらず、空室が目立つ日もあった。安定した利用者数確保の為にも、ロング、中期、短期利用者の割合を定め、出来るだけ空室を作らない様に、利用者確保を行っていく。

1. 活力ある介護現場の推進

I. 職員育成やチーム力の強化、サービスの向上

・新入職員及び２～３年目の職員に対し、話し合いが出来る機会や接遇、介護実技に関する試験等を行った。

・客観的視点から自部署の評価、他部署の良い点を吸収する等、連携を密にする為、他部署研修を上半期は実施できたが、下半期は感染症蔓延の危険性から、中々実施できず。

・各委員、係り、ロングショート担当の役割について、見直しを行い、明確化。責任を持って、主体的に仕事を進める事が出来た。ただし、提案、考察、発信について職員差が大きくあり。より明確に、各職員が主体的に仕事を行っていく環境を整える必要がある。

・1～2 週間毎、午後申し送り後に、部署やサービスの課題等を各職員で挙げ、話し合うミニ会議やロング利用者会議を実施。個々の発信力、チームとしての連携、サービス向上へと繋がった。

・今年度も接遇指導者研修に１名参加。接遇チェックシートの記入や研修内容のフィードバック、月１回各職員が接遇目標設定、実施、評価を行い、それをお互いが確認し合える様に可視化。出来ているところや出来たこと等を伝えていけるような雰囲気づくりを実施した。

・事故後の申し送り時に必ず対策に対する評価や類似する事故想定等の予防等話し合い、情報共有を行った。また、定期的にセンサー設置対象者を検証。本当に必要な方に対し、安全が確保できる様に、見直しを行った。

Ⅱ. 今年度、事故件数が例年に比べ、かなり増加した。特に「内出血・表皮剥離」「転倒」がかなり増加している。原因としては、従来より利用されていた方々の ADL 低下やそれに迅速対応しきれなかった等、様々考えられる。次年度は、3 項目を重点的に減少させる必要がある。

Ⅲ. ４～６日間程度の連続した有給休暇取得はできていないが、職員が希望する単発的休暇は取得できている。勤務の状況を見ながら職員全員がバランス良く休暇取得できるようにしていく。

2. 重大事故報告

Ⅰ. 女性　83 歳。5/9、5:45 頃に歩行不安定な方でセンサー対応していたが、間に合わず自居室扉付近で、1 人で歩行していた際に転倒。救急にて受診し、左肩骨折との診断。ただ、手術せず保存治療となり、2 か月後に完治される。

Ⅱ. 上記の方。8/1、4:25 頃、センサー対応と衝撃吸収マット使用していたが、間に合わず、衝撃吸収マットの外で転倒。左大腿部と左肩の痛み強い為、救急にて受診。左肩、左大腿部頸部骨折との診断。左肩に関しては、保存療法。左大腿部頸部骨折については入院し、手術となる。その後、9 月に退院となる。

Ⅲ. 男性　82 歳。2/16、7:15 頃居室訪室した際、座り込んでいるのを発見。右大腿部の痛み強く、整形外科受診し、右大腿部頸部骨折との診断。そのまま、入院となり手術となる。その後、有料老人ホームに入所される。

3. 新規利用者人数

単位:人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度	2	3	3	2	3	5	5	3	3	1	2	7	39
平成28年度	2	4	5	9	4	8	8	11	7	4	8	8	78
平成29年度	6	5	0	2	10	7	3	7	6	8	7	7	68

4. 平均年齢

	男性	女性
平成29年度	79.3歳	87.4歳

5. 日中利用者数

単位:人

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
平成27年度	563	576	541	600	645	620	580	529	583	606	521	544	6908
平成28年度	524	553	603	602	601	606	640	656	644	671	629	645	7374
平成29年度	625	656	643	643	693	631	633	596	631	631	589	602	7573

Ⅰ. 日中利用者数１日あたり、目標平均２１．７名であったが、２１．３名にとどまった。

Ⅱ. 特養入所は中長期利用者から入所するという流れを構築する事が出来たが、入所候補者(ロング利用者)確保までには至らず。特養候補者は男性２名。女性２名に留まっている。特養相談員と連携しつつ、特養候補者の７～１０名確保を目指し、面接を実施していく。

Ⅲ. 緊急ショートステイ受け入れ者、5 月と 11 月に女性 2 名受け入れ行っています。

6.　収入金額

単位:千円

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H28年度実績	6,029	6,213	6,889	6,816	6,746	6,991	39,684
H29年度目標	7,530	7,990	7,530	7,990	7,990	7,530	46,560
H29年度実績	7,397	7,824	7,637	7,732	7,921	7,521	46,032
前年度との差異	1,368	1,611	748	916	1,175	530	6,348
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28年度実績	7,370	7,588	7,666	7,991	7,415	7,182	84,896
H29年度目標	7,990	7,530	7,990	7,990	6,991	7,990	93,041
H29年度実績	7,358	6,886	7,044	7,345	6,904	7,178	88,747
前年度との差異	-12	-702	-622	-646	-511	-4	3,851

以上

特別養護老人ホームサンライフ魚崎特養・短期入所　医務

平成２９年度事業報告書　（案）

看護師の移動も一段落し、特養・ショートの役割を分担しながら、事故の無いよう業務の継続、看護力の維持に努めてきた。

今期はこの数年にない大きなインフルエンザの感染拡大が起き、利用者様・職員合わせ計 35 名の感染、終息までに 20 日間を要した。今後 2 度とこのような重大事象を起こさないよう感染予防に対する知識・意識の向上を啓発していきたいと切に考える。

1. 感染予防について

Ⅰ. 特養・ショートの感染対応マニュアルを見直し、多床室から有症者が出た場合は、可能な限り個室へ移動、できなければ、有症者はカーテン隔離し、同室者も一定期間居室対応或いは他者離れ対応とし、感染のリスクが無いと判断されるまで部屋単位での隔離・経過観察を行う事とした。

Ⅱ. 排泄物で汚染されたものの床への直置きを禁止し専用のバケツの使用や、使用後のバケツの消毒・保管、感染対応時の物品、特にゴミ箱の配置位置、使用後のマスク・手袋の取り外し方と廃棄の方法等、汚染されたものの処理の仕方、作業の完結の仕方までの周知徹底を行った。

Ⅲ. インフルエンザ感染拡大に関してのスタッフへのアンケートより、感染予防に対しての知識、必要性の認識、意識の程度に非常に差がある事がはっきりと分ったことから、どのようにすればすべてのスタッフにそれらが伝わるのか、一定レベルまで引き上げられるのかを考え実施していくことが今後の課題となる。

2. 特養・ロングショートの利用者様の処置の削減について

Ⅰ. 排便コントロールに関しては褥瘡予防との兼ね合いもあり、グリセリン浣腸による排便コントロールを必要とする方が増える傾向にあり、3 月末で 30 名中 9 名、特養だけで週に平均延べ 18 回の GE を施行する事となっている。排泄のどの段階が問題になっているのかを分析し、可能な限り自力排出できる支援法を介護職とともに考え、取り組んでいきたい。又、嘱託医と相談し、それぞれにあった下剤の種類・量の検討も引き続き行っていく。

Ⅱ. 褥瘡件数は一時的に難治性の方々のみの 2 件まで改善したが、最終的に 3 月末で 5 件、2 名は褥瘡形成のまま看取りとなったケースもあり、予防意識の向上、実行が今後も引き続き必要である。

3. 事故防止について

Ⅰ. 重大な誤薬事故は無かったが、特養・ショートステイ合わせ計 7 件の内服薬飲みこぼしがあった。同利用者による繰り返しがほとんどであったため、確実に服用できる方法で介助し、服薬された事の確認作業を各部署で徹底されるようになった。
Ⅱ. 足爪の剥がれはゼロであった。積極的な爪切や、靴下の脱着の配慮等、今後も継続して行っていきたい。
4. 平成 29 年度特養・ショートステイ看護の集計

	(1) 疾病発生状況							
上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
42	7	8	6	10	13	24	110	148
5	1	4	2	1	3	0	16	61
21	6	5	6	1	1	0	40	67
	(2) 入院 ・ 退院 ・ 入退所者数							
上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
5	0	1	1	1	0	1	9	180
3	0	0	0	0	1	1	5	100
4	0	0	1	1	1	1	8	160
3	0	0	1	1	0	2	7	140
	(3) 特変緊急対応の回数							
上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
4	0	1	1	0	0	0	6	200
4	1	1	0	0	0	0	6	100
	(4) 医療診療件数（受診・往診）・診療人数							
上半期	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	前年比
213	28	35	35	19	25	27	382	73
757	130	117	101	121	105	126	1457	89

看取りに関しては 30 名中 27 名看取りの意思を確認できている状況である
嘱託医と面談の出来ていないご家族がまだある為、連絡を取り、書式をそろえていく必要がある。又、3 月に胃瘻のある方を見送り、胃瘻の方がゼロとなった。

以上

平成２９年度魚崎高齢者介護支援センター（通所介護）

事業報告書

利用者様の獲得に向けて、引き続き、毎月事業所へ実績持参し、営業活動を行った。インフルエンザの発症や自宅での転倒等による入院者が最大１１名となり、12 月、１月の利用者数、収入共に減少した。

個別レクへの取り組みが行えていないが、午前中の作業レクの選択肢を増やし、今までの「提供型」ではなく「選択型」へと環境を含めて移行している。リハビリに関しては利用者様の必要性に応じて看護師により実施している。フロアでの歩行を促し、生活リハビリを取り入れ、外出や散歩の機会を増やすよう努めた。

１．レクリエーションの取り組み

（Ⅰ）外出レクの取り組み

①　カフェクルージング・人と自然の博物館へ秋の遠足実施

・カフェクルージング

１０月１１日（９名）１３日（１１名）１９日（１１名）３１日（９名）

１１月６日（７名）

・人と自然の博物館

１１月１７日（５名）

②　桜・紅葉ドライブ、初詣・梅・バラ園外出の実施

・桜ドライブ（灘区石屋川～護国神社～摩耶ケーブル～王子公園）

４月６日～１３日（６５名）

・岡本バラ園外出

５月１５日～２６日（５０名）

・紅葉ドライブ（芦屋から住吉川周辺）

１１月１６日～２４日（５９名）

・初詣（魚崎　八幡神社）

１月４日～５日（２５名）

・梅ドライブ（岡本梅林）

２月２６日～３月１６日（５１名）

（Ⅱ）夏祭り、敬老会、運動会、クリスマス週間の実施（ボランティア、職員の出し物）

①夏祭り週間　７月４日～８日　　②敬老会週間　９月２５日～３０日

③クリスマス週間　１２月１８日～２３日　④運動会週間　１１月６日～１１日

（Ⅲ）ボランティアセンターと連絡を取り、新規のボランティアの受け入れを積極的に行っている。

２．利用者獲得への取り組み

（Ⅰ）毎月１日には実績及び報告書を事業所へ訪問し届けた。１ヶ月の予定表を毎月作成し事業所廻りの際に配布し営業活動を実施した。

（Ⅱ）体験ご利用終了後、担当ケアマネージャーへ当日中、又は次の日にご利用時の状況を報告し、新規のご利用検討の依頼行った。

３．リハビリの実施

（Ⅰ）生活リハビリを中心に、車椅子から椅子への座り替え、平行棒での歩行リハビリ、シルバーカーでの歩行やフロア内歩行のリハビリをその方に応じて実施。

４．職員研修

（Ⅰ）１年通し接遇研修へ職員１名が参加。また、接遇１日研修に非常勤も参加。

（Ⅱ）デイ話し合いの際に研修を実施

・４月２１日　「接遇について」（１３名）

・６月１６日　「接遇研修」（１３名）

・１１月２４日　「感染対応研修」（１３名）

・１２月１６日　「労働災害防止」「高齢者と健康にて」（１７名）

５．業務削減

（Ⅰ）連絡帳を手書きからほのぼの入力に変更。

（Ⅱ）朝のバイタル、食事量、看護師の問診をタブレット使用することで、入力の作業が削減された。

（Ⅲ）赤外線体温計にすることで、時間の短縮と見た目での体調不良者が見られたら、玄関の時点で発見することが出来た。

６．事故報告…３８件

・転倒事故…１４件　・切り傷・表皮隔離・内出血…１０件

・無断外出…４件　・薬関係…５件（不明者、自己管理者含む）

・誤食…２件　・その他…２件

骨折や入院につながる重大事故はなし。

７．平成２９年度利用者状況

利用状況　（単位：人）

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	
H28	月総計	696	717	716	716	760	741	
	日平均	26.7	27.5	27.5	27.5	28.1	28.5	
H29	月総計	660	777	721	756	789	772	
	日平均	26.4	28.7	27.7	29	30.3	29.6	
		10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28	月総計	722	739	750	678	649	704	8,588
	日平均	28.5	28.4	28.8	28.3	27	26	27.6
H29	月総計	764	746	710	590	676	758	8,719
	日平均	29.3	28.6	27	25	28	28	28.1

平成２９年度　収入　（単位：千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	
H28年度実績	6,393	6,263	6,517	6,706	7,171	6,914	
H29年度予想	6,430	6,618	6,671	6,884	7,208	6,914	
H29年度実績	5,964	7,122	6,599	6,864	7,078	7,079	
前年度との差異	429	859	82	158	-93	165	
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28年度実績	6,734	6,799	6,921	6,215	5,980	6,302	78,915
H29年度予想	6,908	6,837	6,920	6,344	6,345	6,871	80,950
H29年度実績	6,972	7,018	6,707	5,512	5,972	6,961	79,848
前年度との差異	-238	219	-214	-703	8	659	933

平成２８年度に比べ月合計者数及び収入は年間通して増加は見られたが、目標達成には至らなかった。

来年度は事業所回りの営業及び、ケアマネージャーとの連携強化に努める。また、他のデイサービスとの差別化を考えていく為に、デイ会議で常に議題として取り上げ、職員全員で意識していく。

以上

平成29年度フレール魚崎中町(認知症対応型共同生活介護)

事業報告書

入居者様の入れ替わりに伴い平均介護度も下がり、入居者様の出来る事・やりがい作り・廊下歩行・散歩・日光浴など楽しみ作り強化に取り組んできたが、全職員の意識の切り替えが難しく、業務優先的となっていることもある為、11月よりリーダーを配置し、ケアの統一・職員の指導に取り組んだ。介護度は下がったが、8月頃より歩行力・認知力の低下に伴い特に3階で転倒事故が増え、見守り・付添い対応に追われた。

１．活力ある職場作りへの取り組み

Ⅰ　職員の質の向上

8月迄は人員に若干余裕があり、異動職員の指導育成・正職員の事務仕事の時間も少しとれていた。しかし、9月の人事異動・職員病欠により人員ぎりぎりの状態が続き、異動職員の指導も実践しながらとなり、しっかりと指導育成が出来なかった。主任・正職員の事務の時間もほぼ取れない状態。

特に4階は主任の目が行き届かないことが多く「やりがい作り・楽しみづくりに積極的に取り組む事で、職員も楽しみを持って仕事に取り組める環境作り」等の意識徹底が出来ていなかった為、11月にリーダーを配置し、主任と連携し指導・ケアの統一に取り組んでいる。

Ⅱ　介護業務の見直し

居室掃除を毎日から週2回に変更し、業務負担の軽減を図った。また、口腔ケアを夕食後のみ行っていたが毎食後実施し口腔内の清潔保持に努めた。

誕生日会を簡素化し、誕生日の個人外出を実施。

Ⅲ　職員状況

長期休暇は、個々の希望に沿い3日程度の休暇はとれたが、中々難しい現状である。高齢職員の日数や時間数の考慮も、8月迄は実施できていたが、人事異動等により9月以降は難しく、体調不良者・欠勤もあり人員が安定しない状況が続いている。

２．要介護者の年齢・人数

H30年3月末

年齢(歳)	～74	75～79	80～84	85～89	90～94	95～100	平均年齢
人数(人)	0	1	3	4	4	4	89.5

３．要介護者の介護度

H30年3月末

要介護度	1	2	3	4	5	平均介護度
人数(人)	3	5	4	3	1	2.62

４．事故発生状況と対策

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
転倒	H28年度	3	1	1	1	3	4	2	3	3	3	0	0	24
	H29年度	2	2	1	0	6	2	5	4	5	2	4	5	38
転落	H28年度	2	1	0	0	1	0	2	2	2	1	2	0	13
	H29年度	0	0	1	0	0	0	0	0	0	1	1	0	3
打撲	H28年度	1	0	2	1	1	2	2	0	0	0	10	15	34
	H29年度	19	14	17	26	27	21	4	5	6	13	15	8	175
誤嚥	H28年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
	H29年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
異食	H28年度	2	0	0	1	0	0	0	0	0	0	2	2	7
	H29年度	0	1	0	0	0	2	0	2	1	0	1	0	7
薬ミス	H28年度	0	3	0	1	0	1	1	1	1	1	2	1	12
	H29年度	0	0	0	0	0	3	1	3	1	1	1	3	13
その他	H28年度	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	3	4	7
	H29年度	0	0	1	2	3	2	4	4	1	1	1	0	19
合計	H28年度	8	5	3	4	5	7	7	6	6	5	19	22	97
	H29年度	21	17	20	28	36	30	14	18	14	18	23	16	255

Ⅰ　転倒…大腿骨転子部骨折入院2件→見守り強化。離床ｾﾝｻｰドウチクン導入

Ⅱ　打撲(内出血)…（175件中3㎝未満の内出血が140件）平成29年1月より、3cm以下の原因不明の内出血も事故報告する事となった為、増大した。手摺や椅子の保護、介助方法の統一など予防対策を実施。（しかし、薬服用や年齢により身体的要因から日常動作で痣ができやすい体質の方等もいる。）

Ⅲ　異食…残飯物1件・ティッシュ1件・紙1件・野菜1件・書道筆2件・服1件
　　→習字は始まるまで筆や墨は配らない。又見守り強化対応

５．利用者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
総日数		480	496	480	496	496	480	496	480	496	496	448	496	5840
利用日数	H28年度	466	469	480	487	466	475	496	480	484	463	448	493	5707
（日）	H29年度	480	494	477	489	496	471	479	480	478	492	426	496	5758
入院	H28年度	14	15	0	9	30	5	0	0	0	0	0	0	73
（日）	H29年度	0	0	0	7	0	9	6	0	18	4	22	0	66
空室（日）	H28年度	0	12	0	0	0	0	0	0	12	33	0	3	60
（退居）	H29年度	0	2	3	0	0	0	11	0	0	0	0	0	16
稼働率	H28年度	97%	94%	100%	98%	93%	99%	100%	100%	97%	93%	100%	99%	97%
（%）	H29年度	100%	99%	100%	98%	100%	98%	96%	100%	96%	99%	95%	100%	97%

Ⅰ　入院６件…（病気４件・骨折２件）　Ⅱ退居２件…特養入居・入院

６．収入

（単位千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H28年度実績	4,990	4,940	5,079	5,004	4,989	4,752	29,754
H29年度目標	5,100	5,150	5,100	5,300	5,350	5,050	31,050
H29年度実績	5,283	5,246	5,169	5,195	5,442	5,146	31,481
前年度との差異	+293	+306	+90	+191	+453	+394	+1,727
月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
H28年度実績	5,344	5,080	5,303	4,962	4,916	5,209	60,568
H29年度目標	5,350	5,100	5,350	5,050	5,000	5,200	6,300
H29年度実績	5,183	5,100	5,294	5,316	4,808	5,305	62,487
前年度との差異	−161	+20	−9	+354	−108	+96	+1,919

以上

平成 29 年度　介護型ケアハウス　サンライフ魚崎

事業報告書

平成２９年度は入居者様の出来る事や生きがい作り、楽しみ作りができるよう日常の軽作業、外出や行事企画を積極的に行い、入居者様や家族様に喜んで頂く事ができた。その中で職員がやりがいとゆとりを持って働く事ができるようチームワークの強化・コミュニケーションを中心としたアプローチを行った。また各事業所等を訪問する事により入居者様の確保も徐々にだが進める事ができた。

１．人材育成

I.　各フロアのバランスを考慮しながら、２年目以降の職員が複数フロアの業務を行えるよう勤務の調整を行った。結果、フロア間の応援体制の強化に繋がった。

II.　常勤職員を対象に相談員による職員面談を１０月に行った。

III.　勤務状況を見ながら、出来る限り外部研修への参加を行った。研修内容については職員会議において参加職員がフィードバックを行った。

IV.　８月に社会福祉士実習１名の受け入れを行った。実習担当職員が初心に立ち返る良い機会になった。

V.　９月から１２月にかけてリーダーが調整役となり、施設内他部署への参加・受け入れを行った。

VI.　介護福祉士５名、介護支援専門員１名が受験し、介護福祉士国家試験に５名が合格する事ができた。

２．入居者様確保・空き日数の低減

I.　デイサービス相談員・ケアハウス看護師と連携し、病院及び事業所への訪問を行った。

II.　２８年度空床総数７８６床に対し、２９年度は４６９床と空床は削減する事ができた。その中で入居者様の体調不良等による入れ替わりが多く、スムーズに対応する事が出来なかったのが課題である。

III.　入院日数について上半期は２２日だったが下半期は１４７日だった。早期退院に向けて医療機関や家族様へ積極的なアプローチが必要である。

３．活力ある職場作り・業務改善

I.　リーダーが中心となり、３ヶ月毎にフロア目標の設定を行った。毎月行っている相談員・リーダー会議の中で取り組みや進捗状況、課題についての話し合いを行い、情報の共有や相互のアドバイスを行った。

II.　偶数月にケアハウス職員会議及びフロア会議を行った。運営会議等の内容を可能な限りフィードバックするようにした。

III.　可能な限り公平に休暇が取得できるよう調整を行った。５日程度の連続した休暇は取得できていないが、３日程度の連続した休暇に関しては、概ね全職員が取得する事ができた。

IV.　必要な職員に対してはメンタルカウンセラーへ助言を求めるように努めた。

４．その他

I.　設備・備品の老朽化及び不具合が増えてきており、修繕及び新規購入を進めた。

II.　各階で発生した事故について状況や対策を事故委員に報告するようにした。客観的な視点を介入させることで事故に対する意識向上を図った。

III.　平成２８年度は事故件数２９３件に対し、平成２９年度は４１７件と増加した。その１８３件（約４０％）が内出血であり、今後自発的に行動される入居者様へのアプローチ及び入居者様個々に応じた介助方法や車いす等必要物品の見直しが必要である。

IV.　感染症流行期において家族様に手洗い・うがい・マスク着用徹底のアナウンス、面会時間や場所の変更を行った。入居者様にインフルエンザ等の感染症が発症・流行する事なく過ごして頂く事ができた。

V.　退居者１０名の内、８名の方を看取る事ができた。家族様・相談員・看護師・介護職との連携を強化しスムーズな看取り介護への移行、無理のない介護を行う事ができた。

５．稼働率

（単位：%）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	平均
H28年度実績	94.7	94.0	97.7	98.8	99.7	95.7	97.7
H29年度目標	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5	98.5
H29年度実績	98.1	96.5	95.4	98.9	97.4	98.1	96.8
前年度比	103.6%	102.7%	97.6%	100.1%	97.7%	102.5%	99.1%
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	平均
H28年度実績	93.7	94.2	94.1	96.3	94.6	93	95.5
H29年度目標	98.5	98.5	98.5	97.5	97.5	97.5	98.0
H29年度実績	96.4	98.7	97.8	96.6	97.2	96.9	97.3
前年比	102.7%	104.8%	103.9%	100.3%	102.7%	104.2%	101.9%

Ⅵ．収入

（単位：千円）

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	合計
H28年度実績	18,057	18,442	18,610	19,395	19,857	18,024	112,385
H29年度目標	19,250	19,250	19,250	19,250	19,250	19,250	116,820
H29年度実績	18,356	18,985	18,446	19,221	18,848	18,133	111,989
前年度との差異	299	543	-164	-174	-1009	109	-396
	10月	11月	12月	1月	2月	3月	年間合計
H28年度実績	18,232	18,240	18,726	19,170	17,498	18,612	222,863
H29年度目標	19,250	19,250	19,250	18,750	18,750	18,750	229,500
H29年度実績	18,348	18,590	18,972	18,696	17,476	18,763	222,834
前年度との差異	116	350	246	-474	-22	151	-29

以上

平成 29 年度介護型ケアハウス　サンライフ魚崎医務室

事業報告書

サンライフ魚崎の 29 年度経営スローガンは、「活力ある職場を提供し、生産性を上げる！」である。平成 29 年度も介護職員と協力しながら、新入職員に対し医務研修を行い、看護職全員で育成に取り組んだ。また、看護職全員で接遇に力を入れ、継続していくよう努めた。

1. H29 年度受診・往診・入院・救急・看取り件数等

月	往診件数	受 診件数	入院件数	救急件数	看　取り数	薬管理数	入居数	退所	入所
４月	84	20	0	0	0	47	48	0	2
５月	85	22	0	0	1	45	46	2	0
６月	15	87	0	0	2	44	46	2	2
７月	84	21	0	0	2	45	47	1	2
８月	98	29	1	0	1	45	45	1	2
９月	81	25	1	0	1	45	45	1	0
10 月	14	31	0	0	1	47	48	1	2
11 月	47	19	1	1	1	45	46	1	0
12 月	88	25	1	0	0	47	47	0	1
１月	85	22	2	1	0	45	46	0	0
２月	76	21	2	1	1	45	46	1	1
３月	106	25	1	0	0	45	46	0	0
合計	863	347	9	3	10	45	46	10	12

2. 看護支援業務 1 年間の総括

空床を避ける為、居室が空いている場合は、総合病院の主治医師が継続治療の必要を認めている場合であっても、ご入居希望の意思が有る場合は入居判定会議で協議し、積極的に入居受入れしました。一方で、ご入居者様に体調不良が生じた場合、主治医師が総合病院に所属する場合は施設にお越しいただくことは現実的に不可能なので、ケアハウスの看護師が直接報告するには地域医療連携室を通す必要があります。そこで相談員

と共に地域医療連携室を訪問し、担当看護師に直接面談して施設の概要を説明し、信頼関係を構築してきました。その結果、総合病院の主治医師とのやり取りがスムーズに行えるようになりました。

急変時の対応においても、主治医師が総合病院に所属している場合は、施設に往診頂くことは不可能なので、24 時間対応の訪問診療医師にお願いし、医療的な対応が行える体制を整えてきました。

看取りについては、主治医師が総合病院に所属している場合は、入居者様のご家族と総合病院受診に同行し、看取りの説明を伺い、指導助言を頂き、訪問診療医師に繋げ、ご本人様とご家族が望まれたケアハウスでの終焉を迎えることが出来ました。

29 年度の活動は、H30 年度の医務室の発展に繋がる基礎が出来たと考えます。

以上

平成 29 年度　サンライフ魚崎（厨房）

事業報告

今年度は、ささゆり会の経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」を実現するため、職員の定着・人材育成に重点を置いて取り組んだが、H29.1 月に入社した常勤職員は退職となった。ケアハウスに入社した下処理専門の非常勤職員 3 名と、厨房に入社した非常勤職員 1 名には、毎日業務の担当を決め、個人の能力やスピードに合わせた指導を行った。また、H29.9 月にスポットクーラーを導入し、長期間働きやすい環境となるよう努めた。旬の食材を提供するため、地元の業者から新鮮な魚の納入を再開した。その時期に最も安価で美味しい食材の購入に努めたが、野菜の高騰や食事提供数の増加もあり食材費のコスト削減は、思うように進まなかった。

褥瘡対策として、「エンジョイプロテイン Fez」を対象者 1 名の食事に添加し様子を見たが、アルブミン値・褥瘡に大きな変化は見られず終了となった。

食事サービスの充実を図るため、デイサービスの食事アンケートは、年 4 回(4・7・10・1 月)へと変更し、個別対応の増加している特養のみ、食事レクリエーションをおやつレクリエーションへと変更することで、入居者様に楽しんでいただけるサービスの充実を目指した。

１．　職員の定着・人材育成

Ⅰ．H29.1 月に入社した常勤職員は退職となったが、H29.10 月～ケアハウス下処理専門の非常勤職員 3 名、厨房にもH29.11 月～非常勤職員 1 名入社となり、3 年未満の非常勤職員には、個人の能力やスピードに合わせた指導を行い、目標を持ってやりがいのもてる職場となるよう取り組みを行った。来年度も、職員の定着と人材育成に重点を置き、長期間働きやすい環境を整えていきたい。

Ⅱ．　毎日、業務の担当を決め、個々の役割を明確化することで、自ら考え工夫し、業務の効率化につなげた。また、周囲の状況を見極め、お互いを助け合うことで信頼関係を築いた。

Ⅲ．　厨房職員は比較的年配の非常勤職員も多いため、労働時間・日数の配慮・H29.9 月にスポットクーラー導入等の温度環境なども含め、長期間働きやすい環境を整えた。

Ⅳ．厨房朝礼(月間目標・挨拶・本日の献立復唱・連絡事項)を今年度も継続し、「笑顔と大きな声で挨拶」の定着と、職員同士が声をかけあい協力しあえる雰囲気作りに努めた。

Ⅴ．給食日誌や発注業務など、重複入力や使いにくいと感じている業務に関して、見直しを行った。給食日誌に関しては、書式変更予定(H30.4～）下半期も継続して、個々の負担とならないよう、栄養士間の業務の分担を行い、「時間外ゼロ」を目指す。

２．　衛生管理の徹底

Ⅰ．異物混入等の事故防止の為、春季・秋季清掃以外にも２ヶ月に１回は手の届かない所の清掃を行うことが出来た。また、厨房同様に２ヶ月に１回、ケアハウスのキッチン周辺の見回り・状況把握を行い、必要に応じて清掃を行っていく。

Ⅱ．H29.10 月～ケアハウスにおいて各階調理を再開する為、衛生面・作業効率等を検討し、ケアハウス４階にて昼食の下処理業務を行う事に決定した。

Ⅲ．電解水生成器の設置（H29.11）により、生野菜・生果物を衛生的に提供できるようになった。

３．　コスト抑制対策

Ⅰ．仕入先の情報を参考とし、旬の食材、かつ、その時期に最も安価でおいしい食材の購入に努め、食材費のコスト抑制に取り組んだが、野菜の高騰や食事提供数の増加も影響し、コスト抑制となっていない。

〈平成 29 年度食材料費実績〉（円）

	平成 29 年度	平成 28 年度	差額	増減(%)
4 月	2,954,823	2,825,041	129,782	+4.6
5 月	3,039,928	2,841,346	198,582	+7.0
6 月	2,957,608	2,802,194	155,414	+5.5
7 月	2,899,541	2,956,289	−56,748	−1.9
8 月	3,037,375	2,904,321	133,054	+4.6
9 月	2,940,233	3,032,905	−92,672	−3.1
10 月	2,999,377	2,994,027	5350	+0.2
11 月	3,029,492	2,850,110	17,9382	+6.3
12 月	3,287,928	3,145,035	142,893	+4.5
1 月	3,129,765	2,916,451	213,314	+7.3
2 月	2,828,491	2,657,990	170,501	+6.4
3 月	3,129,967	2,908,806	221,161	+7.6
計	36,234,528	34,834,515	1,400,013	+4.1

４．　入居者様個々の状態に応じた対応

Ⅰ．2 か月に１回の口腔ケアカンファレンス・経口維持会議開催時に、介護・看護と連携し、情報の共有や意見交換を行い、喫食率の少ない方には、本人様の好む、お菓子類や素麺を代替し、褥瘡対策として、プロテインを添加するなど、個々に応じた的確な対応が行えるよう努めた。常食の人数が増加し、ゼリー食が減少しているが、人員の入れ替わりによるものである。

Ⅱ．ゼリー食の提供方法を見直し、食べやすいようクラッシュ状で提供していたが、食事としての見た目も考慮し、型抜きで提供する形へと変更した。

〈平成２９年度上半期食事形態推移〉（名）　※3 月末付合計人数 30 名

食事形態	人数（%）	前年度人数（%）
常食	9（30%）↑	5（23%）
刻み食（小刻み食含む）	15（50%）↑	14（47%）
ゼリー食	6（20%）↓	10（29%）
胃瘻	0（ 0%）↓	1（ 3%）

Ⅲ．ケアハウスのケース会議には積極的に参加し、職員との関係性を築き、入居者様の状態及びニーズの把握に努めた。

５．　食事サービスの充実

Ⅰ．給食委員会等で、利用者様のニーズを把握し、特養の食事レクリエーションは、個別対応の増加により、楽しんでおられる方が減少しているようなので、食事レクリエーションを中止し、喜んでいただけるおやつレクリエーションを 2 回から 3 回へと回数を増加した。また、デイサービスの食事アンケートを年 1 回から、年 4 回(4・7・10・1 月)へと変更し、食事サービスの充実に取り組んだ。

Ⅱ．食事に対する意欲が持てる献立となるよう、毎月新メニュー考案を開始した。（H30.12 月～）

Ⅲ．統一した調理法・盛り付けが行えるよう、各料理の写真を撮り、調理する方がイメージしやすい資料を作成した。来年度上半期中の実用化を目指す。

６．　その他

Ⅰ．衛生管理を徹底するため、ケアハウスの夕食運搬用に、温冷カートを導入（H29.8 月）、厨房内には電解水生成器を設置（H29.11 月）した。また、スチームコンベクションが、長期使用により劣化したため、新しい機器を導入（H29.9 月）。今後も費用、作業効率等も検討しながら、購入や修理などを行う。

Ⅱ．第 1 回播磨料理競技大会(HDC)に参加し、緊迫した空気の中で、メニューだけを見て行う調理の難しさ、少量調理・大量調理の調理方法の違い、調味料の正しい使い方等を学ぶことが出来、来年度は、厨房職員と一緒に思ったこと、感じたことを伝えあい、情報を共有し、美味しい食事を提供するよう努めます。

平成２９年度　サンライフ魚崎居宅介護支援事業所

事業報告書

今年度は利用者様の確保と、経営スローガンである「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」を目標とし、事業所内ではチームとしてケアマネージャー同士が助け合い、切磋琢磨しながら全体のスキルアップが図れる関係の構築に努めた。12 月と 2 月に正職員の退職者があり、新たに非常勤職員（ケアマネと認定調査員）を採用した。

1.　業務削減目標 20％

I.　新規・区分変更時、モニタリング等法令に基づいた手順で行えるようにマニュアルの作成を目標にしていたが、作成には至っていない。

2.　利用者様獲得・経営基盤の強化

I.　昨年度平均利用者数が 83.9 人から、97.6 人に増え、前年度と比べ約 210 万円の収入増加となった。

II. 7 月より常勤の介護支援専門員を増員したが、12 月と 2 月に正職員が退職した。新たに認定調査専門の非常勤職員と非常勤職員のケアマネを採用したことで、約 4%人件費削減できたことにより H30 年度の人件費は約 20%削減見込みとなった。

III.　あんしんすこやかセンターと連携し、定期的に情報交換を行い新規獲得に努めた。短期入所生活介護、通所介護との会議は定期的に開催できなかった。

3.　法令遵守

I.　新しく介護支援専門員が入ったことで、一部担当の変更を行い、サービス内容の確認を行いプランの見直しができた。また、日ごろの業務の確認は「業務確認表」にて毎月確認し、訪問日・モニタリング実施日の確認、ケアプラン交付等抜けがないようにした。

II. 経験の浅い職員のケアプラン見直しは数件できた。また、先輩職員が同行し負担・不安の軽減に努めた。

III.　請求やプラン作成時に疑義が生じた場合は神戸市に問い合わせを行い、適切な対応ができるようにした。

4.　その他

I.　他部署との連携強化のため施設内の行事担当、委員会への参加を行い、施設内の活動への参加に努めた。また、新入職員研修、内部研修の講師として参加し、他部署との交流の機会を増やした。

II. 連続休暇の取得は実施できていない。心身の疲労軽減のためにも実施できるよう業務の調整を行っていく。

≪利用者数≫　　（平成 30 年 3 月のケアプラン管理数上限：128 名）

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 28 年度	71	75	81	80	82	86	475
平成 29 年度	92	98	93	94	95	102	574
差異	21	23	12	14	13	16	99
	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 28 年度	92	91	89	85	86	88	1,007
平成 29 年度	101	102	102	100	97	97	1,173
差異	9	11	13	15	11	9	166

専任 1 名（35 名）　調査員兼務（30 名）　非常勤（28 名）　管理者（35 名）＝128 名

≪収入≫　　（単位：千円）

			4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	小計
平成 28 年度	支援費	要介護	904	930	1,034	984	1,008	1,061	5,921
		要支援	7	7	14	11	11	11	61
	認定調査委託料		154	108	167	181	163	140	913
	調査委託料（他市）		7	0	18	8	4	7	44
	合計		1,073	1,047	1,235	1,219	1,185	1,187	6,916
平成 29 年度	支援費	要介護	1,169	1,256	1,183	1,188	1,201	1,293	7,290
		要支援	7	7	7	7	7	7	42
	認定調査委託料		176	145	217	167	122	149	976
	調査委託料（他市）		16	11	6	10	0	4	47
	合計		1,371	1,421	1,416	1,374	1,331	1,455	8,368
差異			298	374	181	155	146	268	1,452
			10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
平成 28 年度	支援費	要介護	1,132	1,149	1,076	1,063	1,076	1,138	12,561
		要支援	11	7	7	7	7	7	114
	認定調査委託料		158	149	158	104	185	172	1,846
	調査委託料（他市）		0	11	0	8	0	20	86
	合計		1,302	1,318	1,243	1,184	1,270	1,339	14,608
平成 29 年度	支援費	要介護	1,260	1,272	1,260	1,246	1,206	1,209	14,749
		要支援	7	7	7	7	13	11	101
	認定調査委託料		149	140	176	108	131	104	1,791
	調査委託料（他市）		4	4	7	8	15	7	97
	合計		1,421	1,425	1,452	1,371	1,367	1,332	16,726
差異			119	107	209	187	97	−7	2,118

≪外部研修≫

日付	研修名	場所	参加者
5/18	定期巡回対応型訪問介護看護サービス等の紹介と意見交換	東灘区医師会館	柴崎
5/24	介護支援専門員、訪問看護と病院の地域連携室の連携を深める為の連絡会	東灘区役所	正垣
6/21	魚崎南部あんしんすこやかセンター圏域連絡会	魚崎会館	藤原
6/28	地域ケア会議	サンライフ魚崎	正垣・柴崎・藤原
7/15	訪問診療・訪問看護を導入するにあたって知っておきたいこと	東灘区医師会館	藤原
9/13	事例検討会	魚崎中町デイ	松村
9/28	ほっとかへんネット東灘	御影公会堂	柴崎
10/11 10/13	介護支援専門員更新研修	神戸ファッションマート	柴崎 藤原
10/14	法令遵守・職業倫理研修	こうべ市民福祉交流センター	正垣
10/18	認定調査員現任研修	こうべ市民福祉交流センター	柳本
10/18	ケアテックス　教育研修制度について	インテックス大阪	正垣
11/1 11/6	介護支援専門員更新研修	兵庫県教育会館	藤原 柴崎
12/8	事例検討会（支援チーム作り）	東灘区役所	藤原
1/16	総合事業にかかる説明会	文化ホール	正垣
1/31	介護支援専門員更新研修	兵庫県社会福祉研修所	藤原･島田･柴崎
2/1	介護支援専門員更新研修	兵庫県社会福祉研修所	藤原・島田
2/23	お魚の会	サンライフ魚崎	島田
2/6	介護予防研修	垂水	柳本
3/6	介護予防研修	神戸文化ホール	正垣
3/13	介護保険改正集団指導	神戸文化ホール	正垣

以上

平成 29 年度事業報告書

地域包括支援センター

魚崎北部あんしんすこやかセンター

「活力ある職場を提供し、生産性を上げる」
「迅速にかつ素早く対応できるチームワークの良い明るいセンター」

センター内のいつも言っているのは「挨拶を徹底し、個人情報には注意しながら連携を図り、気持ちよく楽しく仕事ができるような職場にしていく」である。

29 年度センターのモットーである「迅速にかつ素早く対応できるチームワークの良い明るいセンター」を実践できた。

１．高齢者への虐待防止、消費者被害防止、成年後見制度の活用等の権利擁護支援

Ⅰ　高齢者への虐待防止

平成 29 年 10 月時点で継続件数 2 件であったが、虐待としての対応は終結している。虐待が疑われるケースが 2 件あったが、区や専門機関と連携しながら入院までの支援を行った。事業所連絡会、民生連絡会、地域住民に向けて虐待防止パンフレットを配布し啓発した。センター職員が虐待研修（終結期）を受けている。

Ⅱ　成年後見制度の活用等

判断力が低下した方に、本人、身内、司法書士と相談する機会を設け、活用に至ったケースが 1 件あった。

Ⅲ　消費者被害防止

消費者被害が疑われるケースについては、消費者センターにつなげた。消地域住民に向けて時事の消費者被害の報告や対応について啓発している。

２．認知症サポートネット「お魚の会」の更なる推進（委託料 65,000 円あり）

認知症の有無に関わらず世代交流できる居場所を甲南商店街で立ち上げたいと、地域ケア会議に参加した地域住民から声が上がり、その方達と介護予防カフェ説明会に参加し、サロンさかなちゃんという居場所を、7 月立ち上げる事ができた。

7 月 27 日に第 1 回目お魚の会開催。28 名参加され、活躍できる場所がある事が介護予防や町づくりに大切であると感じて頂けた。地域で支える側の意識が高まり、8 名の方がボランティアに登録して頂けた。11 月 22 日グループホーム管理者による認知症サポーター養成講

座とグループホームについて講演された。37 名参加。「グループホームと地域との関係性作り」についてグループで意見交換会を実施し、「内覧会を開催してほしい。ボランティアできるよ。地域の居場所にグループホームの入所者が来てくれたら受け入れる。」と意見あり。内覧会実施や地域の居場所に入所者の居場所が出来た。2 月 23 日神戸大学の古和教授による「ケアに役立つ認知症の基礎知識」講演。42 名参加。

3. 介護予防普及啓発事業の推進（神戸市より委託料 80 万円あり）

5 月 17 日薬剤師による「知って役立つお薬の話」講演と体操講師による「座ってできる介護予防体操を実施。22 名参加。

9 月 20 日圏域内の内科医師による「自宅も老後で過ごすために」講演会実施。43 名参加。

1 月 24 日成年後見制度の説明。寸劇「教えて！成年後見制度」を交えて。23 名参加。

4. 地域包括ケアシステム構築の為、地域ケア会議の推進。（神戸市から 1 回につき 6､000 円委託料あり。）

6 月 28 日に第 1 回目地域ケア会議開催。「支えている人を支える事」をテーマに話し合った。グループワークで地域の皆様と「支援している人の大変さ」を共有でき、今後連携を図りながら支援していく構図が出来た。

10 月 25 日は「定年後を楽しく過ごすためには何が必要か」
定年後の男性の地域での活躍、役割について話し合った。

２月２８日は「居場所づくり」のまとめ
７月に立ち上げたサロン「さかなちゃん」やすでに地域で立ち上がっている「居場所」の説明があり。「わたしができること」を考えながら、地域での新たな「居場所づくり」について話し合った。

事業者連絡会も、地域ケア会議の後に年３回開催した。

・地域別連絡会（ケアマネ支援）

ケアマネ支援の為の連絡会等、ほぼ隔月テーマを変えて開催できた。
東灘区あんしんすこやかセンター合同にてケアマネ支援の立場から研修会を行う事ができた。5 月 24 日　病院との連絡会。7 月 13 日　口腔内研修会。
10 月 5 日感染症について。12 月 8 日事例検討会。3 月 8 日　障害との連絡会。

5. 単身高齢者・老々世帯の孤立化を防ぎ、地域に出かけていけるように。地域支え合い推進員による地域での見守りと居場所作りの推進

地域貢献をしたいと希望する企業へセンター全体での把握・アプローチを行っている。

参加しやすい活動やニーズは個々により違いがあり、活動や居場所を選択できるよう多様なサービスが求められる。地域とのつながりが薄い高齢者が今後増えていくことが予想され、自治会・マンション管理人、民生委員、婦人会、老人会等、様々な団体とも共同し広報に力を入れている。また、家族が遠方に住んでいる場合に、地域での見守り

や定期的な訪問の希望がある。

① 法人事業として、「ふれあい喫茶カフェ魚崎」をケアハウスの4階で引き続き行った。

開催月	参加者	ﾎﾞﾗﾝﾃｨｱ
5月	21名	15名
7月	37名	12名
9月	32名	9名
11月	27名	13名
1月	35名	7名
3月	33名	12名

6. リフレッシュ教室の開催※神戸市より年間介護最高 12 万円委託料あり。

介護者を対象にした介護リフレッシュ教室

4月25日：病は気から　9　名参加

7月26日：ハンドマッサージ　8　名参加

10月4日：フラワーアレンジメント　12名参加

1月31日：ソプラノ演奏　13名参加

７．介護予防マネジメント　総合相談支援

29年4月から総合事業が始まり、更新時、順次総合事業へ移行しているが、福祉用具貸与等介護予防支援が含まれる方の総合事業への切り替えを忘れる等、戸惑いがある。

委託料は、国保連から直接委託の事業所に振り込まれるようになった。

30年3月末現在、サービス利用者191件　（受託131件、委託60件）（前年比95%）委託割合31%。委託事業者（法人含む）契約件数　17件。

介護予防支援131件。総合事業60件。

新規件数81件。要介護に移行した件数33件。中止件数50件。

新規も多かったが、要介護、サービス中止になるケースが多かった。

表.1　H29年度　　収入　　（単位：円）

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	小計
H28年度実績	841,257	841,691	825,431	871,066	875,727	891,119	5,146,291
H29年度予想	998,142	998,142	998,142	998,142	998,142	998,142	5,988.852
H29年度実績	953,555	931,034	992,686	1,005,260	990,843	956,373	5,859,751
前年度差異	112,298	89,343	167,257	134,194	115,116	65,254	713,460

月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	小計
H28 年度実績	897, 189	900, 441	905, 102	928, 407	904, 668	939, 572	5, 463, 379
H29 年度予想	998, 142	998, 142	998, 142	998, 142	998, 142	998, 142	5, 988. 852
H29 年度実績	940, 547	925, 155	961, 034	926, 564	931, 659	906, 511	5, 591, 470
前年度差異	43, 358	24, 714	55, 932	−1, 843	26, 991	33, 061	182, 213

8. 包括的、継続的ケアマネジメント

表. 2　H29 年度相談対応者数　（単位：件数）

月	総合相談支援	※介護予防ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	権利擁護	包括的継続的ｹｱﾏﾈｼﾞﾒﾝﾄ	地域支え合い活動推進事業	その他	合計	前年	前年比
4 月	136	325	27	32	121	30	671	820	82%
5 月	93	388	14	46	51	25	617	629	98%
6 月	81	401	8	233	52	50	825	760	109%
7 月	233	388	12	44	258	47	982	792	89%
8 月	186	354	9	55	179	22	805	856	94%
9 月	190	297	0	39	217	27	770	724	106%
10 月	164	348	1	48	135	30	726	800	91%
11 月	179	332	3	50	149	30	743	749	99%
12 月	124	334	7	54	106	48	673	904	74%
1 月	129	325	0	69	76	39	638	765	83%
2 月	215	305	5	62	185	24	796	745	107%
3 月	166	356	0	46	154	21	743	759	98%
合計	920	2153	70	449	878	201	4671	4581	102%

表. 3※介護予防支援ケアネジメント内訳　（単位：件数）

	電話	来所	訪問	その他	合計	前年	前年比
4 月	199	5	107	14	325	238	137%
5 月	259	7	102	20	388	230	169%
6 月	243	6	130	22	401	231	174%
7 月	218	9	126	35	388	317	122%
8 月	210	10	124	10	354	349	101%

9 月	199	2	92	4	297	324	92%
10 月	228	9	101	10	348	346	101%
11 月	206	1	113	12	332	374	89%
12 月	176	4	130	24	334	398	84%
1 月	224	4	86	11	325	408	80%
2 月	210	5	72	18	305	353	86%
3 月	215	4	128	9	356	390	91%
合計	1,328	39	681	105	2,153	1,689	127%
前年	1,039	35	510	105	1.689		

以上

○20%時間削減業務達成計画

① モニタリング記録は最低限にして、記録時間の削減。

② よく話す人の訪問時間を工夫し、サービス提供前に訪問し、サービス開始時には終了できるようにした。

③ 研修は、「必須研修」「県主催研修」以外はなるべく控えた。

以上 3 点、時間削減目標は達成できた。